

み ひろ いし  
三尋石遺跡Ⅲ

1999年3月

長野県飯田市教育委員会

み ひろ いし  
三 尋 石 遺 跡 Ⅲ

1999年3月

長野県飯田市教育委員会

# 序

飯田市は「人も自然も美しく、輝くまち飯田ー環境文化都市」として基本計画に示すとおり、山紫水明の自然環境に恵まれ、原始・古代より多くの人々が生活を営んできた地域であります。近年全国的に進められている開発工事は、この飯田市に於いても例外でなく、現在まで保存されてきた埋蔵文化財が破壊されつつあります。本来ならば過去から現在まで保存されてきたと同様に地中に保存していくのが最善の方法ですが、地域社会の発展を考える上に於いては、発掘調査を行い記録保存することによって、後世に埋蔵文化財を残すことはやむを得ないことと考えております。

今回発掘調査を実施した三尋石遺跡は、飯田市伊賀良地区に所在し縄文時代を中心とした遺跡です。本遺跡内に市営三尋石団地を改築するという事で発掘調査を行いました。この調査により、縄文時代と弥生時代の集落跡が発見され、当時の人々の暮らしぶりを垣間見た気が致します。このように、これらの発掘調査の積み重ねによって地域の歴史の再構築が行われ、ひいてはその成果が私たちの生活に還元されていくものであります。

最後になりましたが、調査実施にあたり文化財保護の本旨に厚いご理解を賜った飯田市建設部、土地所有者の方・地元の皆様・現地・整理作業に従事された作業員の皆様に深甚なる謝意を申し上げる次第であります。

平成11年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

# 例 言

1. 本報告書は三尋石団地公営住宅建て替えに伴い実施された、飯田市伊賀良地区所在の埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は飯田市建設部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成8年度現地作業を、10年度整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 発掘調査及び整理作業は、一貫してMHI 1971-1を用いた。また、遺構には以下の略号を用いた。  
 竪穴住居址・SB 掘立柱建物址・ST 溝址・SD 集石・SI 土坑・SK
5. 本遺跡は平成3・4年度に土地改良総合整備事業に伴い、1次・2次の発掘調査がおこなわれており、今次調査は3次調査として扱う。よって遺構番号は2次調査の連番とした。
6. 三尋石遺跡に於ける発掘調査位置は国土基本図の区画、MC-05にそれぞれ位置し（社団法人日本測量協会 1969 「国土基本図図式 同適用規定」 参照）、グリッド設定は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、株式会社ジャステックに委託した。
7. 本書の記載については遺構の順とし、住居址については時代順とした。遺構図・遺物図版・写真図版等は本文末に一括した。
8. 土層観察については小山正忠・竹原秀男 1996 『新版標準土色帖』による。
9. 土器実測の一部については(株)シン技術コンサルに委託した。
10. 遺物写真撮影は、株式会社ジャステックに委託した。
11. 遺物実測図の縮尺については、下記のとおりである。  
 土器 復元実測図1/4 及び1/6、拓本及び断面1/3、土製品2/3  
 石器 小型石器1/1、大型石器1/4、他1/3
12. 石器実測図の表現については「T」刃潰し加工・「K」敲打・「S」研磨を示す。詳細は、(飯田市教育委員会 1998 『美女遺跡』)を参照のこと。
13. 本書は担当者の協議の上、吉川金利が執筆・編集し、小林正春が総括した。
14. 本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。



# 目 次

序		⑭ S B 25	14
例 言		(2) 弥生時代	
		① S B 14	15
		② S B 15	15
目 次		③ S B 21	16
		④ S B 22	16
		⑤ S B 23	17
I 調査の経過		3. 掘立柱建物址 (S T)	
1. 調査に至るまでの経過	1	① S T 01	17
2. 調査の経過	1	4. 土坑 (S K)	
3. 調査組織	1	S K 148 ~197	17
4. 事務局	2	5. ピット	19
		6. 土層観察表	20
II 遺跡の環境		IV まとめ	
1. 自然環境	3	1. 集落について	23
2. 歴史環境	3	2. 出土遺構について	24
		3. 出土遺物について	24
III 調査結果		図版	25
1. 基本層序	7	写真図版	101
2. 竪穴住居址 (S B)		報告書抄録	125
(1) 縄文時代			
① S B 07	8		
② S B 08	8		
③ S B 09	9		
④ S B 10	9		
⑤ S B 11	10		
⑥ S B 12	10		
⑦ S B 13	11		
⑧ S B 16	11		
⑨ S B 17	12		
⑩ S B 18	12		
⑪ S B 19	13		
⑫ S B 20	13		
⑬ S B 24	14		

# I 調査の経過

## 1. 調査に至るまでの経過

平成6年度に飯田市建設部建設課より飯田市大瀬木地区に所在する三尋石団地公営住宅建替事業に伴う発掘調査の依頼が飯田市教育委員会にあった。そこで平成6年9月29日に県教育委員会・開発主体者である飯田市建築課建築係・飯田市教育委員会の三者により埋蔵文化財保護協議が行なわれた。その結果、当該地は埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡内にあたり、埋蔵文化財の保存が望まれるが、工事の変更は不可能であるとの結論に達し、遺跡の状況を把握するべく試掘調査を行い、その結果改めて協議を行う事となった。

保護協議の結果を受けて平成7年度に試掘調査を行った結果、縄文時代中期と思われる竪穴住居址及び同時期の土器片が検出された。よって開発主体者・教育委員会の両者により保護協議を行った結果、工事対象地区は発掘調査を行い記録保存する事となった。

## 2. 調査の経過

上記の協議結果を踏まえ、飯田市教育委員会によって発掘調査を行った。

平成8年6月11日から重機により表土剥ぎを行い、13日に遺構測量用の基準点測量を委託した。作業員による精査は19日より開始した。当該地区は、ほぼ住宅の中心に辺り、排土の崩落事故を回避するべく調査区内から排土を排除する方法を採用した。排土は、調査のため廃止された駐車場の代替地に埋め立てた。調査の進行に伴い、順次表土剥ぎ及び基準点測量を調査と並行して行い、9月1日には調査の成果を地域に公表するべく遺跡見学会を開催し、多くの方々に見学していただいた。

調査は9月13日に空中写真を委託し、旧住宅跡地については全調査を終了した。市道部分については通行止の処置を行い9月17日より表土剥ぎを行い、一時中断があったが、10月29日に調査の全日程を終了した。

整理作業及び報告書作成については平成10年7月6日に飯田市建設部長より予算書の提出の依頼があり、同日より平成10年度の作業を開始した。

## 3. 調査組織

### (1) 調査団

調査主体者 飯田市教育委員会 教育長 小林恭之助

調査担当者 吉川 金利 福沢 好晃

調査員 佐々木嘉和 吉川 豊 山下 誠一 西山 克己(平成10年度)

	馬場 保之	下平 博行	伊藤 尚志	上沼 由彦 (平成7・8年度)	
	鳴海 紀彦 (平成9年度)				
作 業 員	新井 幸子	新井ゆり子	池田 幸子	市瀬 長年	伊東 裕子
	大原千和喜	金井 照子	金子 裕子	唐沢古千代	北側 彰
	北沢 兼雄	吉地 武虎	木下 早苗	木下 傳	木下 玲子
	小平 晴美	小平まなみ	齊藤 徳子	坂下やすゑ	佐々木恒之
	佐々木美千枝	佐藤知代子	斯波 幸枝	清水 三郎	清水 恒子
	代田 和登	菅沼和加子	高木 純子	高橋 恭子	滝上 正一
	竹本 常子	筒井千恵子	中平けい子	仲田 昭平	中田 恵
	服部 光男	林 達郎	林 ひとみ	原 昭子	平栗 陽子
	福沢 育子	福沢 幸子	福沢 誠	藤本 宏	細田 七郎
	牧内 八代	牧田 許江	松井 明治	松下 金誉	松下 直市
	松下 光利	松島 直美	三浦 厚子	南井 規子	宮内真理子
	森山 律子	山田 康夫	吉川 和夫	吉川紀美子	吉沢佐紀子

#### 4. 事 務 局

飯田市教育委員会社会教育課 (～8. 6) 博物館課 (8. 7～)

横田 穆	(社会教育課長～8. 6)
矢沢 与平	(博物館課長8. 7～9. 3)
小畑伊之助	(博物館課長9. 4～)
小林 正春	(社会教育課文化係長～8. 6 博物館課埋蔵文化財係長8. 7～)
吉川 豊	(社会教育課文化係～8. 6 博物館課埋蔵文化財係8. 7～)
山下 誠一	( " " )
馬場 保之	( " " )
吉川 金利	( " " )
福沢 好晃	( " " )
下平 博行	( " " )
伊藤 尚志	( " " )
上沼 由彦	((財)長野県埋蔵文化財センター出向7. 4～9. 3)
西山 克己	( " " 10. 4～11. 3)
岡田 茂子	(社会教育課社会教育係～8. 6)
牧内 功	(博物館課庶務係8. 7～)

## Ⅱ 遺跡の環境

### 1. 自然環境（第1・2図）

飯田市は赤石山脈（南アルプス）と木曾山脈（中央アルプス）に挟まれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に平行する河岸段丘地形を特徴とするが、これは両山脈の形成にかかわる断層地塊運動に伴い盆地や大きな段丘崖が形成された結果であり、天竜川支流の開析等による段丘・扇状地とあいまって複雑な地形を呈している。

三尋石遺跡が所在する伊賀良地区は、西側と東側で大きく地形が変化している。西半は木曾山脈の前山である笠松山（1271m）・高鳥屋山（1397m）東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山を源流とする入野沢川・南沢川・滝沢川・新川などの河川によって形成された広大な扇状地が広がる。扇端はおおむね北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村は長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるが、この扇状地は小河川により幾重にも複合して形成されているため、比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅も見られる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は、現在では堆積作用により下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、開析谷の規模は比較的小さい。

これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面が多くを占めており、扇端から離れるほど地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への井水の開削が繰り返し行われ、大井をはじめ多くの井水が付設されているほか、地区内の大小河川は大規模な河川改修が行われてきた。

本遺跡は伊賀良地区西側にあたり、滝沢川により形成された扇状地に位置し、南北700 m・東西1050 m、面積62.5haを測る。調査地点は遺跡内北側に位置し、南側には下新井沢川が、北側には細田沢川がそれぞれ流れている。地形的には扇状地の扇央部にあたり、南東に急傾斜する地点であり、その比高差は約7 mを測る。また、標高は調査区中央部で約635 mであり、市内に於いては高標高の遺跡である。

### 2. 歴史環境（第2図）

伊賀良地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、これまで発掘調査がなされた遺跡は、学術調査による立野(1)・山口(2)・西の原各遺跡、中央自動車道建設にかかる与志原・上の平東部・寺山・六反田・大東(3)・酒屋前(4)・滝沢井尻(5)・小垣外（辻垣外）(6)・三壺淵・上の金谷各遺跡、一般国道153号飯田バイパス建設にかかる殿原(7)・八幡面・小垣外各遺跡、広域農道西部山麓線建設にかかる飯田垣外・火振原(8)・梅ヶ久保・細田北(9)・北方大原(10)・直刀原(11)・河原林・入野・北方北の原各遺跡、諸開発に伴う中島平・宮ノ先・鳥屋平・下原(12)・高野・公文所前・中村中平(13)・増泉寺付近(14)・三尋石・富の平(15)・富士塚・中川・経塚原・柵口(16)・はりつけ原(17)各遺跡等、枚挙に遑がない。

こうした文化財に表れた先人たちの足跡は縄文時代早期まで溯る。立野遺跡・山口遺跡といった縄文

時代早・前期の遺跡は主に笠松山麓の比較的標高の高い所に立地している。前期終末では辻垣外・殿原遺跡等扇状地の扇端付近の遺跡で竪穴住居址が調査されている。中期の遺跡は伊賀良地区の広範に分布しており、中央自動車道・西部山麓線路線にかかる扇状地上の諸遺跡や下原・公文所前といった段丘上の遺跡がある。殊に北方大原・下原・増泉寺付近遺跡では、該期中葉から後葉の大集落の一面が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、茂都計川に面した中村中平遺跡で、配石址・竪穴住居址・配石墓等の遺構や土偶・土製耳飾り・石棒・石剣を含む多量の遺物が調査され、不明な点が多かった該期の様相が解明されると期待されている。また、酒屋前・辻垣外・殿原遺跡で断片的な資料ではあるが遺構・遺物が確認されている。

弥生時代においても集落立地は基本的には縄文時代と変わらないと考えられるが、前期・中期についてはなお不明である。後期になると遺跡数が増加すると共に調査例も増す。これまで調査された遺跡としては、大東・上の金谷・酒屋前・滝沢井尻・宮ノ先・中島平・中村中平・柵口・はりつけ原遺跡等がある。該期の集落展開としては、扇状地末端の湧水線及び西方前山から東流する大小河川を利用した水田経営と高位段丘上での陸耕を基盤とするものが考えられる。殿原遺跡ではこれまで90軒にのぼる竪穴住居址が調査される等、大規模な集落が営まれていたことが判明している。また、細田北遺跡では標高700 mを超える高所から2軒の竪穴住居址が発見されており、人口の爆発的な増加とこうした高所にまで生産基盤を拡大するまでに至る生産力の向上を看取できる。

古墳は伊賀良地区では52基が確認されているが、現存するものは9基にすぎない。隣接する竜丘・松尾地区に比べ数も少なく、いずれも規模の小さい円墳である。また、該期の集落址の調査例は少なく、中期の上の金谷・富の平遺跡・後期の三壺淵・中島平・中村中平遺跡が調査されているのみである。遺跡数も前時代に比べると著しく減少しており、湧水・湿地を控えた集落の展開が考えられる。中村中平遺跡では、遺跡北側の台地の縁に大名塚古墳が現存し、ほかに消滅したものとして中村狐塚古墳・寺畑古墳・宮原2号古墳があり、これらの築造を担った集落であろう。また、地区内北方地籍には条里が敷かれたとも指摘されており、水田経営の定着した姿を想定する事ができよう。

奈良時代については、具体的な遺構・遺物の調査例は中村中平遺跡のみであり、掘立柱建物址が単独で調査されたのみで、詳細は不明である。地区内には、古代東山道の経路及び「育良駅」の推定地や、荘園を構成する村落の起源等に関連すると思われる箇所があり、重要な役割を果たした地区という事ができる。

平安時代については、その末期に伊賀良庄の名が文書に登場する。その中には中村・久米・川路・殿岡が含まれる事が文献等により明らかにされており、当地区がその中心的な位置を占めていた事が考えられる。当地方における大規模な井水開発の歴史は、この時代に始まるともいわれている。殿原遺跡の調査結果はこうした説をある程度裏付けるものといえる。一方、これまで実施された発掘調査の結果、六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺淵・上の金谷・宮の先・公文所前遺跡等地区内のほぼ全域にわたり、集落址の一部が調査されている。伊賀良庄の成立がどこまで溯るかは不明であるが、この時代の集落が前時代よりも増加する事はこの地区の開発が一段と進んだ証左であろう。隣接する山本久米地区には真言宗の古刹光明寺がある。胎内に「保延六(1140)年」の銘をもつ薬師如来坐像がある事から、寺の創建はこれより遡ると考えられ、伊那谷の中ではいち早く中央の文化を取り入れた先進地域の一つであったと思われる。さらにこの時代には三日市場地籍に須恵器を生産した土器(かわらけ)洞窯跡があり、こ

ここで生産された須恵器が下伊那全域に分布するなど、手工業生産の発達が見られる。

中世においては鎌倉時代には北条時政が伊賀良庄地頭であり、以後一族の江馬氏がこれを継いだ。その地頭代が地区内に居を構えたことは疑いなく、鎌倉末期には荘園を自領化していたことが三浦和田文書に窺える。この時代の文化財としては、藤原様式の流れを汲む鎌倉初期の光明寺の阿弥陀如来坐像（国指定重要文化財）がある。

北条氏の滅亡後、信濃守護職小笠原氏は伊賀良庄を与えられ、その下で伊賀良地区の開発は急速に進んだとされる。地区内の井水の大半はこの時代の開発と考えられ、小笠原氏の勢力伸長の基盤として当地区が大きな役割を果たしたといえる。室町時代中期以降、小笠原氏内訌に伴い松尾城・鈴岡城の支城が各地に築かれ、地区内には下の城跡・桜山城跡・三日市場城跡などがある。

以上、各時代について概観したが、こうした歴史の脈絡の中で、今次調査の成果がどのように位置付けられるかは、本書の内容により明らかにされるといえる。







## 2. 竪穴住居址 (S B)

### (1) 縄文時代

#### ① S B07 (第5図)

検出位置	B L-29	覆土	単層								
重切る	なし	床面	堅固で中央部貼床あり								
複切られる	S K150	住居内施設	主柱穴	P1~P6 6本柱	埋	場所	南南東壁際				
規模・形状	プラン		円形	周溝		部分的にあり	甕	状況			
	規模 m		5.0×4.8	入口		不明		埋甕 1	正位	ほぼ完形	
	主軸		N53° W	炉・甕		形状			(石囲炉)	30-1	
	壁高 cm		25			規模 cm			126×(94)	埋甕 2	逆位
	状態		ほぼ垂直	特記事項		石の抜痕あり					
出土遺物 (第30・55図)											
深鉢											
打製石斧 横刃形石器 小型磨製石斧 石鏃 石匙											
特記事項											
周溝が部分的にある											
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物								

#### ② S B08 (第6図)

検出位置	B O-20	覆土									
重切る	なし	床面	堅固								
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P4か 6本柱	埋	場所	不明				
規模・形状	プラン		円形	周溝		部分的にあり	甕	状況			
	規模 m		5.6×(4.6)	入口		不明		埋甕			
	主軸		N29° E	炉・甕		形状			(石囲炉) 副炉あり		
	壁高 cm		17			規模 cm			攪乱により底部のみ残		
	状態		ほぼ垂直	特記事項							
出土遺物 (第30・31・32・55・56・65・66図)											
深鉢											
打製石斧 横刃形石器 磨製石斧 石皿											
特記事項											
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物								

③ S B09 (第7図)

検出位置	BM-24	覆土	図版参照					
重切る	なし	床面	堅固で部分的に貼床あり					
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1・P2 4本柱か	埋場所	不明		
規模・形状	プラン		(円形)	周溝		ほぼ全周する	甕	状況
	規模 m		(2.8) × 5.0	入口	不明			
	主軸		N47° W	炉・甕	形状	(石囲炉)		
	壁高 cm		40		規模 cm	160 × 134		
	状態		やや緩やか	特記事項	石の抜痕あり			
出土遺物 (第32・33・56図)								
深鉢 打製石斧								
特記事項 周溝が二重あるので改築の可能性がある。P3は改築前の主柱穴と思われる。 ½程度が造成により削平されている。								
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物					

④ S B10 (第8図)

検出位置	BP-24	覆土	単層 10YR $\frac{3}{4}$ 褐色						
重切る	なし	床面	堅固で中央部貼床あり						
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P6 P7~P11 6本柱	埋場所	南南西壁際			
規模・形状	プラン		円形	周溝		部分的にあり	甕	状況	
	規模 m			入口		正位 ほぼ完形 34-1			
	主軸			炉・甕	形状				(石囲炉)
	壁高 cm				規模 cm				150 × 128
	状態			特記事項	石の抜痕あり。炉内南側の掘込みは旧炉と思われる。				
出土遺物 (第33・34・35・57図)									
深鉢 釣手土器 磨石 石錘 石鏃									
特記事項 改築されている。P1~P6が新しい主柱穴でP7~P11が旧と思われる。									
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物						

⑤ SB11 (第9図)

検出位置	BR-26	覆土	単層 10YR2/2 (黒褐色)Lic粘性ややありしまりあり							
重切る	SB12・13	床面	明確で堅固							
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P5 6本柱か	埋	場所	不明			
規模・形状	プラン		円形に近い隅丸方形	周溝		ほぼ全周する	甕	状況		
	規模 m		5.6×6.0	入口		不明				
	主軸		N37° W	炉		形状				(石囲炉)
	壁高 cm		48			規模 cm				180×160
	状態		ほぼ垂直	甕		特記事項				石の抜痕あり
出土遺物 (第35・36・37・38・39・40・54・57・58・59・66図)										
深鉢										
打製石斧 横刃形石器 敲打器 磨石 石鏃 石皿										
土偶頭部 土製円盤										
特記事項										
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物							

⑥ SB12 (第7図)

検出位置	BT-27	覆土								
重切る	SB13	床面	全体に堅固な貼床							
複切られる	SB11	住居内施設	主柱穴	不明	埋	場所	不明			
規模・形状	プラン		(円形)	周溝		なし	甕	状況		
	規模 m		(5.5) × (5.0)	入口		不明				
	主軸		(N70° W)	炉		形状				(石囲炉)
	壁高 cm		14			規模 cm				116×68
	状態		やや緩やか	甕		特記事項				石囲炉と思われるが確たる根拠はない。
出土遺物 (第40・59・60図)										
深鉢										
打製石斧 横刃形石器 石錘										
特記事項										
主柱穴は住居内のいずれかのピットと思われるが確定できない。										
時期	縄文時代中期後葉	根拠	遺構形態 出土遺物							

⑦ S B13 (第10図)

検出位置	B T-27	覆土					
重切る	なし	床面	明確で堅固				
複切られる	S B11・12	住居内施設 ・ 甕	主柱穴	不明	埋場所	不明	
規模・形状	プラン		円形	周溝		ほぼ全周する	甕
	規模 m		(6.5) × (6.4)	入口	不明		
	主軸		N91° W	炉形状	(石囲炉)		
	壁高 cm		40		規模 cm		
	状態		ほぼ垂直	特記事項	多くが S B11・12 に切られて底部のみ検出		
出土遺物 (第40・41・59・60図) 深鉢 打製石斧 横刃形石器 石錘 石鏃							
特記事項 主柱穴は住居内のいずれかのピットと思われるが確定できない。							
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物				

⑧ S B16 (第11図)

検出位置	A D-30	覆土					
重切る	なし	床面	堅固で明確な貼床				
複切られる	S B15・20 S K151	住居内施設 ・ 甕	主柱穴	不明	埋場所	不明	
規模・形状	プラン		不明	周溝		なし	甕
	規模 m		不明	入口	不明		
	主軸		不明	炉形状	不明		
	壁高 cm		4		規模 cm		
	状態			特記事項			
出土遺物 (第41図) 深鉢片							
特記事項 床面のみ検出							
時期	縄文時代中期後葉	根拠	遺構形態 出土遺物				



⑨ S B17 (第11図)

検出位置	BY-30	覆土						
重切る	なし	床面	堅固で明確な貼床					
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P3	埋	場所	不明	
規模・形状	プラン		(円形)	周溝		全周	甕	状況
	規模 m		(1.4) × (4.5)	入口	不明			
	主軸		不明	炉形状	不明			
	壁高 cm		58	規模 cm				
形状	状態	ほぼ垂直	特記事項					
出土遺物 (第41図)								
深鉢								
特記事項								
¾以上が造成の削平により消失しており、詳細は不明。								
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物					

⑩ S B18 (第12図)

検出位置	BY-31	覆土						
重切る	S B18	床面	堅固で明確な貼床					
複切られる	S B14	住居内施設	主柱穴	P1~P4 4本柱	埋	場所	不明	
規模・形状	プラン		円形に近い隅丸方形	周溝		部分的にある	甕	状況
	規模 m		6.0 × (4.0)	入口	P5・6			
	主軸		N13° E	炉形状	石囲炉			
	壁高 cm		54	規模 cm	136 × 164			
形状	状態	ほぼ垂直	特記事項					
出土遺物 (第41・42・43・54・60・61・67図)								
深鉢								
打製石斧 横刃形石器 小型磨製石斧 敲打器 磨石 凹石 石鏃 石皿 石棒								
土製円盤								
特記事項								
⅓が造成の削平により消失している								
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物					

⑪ S B 19 (第12図)

検出位置	AA-32	覆土								
重切る	なし	床面								
複切られる	SB18	住居内施設	主柱穴	P1~P3 4本柱	埋	場所	不明			
規模・形状	プラン		円形	周溝		部分的	甕	状況		
	規模 m		(1.0) × (4.0)	入口		不明				
	主軸		N74° W	炉		形状		(石囲炉)		
	壁高 cm		31			規模 cm		80×60		
	状態		ほぼ垂直	甕		特記事項		石の拔痕あり		
出土遺物 (第44・61図) 深鉢片 横刃形石器										
特記事項 ¾以上が造成の削平により消失しており、詳細は不明										
時期	縄文時代中期後葉	根拠	遺構形態							

⑫ S B 20 (第13図)

検出位置	AD-32	覆土	図版参照							
重切る		床面	明確であるが軟弱							
複切られる	SK151・158	住居内施設	主柱穴	P1~P7	埋	場所	炉址北北東側			
規模・形状	プラン		円形	周溝		ほぼ全周する	甕	状況		
	規模 m		(7.0) × (7.0)	入口					逆位 頸部以上 44-4	
	主軸		N163° E	炉		形状		(石囲炉)	甕	いわゆる入口部にあるものと異なる
	壁高 cm		45			規模 cm		168×150		
	状態		ほぼ垂直	甕		特記事項		南西角に副炉と思われる遺構あり		
出土遺物 (第44・54・61・62図) 深鉢 打製石斧 横刃形石器 磨石 二次加工のある剥片 土製円盤										
特記事項										
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物							

⑬ S B 24 (第14図)

検出位置	A I - 31	覆土			
重切る	S B 25	床面	明確		
複切られる		住居内施設	主柱穴 P1~P3か	埋場所 不明	
プラン (円形)			周溝 なし		状況
規模 m	不明		入口	甕	
主軸	不明		炉・甕		形状 不明
壁高 cm	33				規模 cm
状態	ほぼ垂直		特記事項		
出土遺物 (第45・62図)					
深鉢片					
打製石斧					
特記事項					
焼失家屋					
1/3程度調査したのみであり、詳細は不明					
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物		

⑭ S B 25 (第14図)

検出位置	A H - 31	覆土			
重切る		床面	明確であるが軟弱		
複切られる	S B 24	住居内施設	主柱穴 P1~P4・P7~P9	埋場所 不明	
プラン 円形			周溝 部分的にあり		状況
規模 m (4.1) ×			入口	甕	
主軸 N66° W			炉・甕		形状 石囲炉
壁高 cm 43					規模 cm 140×150
状態 ほぼ垂直			特記事項		石が底部に残存
出土遺物 (第45・46・47・62・63図)					
深鉢					
打製石斧 横刃形石器 磨製石斧 磨石 石鏃 石錐					
特記事項					
時期	縄文時代中期後葉	根拠	出土遺物		

## (2) 弥生時代

## ① S B14 (第15図)

検出位置	BY-31	覆土	単層 10YR3/3 (暗褐) Lic粘性・しまりなし(10YR5/8が25%混じる)		
重切る	SB18・19	床面	壁際軟弱であるが全体的に堅固な貼床		
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P4	
規模	プラン (隅丸方形)		貯蔵穴	なし	
	規模 m (2.3) × 4.4		入口	不明	
形状	主軸 N81° W		炉・甕	形状	土器埋設炉
	壁高 cm 37			規模 cm	32×32
	状態 ほぼ垂直			特記事項	埋設土器は47-17
出土遺物 (第47図) 壺 甕 台付甕 鉢					
特記事項 ½程造成により削平されている。					
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物		

## ② S B15 (第15図)

検出位置	AE-31	覆土	ほとんどなし		
重切る	SB16・20	床面	実線部貼床で堅固		
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴	P1~P4か	
規模	プラン (隅丸方形)		貯蔵穴	なし	
	規模 m (3.2) × (3.5)		入口	不明	
形状	主軸 N17° W		炉・甕	形状	旧：地床炉 新：炉縁石を有する土器埋設炉
	壁高 cm 4			規模 cm	旧：28×38 新：30×44
	状態 ほとんどなし			特記事項	貼床下に地床炉らしき遺構あり 埋設土器48-3
出土遺物 (第48・64図) 壺 甕 横刃形石器 磨製石斧					
特記事項 貼床下に地床炉らしき遺構があったため、増改築があった可能性あり。					
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物		

③ S B 21 (第16図)

検出位置	AA-27	覆土		
重切る	ST01・SK	床面	タタキ状で堅固な貼床	
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴 P1~P4	
プラン	隅丸方形		貯蔵穴	
規模 m	3.6 × (3.2)		入口	P5周辺 土手状縁部あり
主軸	N68° W		炉・甕	形状 土器埋設炉 土器48-4
壁高 cm	35			規模 cm 38×32
状態	ほぼ垂直			特記事項
出土遺物 (第48・64図)				
甕 打製石斧 石鏃 (いずれも混入品と思われる)				
特記事項				
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物	

④ S B 22 (第16図)

検出位置	AB-23	覆土	単層 10YR4/3 (にぶい黄褐色)LIC粘性ややありしまりあり	
重切る	なし	床面	壁際を除きタタキ状で貼床	
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴 P1~P4	
プラン	(隅丸方形)		貯蔵穴	なし
規模 m	(2.3) × 4.0		入口	不明
主軸	N55° W		炉・甕	形状 炉縁石を有する土器埋設炉
壁高 cm	12			規模 cm 49×44
状態	やや緩やか			特記事項
出土遺物 (第48図)				
壺 甕 高杯				
特記事項 ½程度造成により削平されている。				
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物	

⑤ S B 23 (第17図)

検出位置	A E - 25	覆土	図版参照	
重切る	なし	床面	中央部タタキ状で堅固な貼床	
複切られる	なし	住居内施設	主柱穴 P1・P2	
規模	プラン (隅丸方形)		貯蔵穴	不明
	規模 m (2.8) × 4.7		入口	不明
形状	主軸 N65° W		炉	形状 炉縁石を有する地床炉
	壁高 cm 30			規模 cm 44×42
	状態 ほぼ垂直			特記事項
出土遺物 (第48・64図)				
壺 甕				
打製石斧 横刃形石器 磨石 (朱の痕跡あり)				
特記事項				
½程度造成により削平されている。				
時期	弥生時代後期	根拠	出土遺物	

3. 掘立柱建物址 (S T)

No.	図No.	検出位置	規模(梁行×桁行)m	柱間m	覆土	時代・時期	出土遺物	備考
01	18	B Y - 28	4 × 8.8	梁 4 桁2~3.5		縄文中期後葉	深鉢	

4. 土坑 (S K)

No.	図No.	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	重複	時代・時期	出土遺物	備考
148	19	B D - 28	114 × 106 × 62	円形			縄文中期中葉末	深鉢	
149	19	B E - 27	210 × 126 × 64	楕円形			縄文中期		
150	19	B L - 29	(46) × 68 × 24	楕円形			縄文中期後葉		
151	19	A D - 30	112 × 98 × 95	円形			縄文中期後葉		
152	20	A D - 29	(124) × 122 × 56	楕円形					
153	19	A F - 29	102 × 78 × 82	不定形					
154	20	A F - 30	114 × 100 × 110	円形			縄文中期後葉		
155	20	A E - 29	(100) × 120 × 32	円形			縄文中期		



No.	図No	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	重複	時代・時期	出土遺物	備考
156	20	A C - 29	76 × 66 × 162	長方形					
157	20	A D - 29	140 × 112 × 132	不定形			縄文中期中葉末	深鉢	
158	19	A D - 30	140 × 114 × 90	楕円形			縄文中期		
159	20	A C - 29	120 × 94 × 134	楕円形			縄文中期		
160	21	A D - 28	92 × 84 × 166	円形			縄文中期後葉		
161	21	A D - 28	114 × 80 × 250	楕円形			縄文中期中葉		
162	21	A C - 28	162 × 148 × 66	円形			縄文中期後葉		
163	21	A E - 28	102 × 88 × 230	円形					
164	22	A E - 28	66 × 58 × 80	円形			縄文中期中葉末		
165	22	A C - 27	(86) × (78) × 168	円形			縄文中期?		
166	21	B Y - 25	154 × 94 × 90	楕円形					
167	22	A B - 29	110 × 82 × 222	楕円形			縄文中期		
168	22	A B - 28	118 × 88 × 104	楕円形			縄文中期	深鉢	
169	22	A A - 29	57 × 52 × 154	円形			縄文中期後葉	深鉢	
170	22	B Y - 28	110 × 80 × 138	楕円形			縄文中期後葉	深鉢	
171		S T 01に変更							
172	22	A B - 29	(76) × 80 × 150	楕円形			縄文中期後葉	深鉢	
173		欠番							
174	22	A D - 27	98 × (74) × 208	円形			縄文中期後葉	深鉢	
175	23	A A - 27	78 × 70 × 202	円形			縄文中期後葉	深鉢	
176		S T 01に変更							
177	22	B W - 24	88 × 82 × 74	円形			縄文中期	深鉢	
178		S T 01に変更							
179		S T 01に変更							
180	22	A B - 28	(76) × 86 × 102	楕円形			縄文中期後葉	深鉢	
181		S T 01に変更							
182	23	B X - 28	(108) × 110 × 116	楕円形					
183	23	B Y - 26	(184) × 144 × 101	楕円形					
184		S T 01に変更							
185	23	B U - 26	88 × 76 × 58	楕円			縄文後期初頭	深鉢	
186		S T 01に変更							
187	23	B X - 26	114 × 102 × 52	円形			縄文中期	深鉢	
188		S T 01に変更							
189	24	B Y - 28	130 × 118 × 104	円形			縄文中期後葉	深鉢	
190	24	A Y - 28	202 × 82 × 116	不定形			縄文中期	深鉢	
191	23	A B - 28	142 × 118 × 64	楕円			縄文中期後葉	深鉢	

No.	図No	検出位置	規模(長×短×深)cm	形態	覆土	重複	時代・時期	出土遺物	備考
192		A B - 27	140 × 118 × 144	円形			縄文中期	深鉢	
193		A B - 27	124 × 68 × 18	方形			縄文中期後葉	深鉢	
194		A A - 27	( ) × 116 × 130	楕円			縄文中期後葉	深鉢	
195		B T - 19	86 × 84 × 144	円形			縄文中期後葉	深鉢	
196		A F - 28	122 × 112 × 67	円形			縄文中期後葉		
197		A D - 29	144 × 102 × 44	楕円					
198		A D - 30	104 × 96 × 88	円形					

## 5. ピット (第25～29図)

各遺構についての説明は省略し、遺構図のみ掲載する。

## 6. 土層観察表

遺構名	層	JIS 標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備考
S B 07 炉 埋甕1 埋甕2	1	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	なし	10YR6/6(明黄褐色土)5%混じる 炭化物混じる
	2	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	なし	10YR6/6(暗褐色土)2%混じる 炭化物なし
	1	7.5YR4/4	褐色土	L i C	あり	ややあり	10YR5/6(黄褐色土)10%混じる 炭化物少量混じる
	1	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	あり	
S B 08 炉	1	10YR4/4	褐色土	L i C	あり	ややあり	
	2	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	ややあり	炭化物2%混じる
	3	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	ややあり	10YR6/6(明黄褐色土)3%焼土2%混じる
S B 09 炉	1	10YR3/3	暗褐色土	S C L			
	2	10YR3/2	黒褐色土	S C L			炭混じる
	3	10YR4/4	褐色土	S C L			炭混じる
	4	10YR6/6	明黄褐色土	S C L			
	1	10YR2/2	黒褐色土				
	2	10YR3/3	暗褐色土				黄色土ブロック、炭混じる
	3	10YR4/6	褐色土				焼土混じる
	4	10YR5/4	鈍い黄褐色土				
	5	10YR5/6	黄褐色土				
S B 10 炉	1	10YR2/3	黒褐色土				炭混じる
	2						
	3	10YR2/3	黒褐色土				

遺構名	層	JIS 標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備 考
S B 10埋甕	1	10YR3/4	暗褐色土				10YR7/6(明黄褐色土)が20%混じる 炭化物少々混じる 炭化物少々混じる
	2	10YR3/4	暗褐色土				
	3	10YR4/3	鈍い黄褐色土	L i C			
S B 11 炉	1	10YR3/1	黒褐色土	H C	なし	なし	炭化物多量に混じる
	2	10YR3/4	暗褐色土		なし	なし	10YR5/6(黄褐色土)、焼土粒2%混じる
	3	10YR3/4	暗褐色土		なし	なし	10YR5/6(黄褐色土)、焼土15%混じる
	4		焼土				
S B 18 炉	1	10YR4/2	灰黄褐色土	S i C			炭混じる
	2	10YR4/2	黄褐色土	S i C			炭混じる
	3	10YR4/4	褐色土	S i C			
	4	10YR4/3	鈍い黄褐色土	S i C			炭混じる
S B 20 炉 埋甕	1	10YR3/4	暗褐色土	L i C			
	2	10YR5/6	黄褐色土	L i C			
	1	10YR4/4	褐色土	S i C			炭、焼土混じる
	2	10YR5/4	鈍い黄褐色土	L i C			黄色土ブロック混じる
	1	10YR4/6	褐色土	S i C			
	2	10YR2/3	黒褐色土	S i C			
3	10YR3/4	暗褐色土	S i C				
S B 25 炉	1		焼土				
S B 14 炉	1	10YR3/1	暗褐色土	L i C	なし	あり	炭混じる
	2		焼土				
S B 15 炉 貼床下炉	1	10YR2/2	黒褐色土	L i C	なし	ややあり	炭混じる
	2	10YR2/2	黒褐色土	L i C	なし	ややあり	焼土粒、炭混じる
	3		焼土				
	4	10YR4/3	鈍い黄褐色土				
	1	10YR2/2	黒褐色土	S i L		なし	炭混じる
	2		焼土				炭混じる
S B 21 炉	1	10YR2/1	黒色土	L i C	なし	なし	炭混じる
	2	7.5YR3/4	暗褐色土	L i C	ややあり	ややあり	焼土粒5%混じる
	3	10YR5/6	黄褐色土	L i C	ややあり	ややあり	焼土粒1%混じる
S B 22 炉	1	10YR3/2	黒褐色土	L i C	なし	なし	
	2	2.5YR5/6	明赤褐色土				焼土混じる
S B 23 炉	1	10YR3/1	黒褐色土		あり	なし	
	2	10YR4/6	褐色土		あり	なし	
	3	10YR3/1	黒褐色土				10YR4/6(褐色土)が2%混じる
	1	10YR3/2	黒褐色土	L i C	なし	なし	

遺構名	層	JIS 標準色票	土壌色	土性	しまり	粘性	備 考
S B23 炉	2	5YR3/2	暗赤褐色土	L i C	なし	なし	焼土混じる
	3	2.5YR5/8	明赤褐色土				
S K149	1	7.5YR4/4	褐色土	H C	あり	かなりあり	
	2	10YR2/3	黒褐色土	H C	あり	あり	
	3	10YR2/3	暗褐色土	L i C	あり	ややあり	
	4	10YR3/4	暗褐色土	L i C	あり	ややあり	
S K162	1	10YR4/6	褐色土	L i C			炭、焼土多量に混じる
	2	10YR3/4	暗褐色土	L i C			炭、焼土多量に混じる
	3	10YR5/4	鈍い黄褐色土	L i C			
	4	10YR4/2	灰黄褐色土	L i C			焼土少量混じる
	5		焼土				



## IV ま と め

今次調査は以上であるが、平成10年度に於いて当該調査区の北側及び西側も調査した。よって詳細な考察はそちらの報告に譲ることとし、今回は概略のみとしたい。

### 1. 集落について

Ⅱ 1 「自然環境」で述べた如く、調査区は大局的に見れば扇状地上に立地しているが、南側に下新井沢川、北側には細田沢川が流れており、ごく小規模な田切地形上に立地している。そのため、調査区南側の一部が下新井沢川の氾濫源であった。よって調査区北側を頂点として南西側に傾斜し、且つ南東にも傾斜している。

以上の立地上に縄文中期後葉及び弥生時代後期の集落が確認された。縄文時代中期後葉の集落についてはほぼ全般の時期に亘り集落が営まれていたようである。弥生時代後期にあっては後期後半の限定された時期と考えられる。

縄文中期後葉の集落については出土遺物の様相から以下の如く7時期の変遷が考えられる。

第1期	S B 13
第2期	S B 09 S B 10
第3期	S B 07 S B 08
第4期	S B 11 S B 20
第5期	S B 11 S B 17 S B 18
第6期	S B 25 S T 01
第7期	S B 24
不明	S B 12 S B 16 S B 19

集落変遷を考える上には土器編年が不可欠であるが、本報告書では割愛させていただき、次回考察したい。また、前述した如く今次調査区は造成の攪乱が多く、煙滅した遺構も多くあったと考えられる。時期不明の住居址については切り合い関係・炉址の形態等から、S B 12は第2期若しくは第3期、S B 16は第4期以前、S B 19は第3期あたりと考えられる。

弥生時代の集落については住居址5軒がほぼ後期後半（所謂中島式期）の後半と考えられる。今次調査区は集落の「居住域」を調査したにすぎないが、集落を構成する「生産域」・「墓域」等は確認されなかった。しかし、平成10年度の調査に於いて当該期と思われる方形周溝墓1基を確認した。また、同じく平成10年度調査時に湿地帯と考えられる箇所を確認したので当該期の集落構成も明らかになると思われる。

当地方の弥生時代の集落は、後期になると天竜川流域といった生産域を容易に確保できる比較的低地から、段丘上・扇状地の扇端、扇央といった場所にも拡散すると考えられていた。しかし、最近の調査



例から、標高650 m前後の高地まで集落の展開が見られることが明らかになってきた。この事実については飯田市教委 1996 『富の平遺跡』に詳しい。本遺跡も当該期に於ける高標高の遺跡の一つである。

## 2. 出土遺構について

S B 08・20炉址は副炉を有する石囲炉を持つ。副炉については神村透氏の論文（神村 1997）に詳しい。氏によれば、出土分布状況から副炉は「下伊那系土器文化圏の中で作られた施設」としている。また、時期的なものは「Ⅰ、Ⅱ期にみられる」としている。氏の言うⅡ期とは前述した本遺跡の集落変遷の第2期に、Ⅲ期は第3・4・5期に相当するものとみられ、本遺跡出土のそれも同時期に相当する。平成10年度調査S B 28の炉址も副炉を持つものであった。今後の資料増加を待ち、更に考察していきたい。

S T 01は所謂、方形柱穴列と呼称されていたもので、現在では建物址の可能性を言及されているものである。調査時は疑問を持ちながらも各柱穴が「組めなかった」ため、土坑として調査したが、写真撮影時に理解が及び、建物址とした。本址の周辺には同類規模・様相をもつ「土坑」があったが、これらについても建物址の可能性が強い。把握できなかった点については誠に遺憾である。

## 3. 出土遺物について

今次調査に於いて縄文時代中期後葉の遺物が多量に出土した。特に土器については量・質共に好資料である。よって今次調査分のみで考察するより、平成10年度調査分と併せて編年等も含め考察したい。

弥生時代については少量ながらも好資料に恵まれ、外来系土器が多く出土している。平成8年度調査したはりつけ原遺跡（1998 飯田市教委）に於いても、在地系土器に対する比率が高く、同様な様相である。奇しくも同じ飯田市伊賀良大瀬木地区であり、距離も約1.5 kmと近距離にある。時期についても後期中島式期前半と後半の差はあるが近似している。単なる偶然の可能性もあるが該期の地域交流を考える上に於いては興味深い。

以上、概略を述べてきたが、本遺跡は当地域の縄文時代中期後葉を考える上では不可欠の遺跡のひとつといっても過言ではなかろう。よって、一つの遺跡を破壊した代償として然るべき本遺跡の考察・研究がなされなければならないであろう。

### 引用参考文献

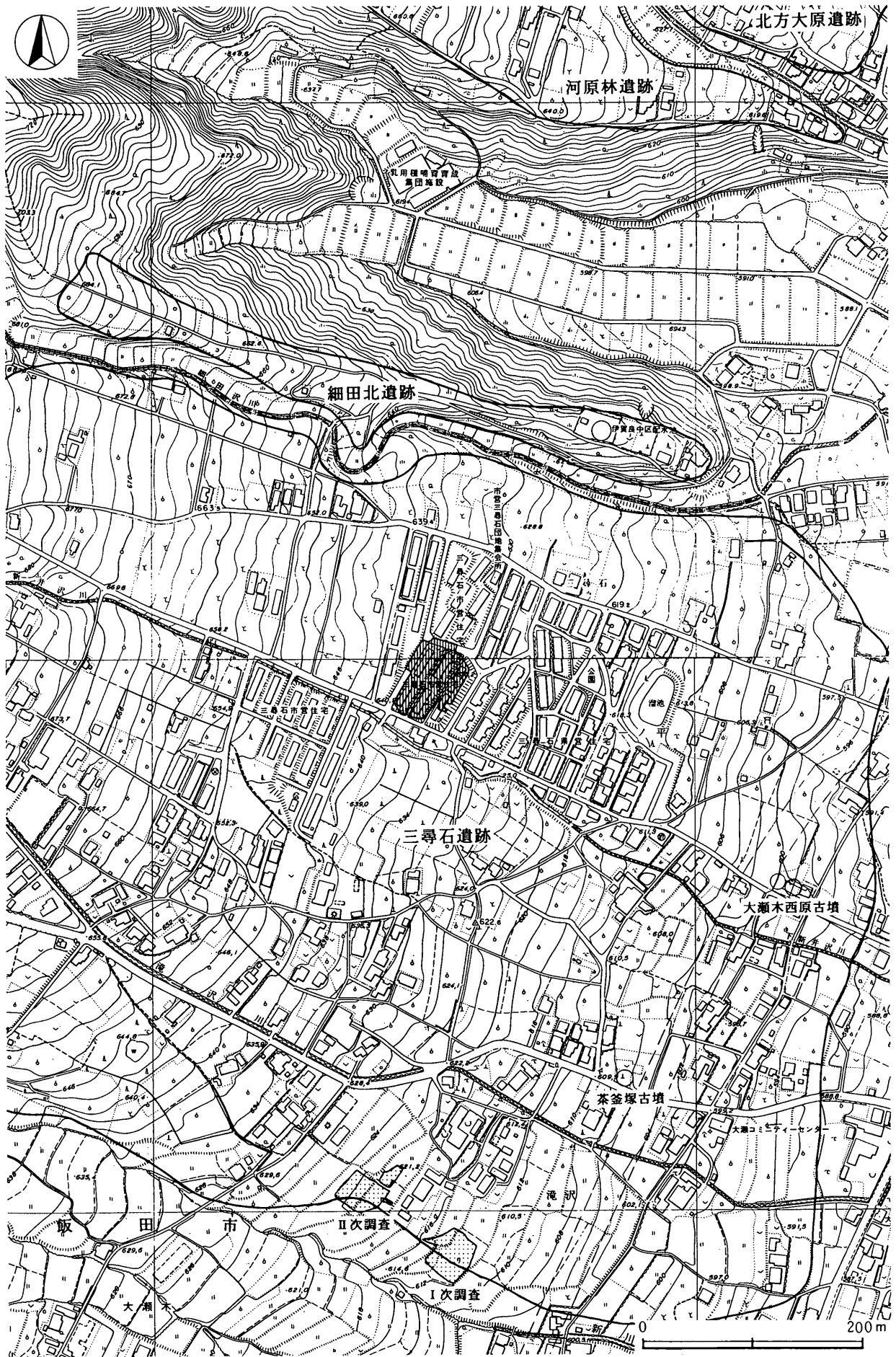
- |            |      |                                       |
|------------|------|---------------------------------------|
| (財)長野県史刊行会 | 1988 | 『長野県史』1-4                             |
| 山下誠一       | 1993 | 「弥生時代後期における伊那谷の外来系土器」 『転機』4           |
| 飯田市教育委員会   | 1996 | 『富の平遺跡』                               |
| 神村 透       | 1997 | 「下伊那と美濃川合遺跡のつながり-副炉つき石囲い炉等-」 『伊那』45-4 |
| 飯田市教育委員会   | 1998 | 『はりつけ原遺跡』                             |

版 图

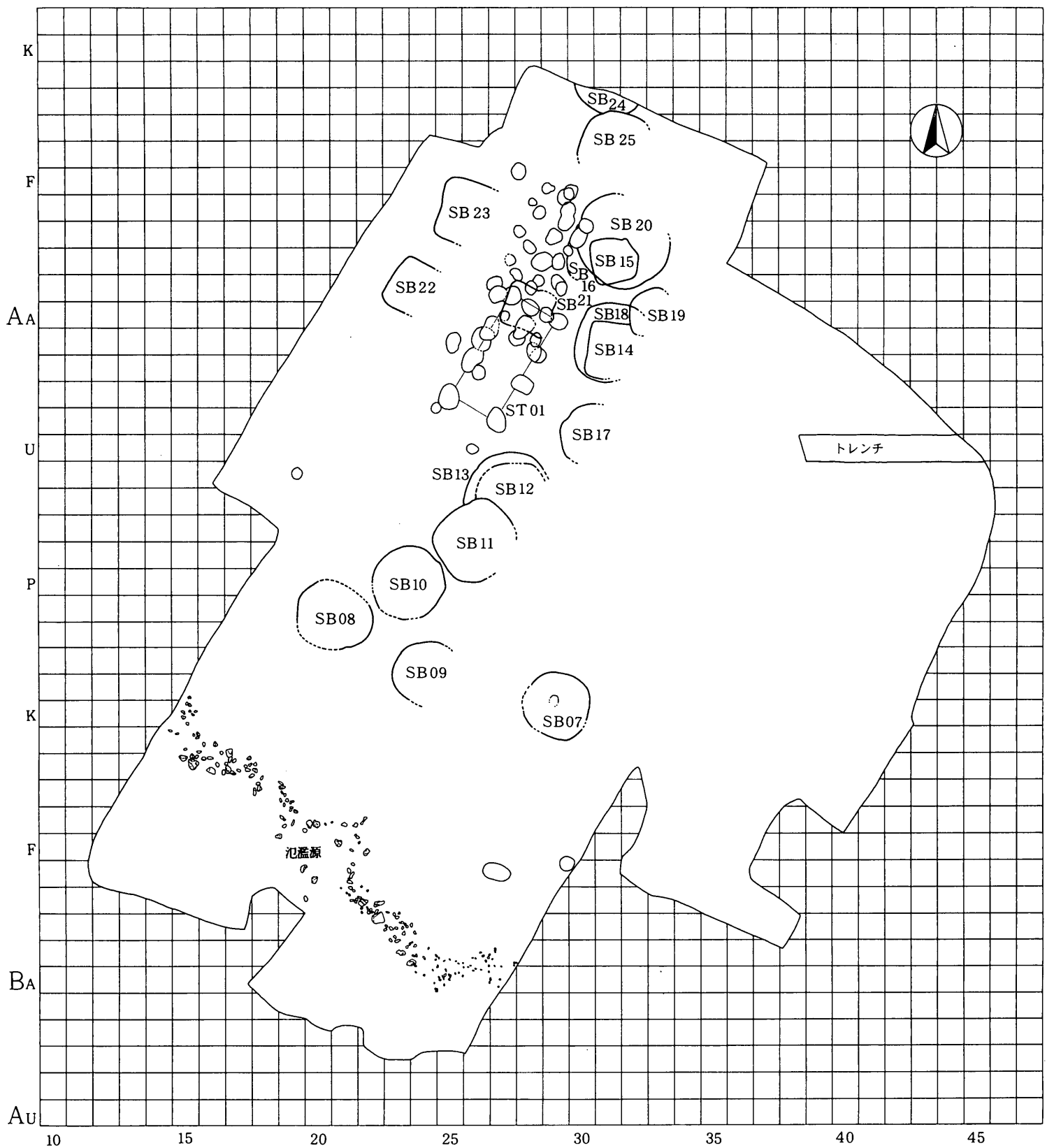




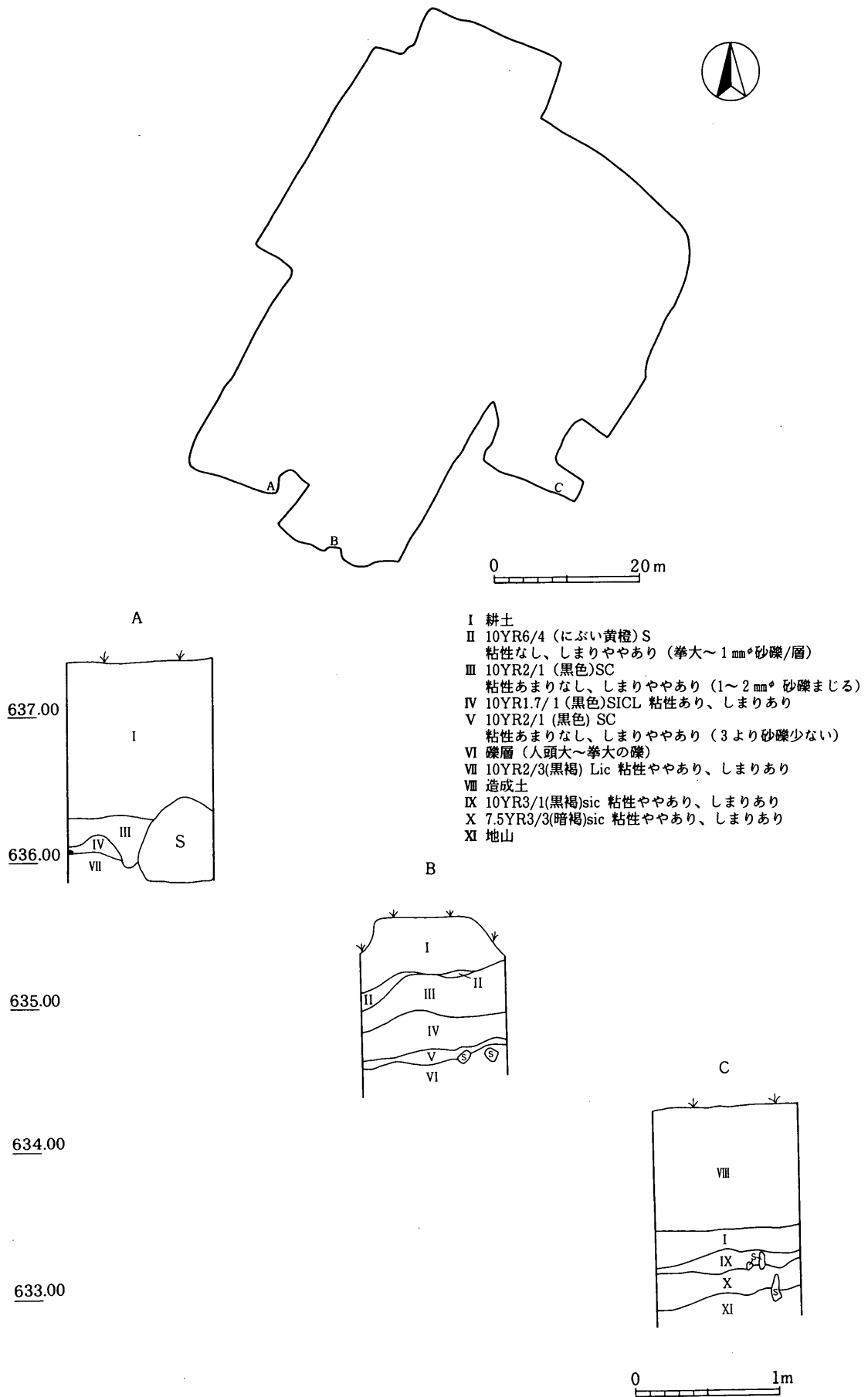
第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図



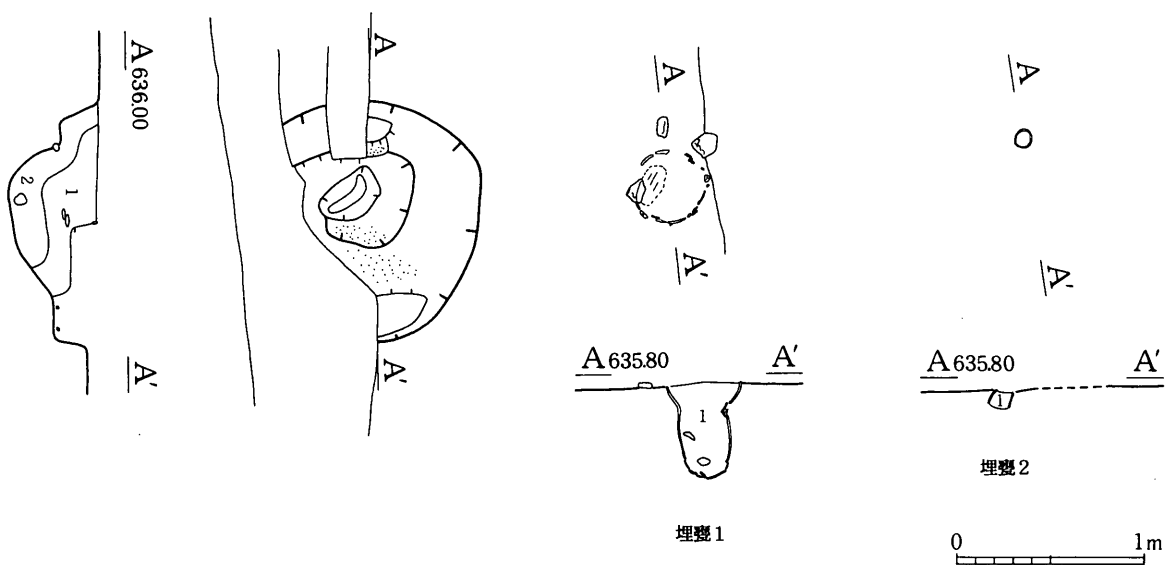
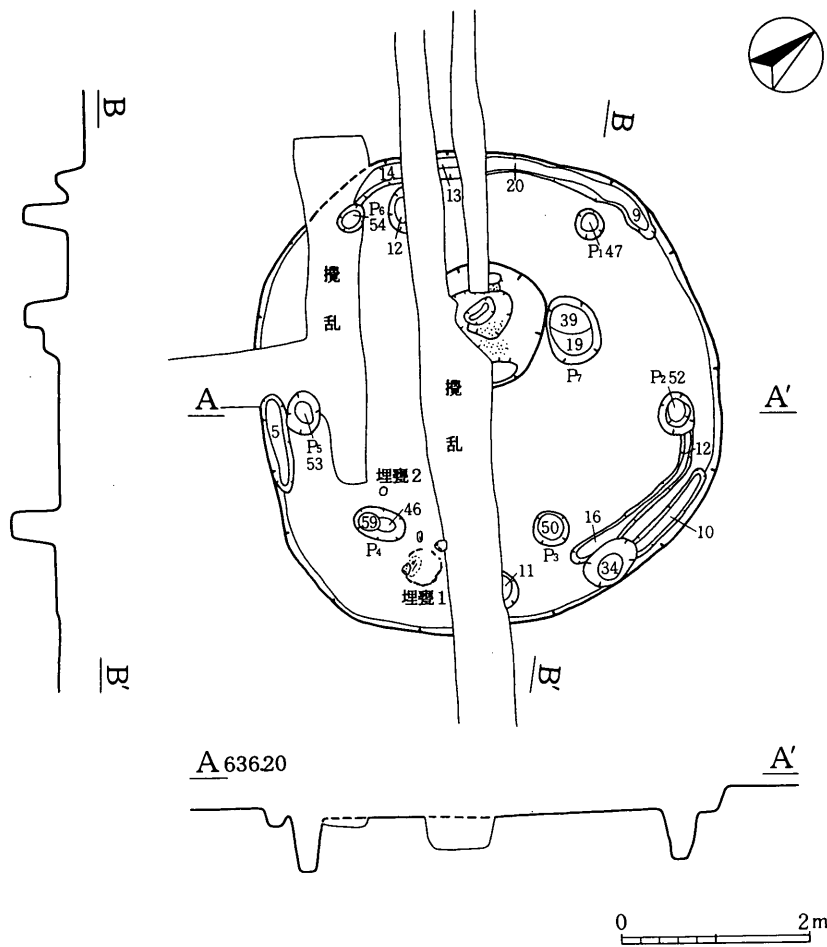
第2図 調査位置図及び周辺地図



第3図 遺跡分布図 S = 1/200

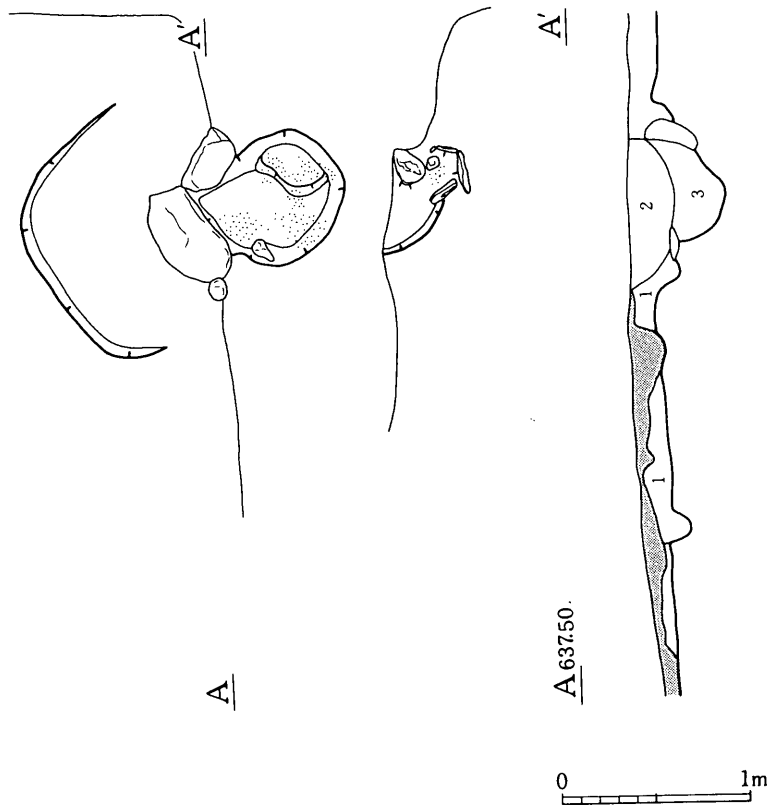
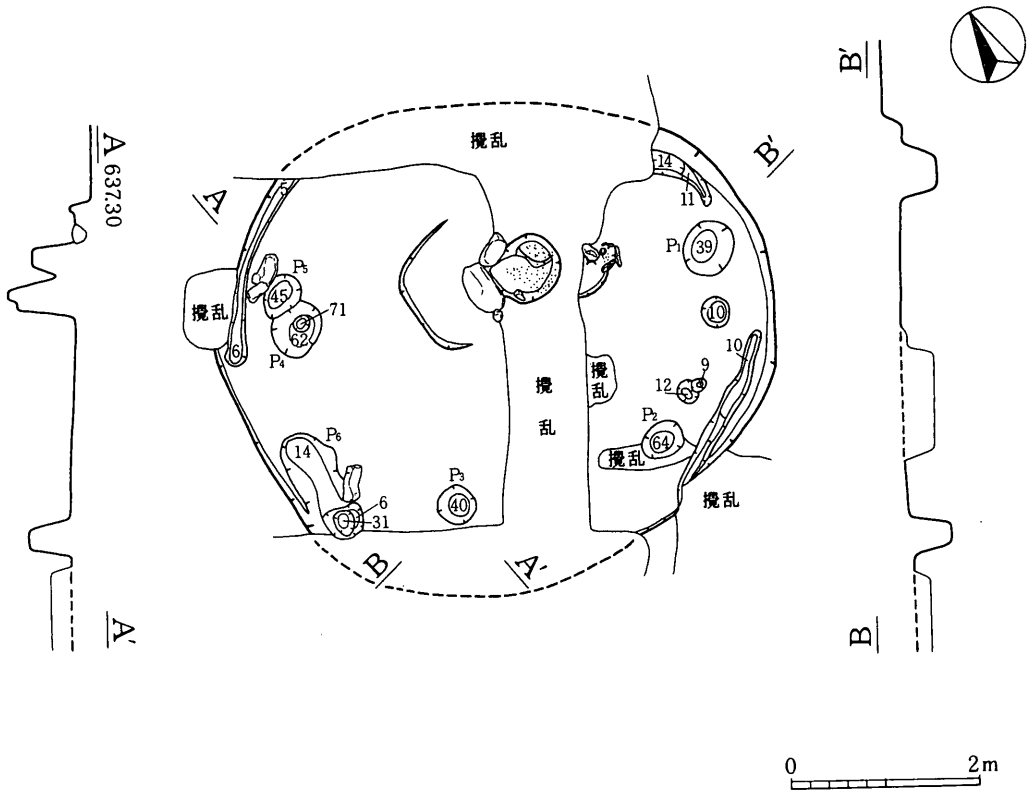


第4図 基本層序

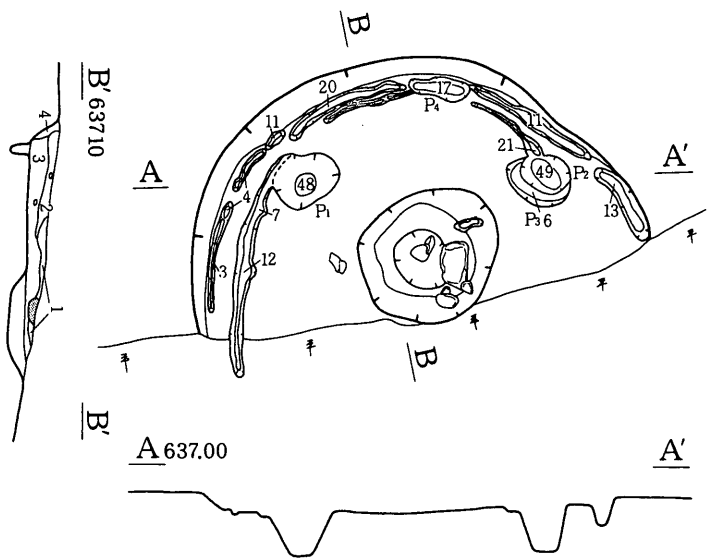


第5图 SB07

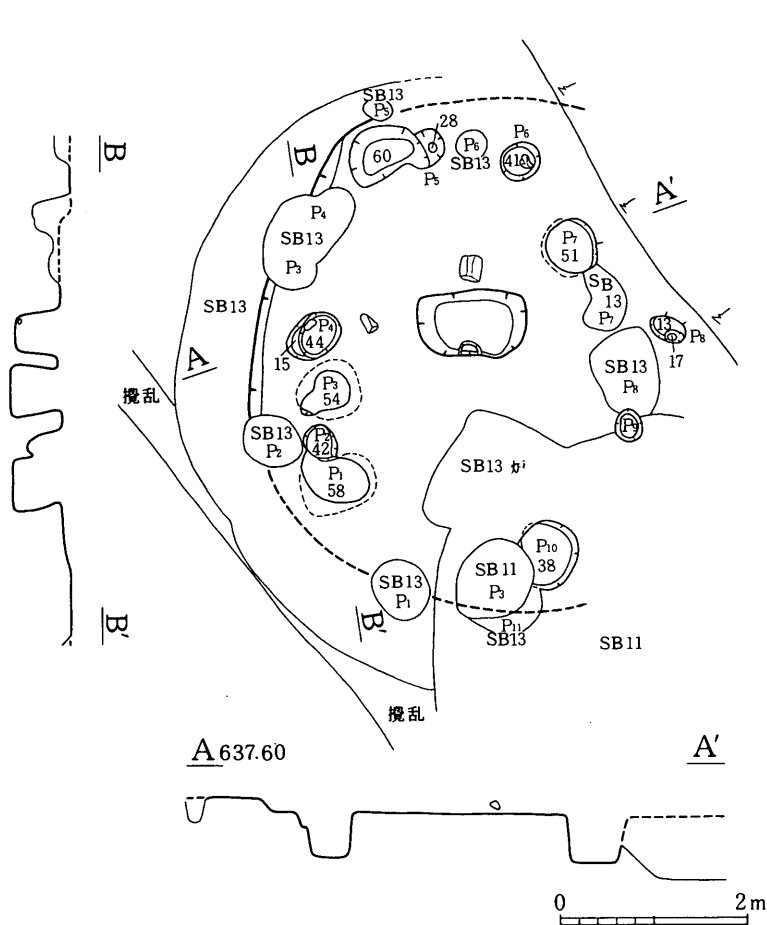
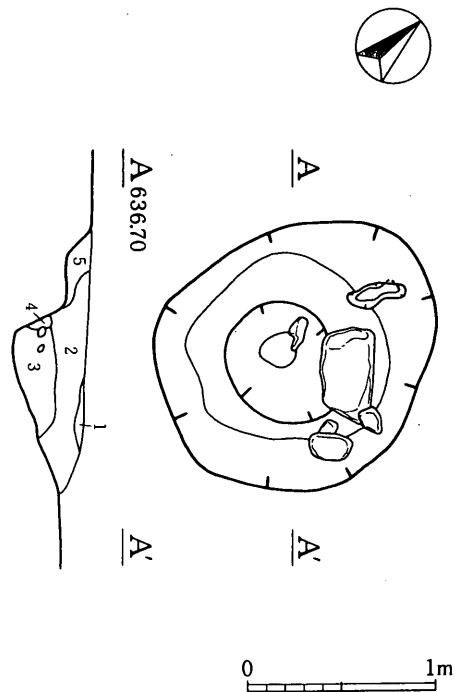




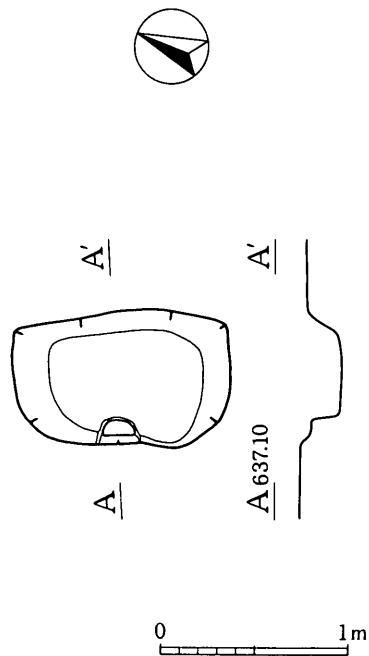
第6图 SB08



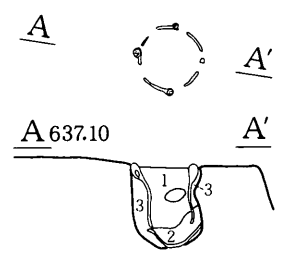
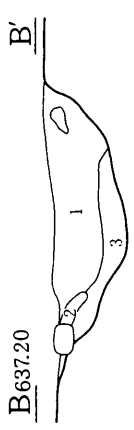
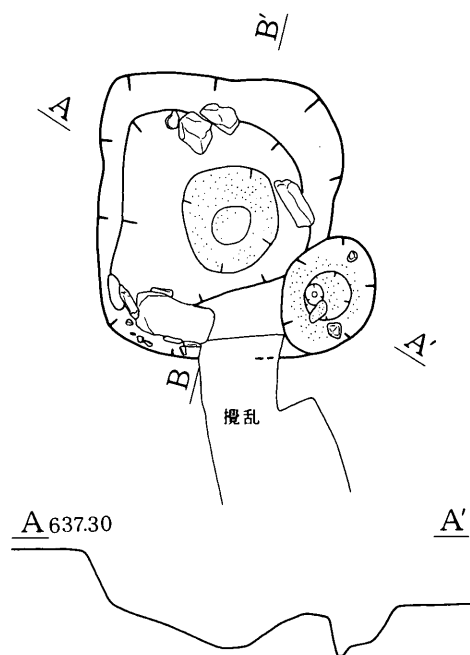
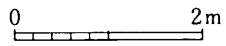
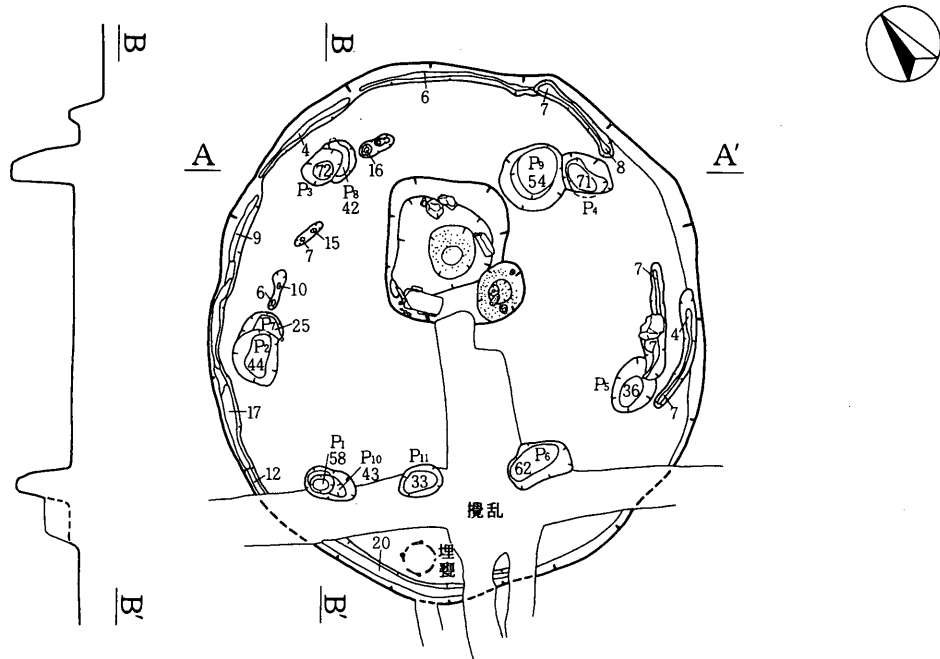
SB09



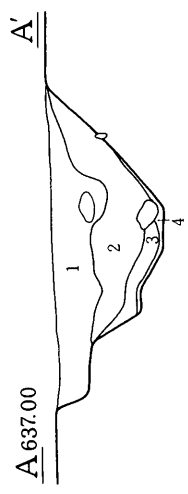
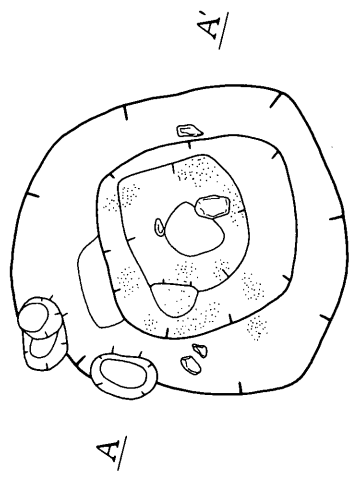
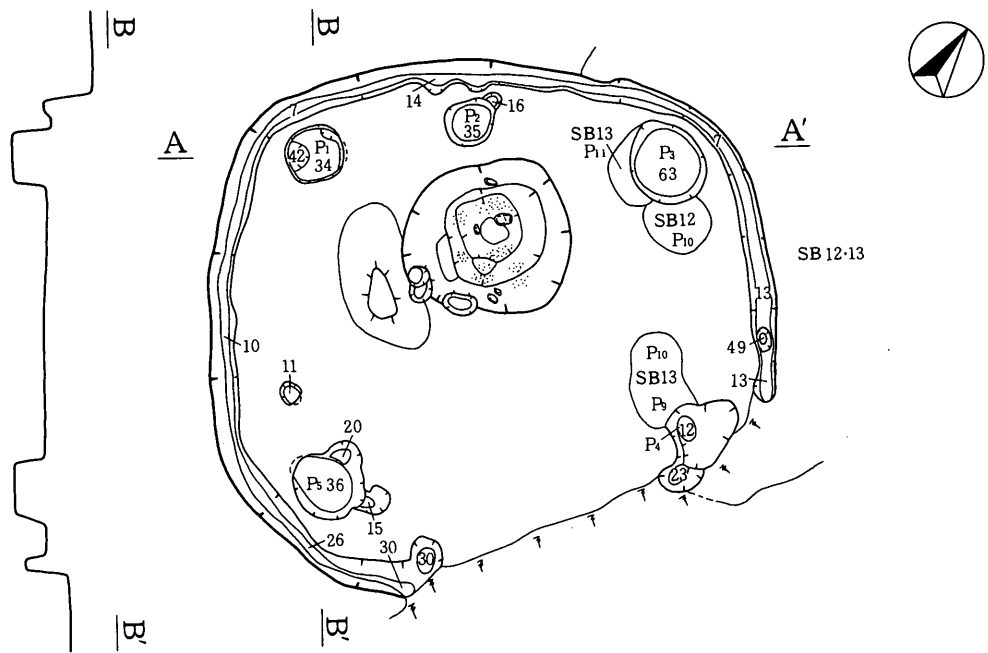
SB12



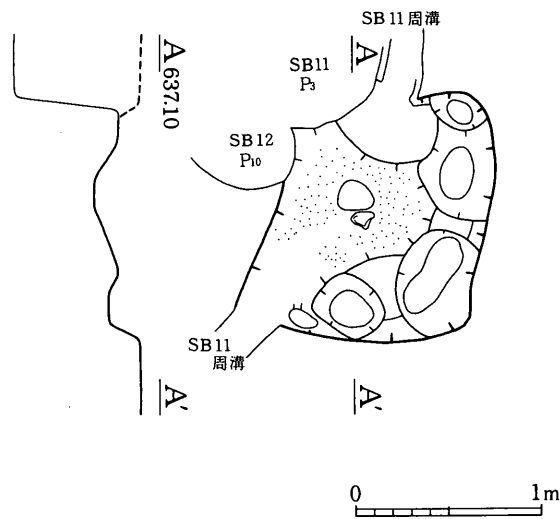
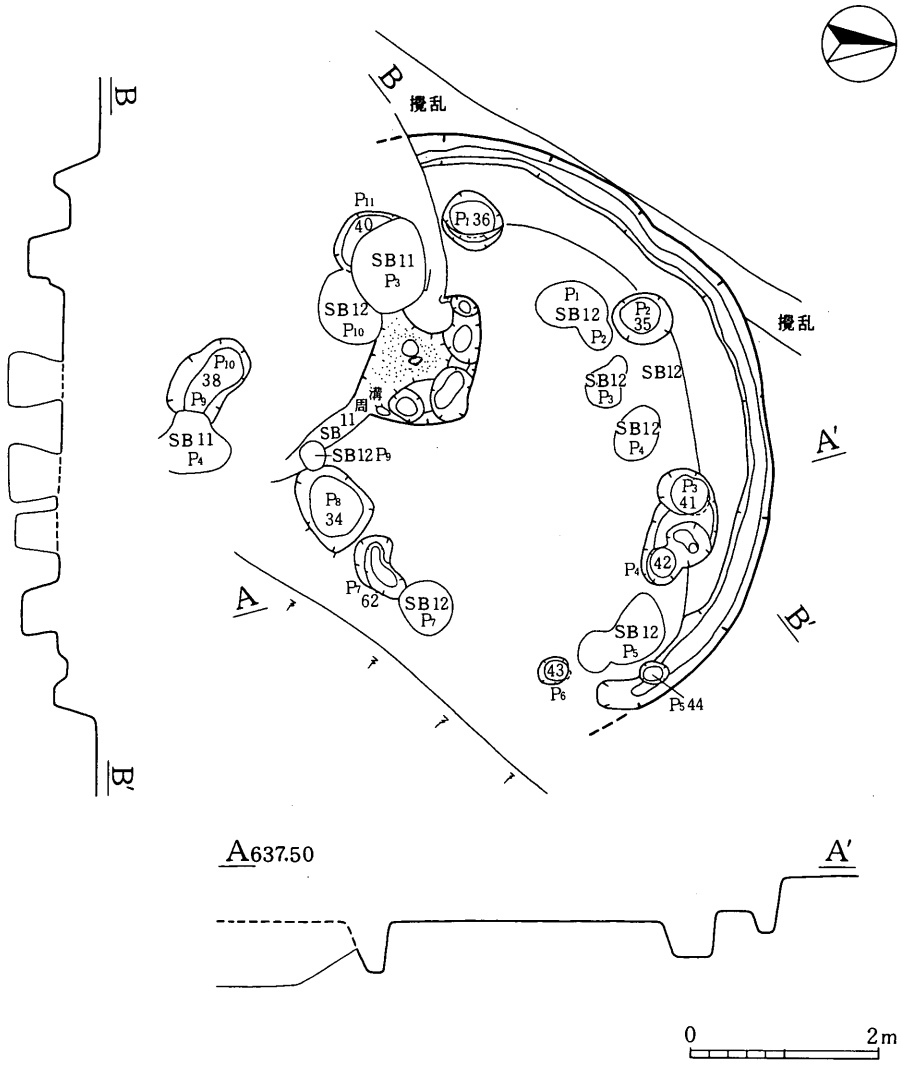
第7図 SB09・12



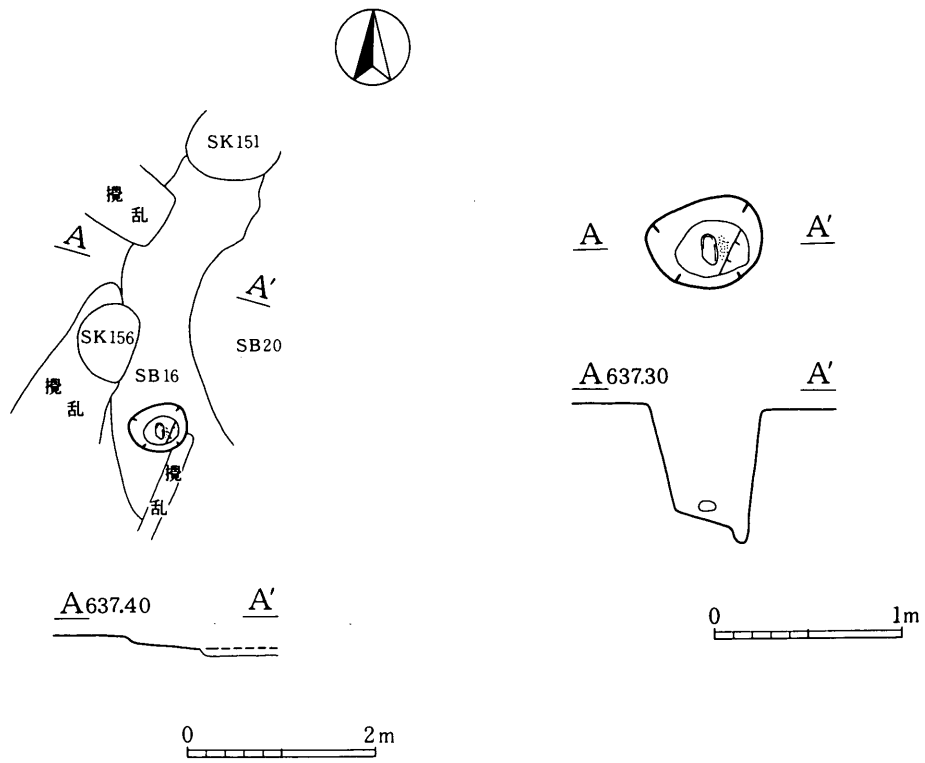
第8图 SB10



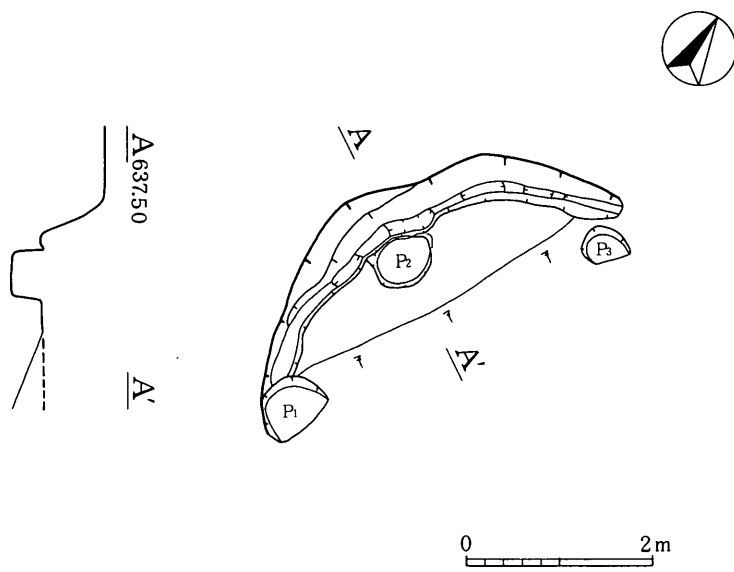
第9圖 SB11



第10図 SB13

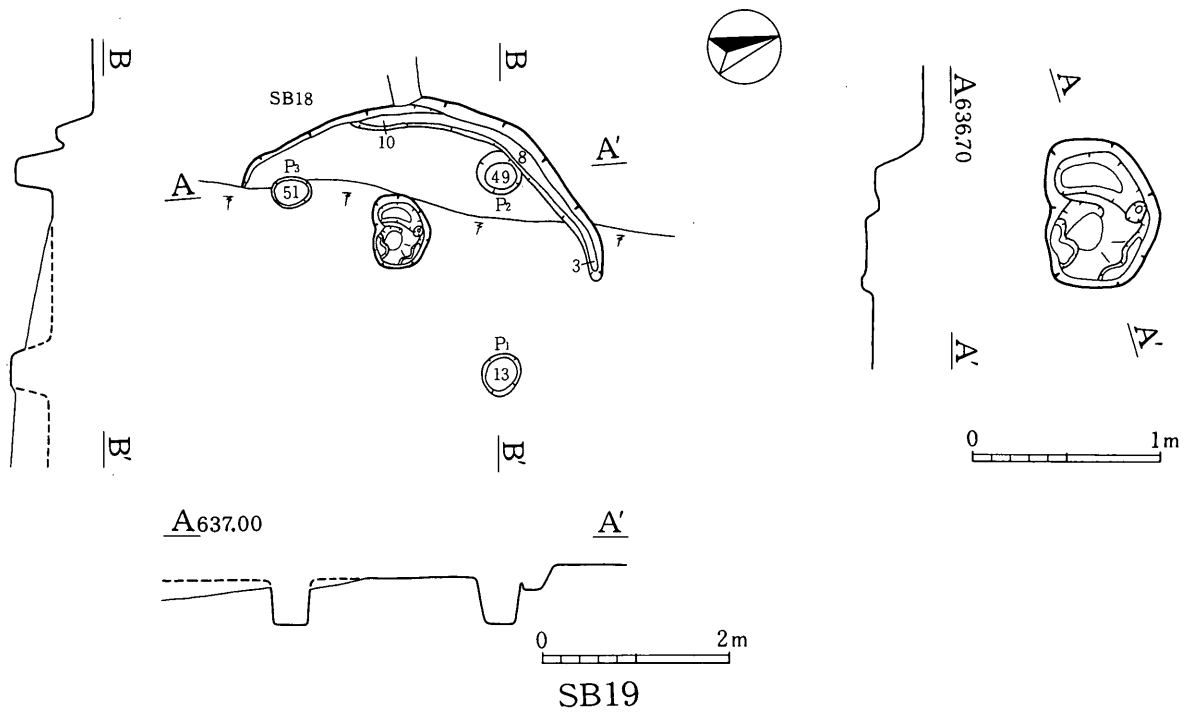
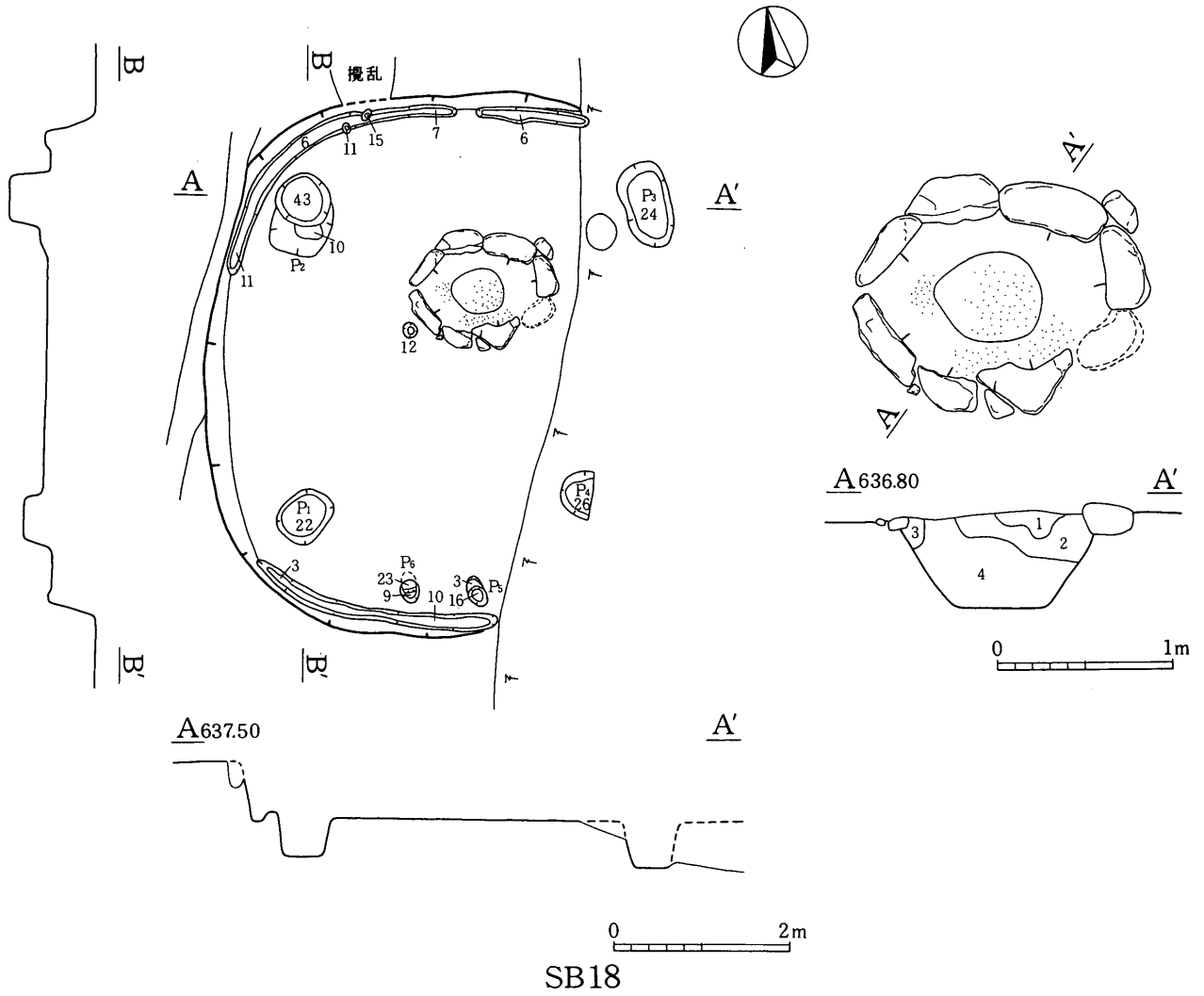


SB16

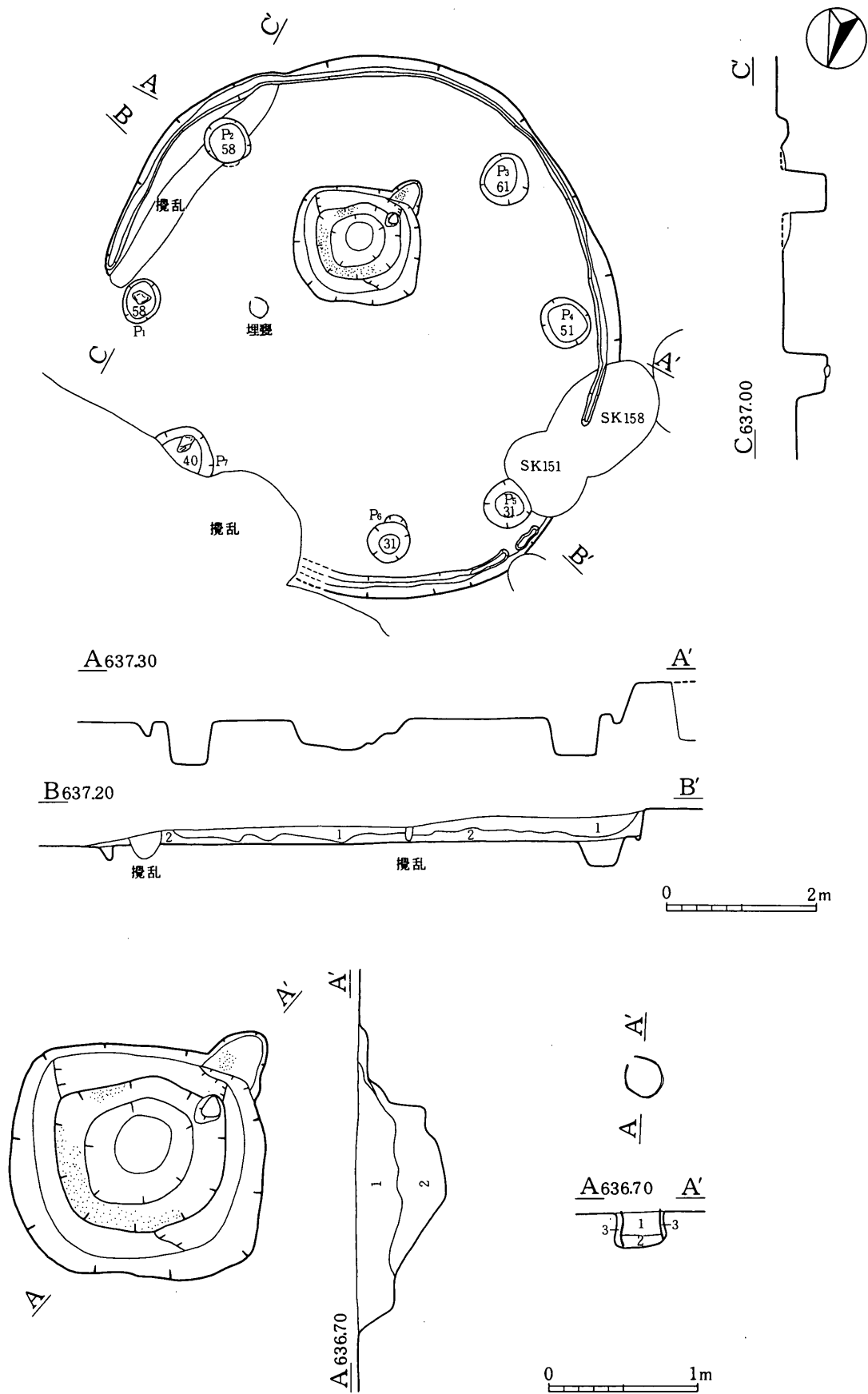


SB17

第11図 SB16・17

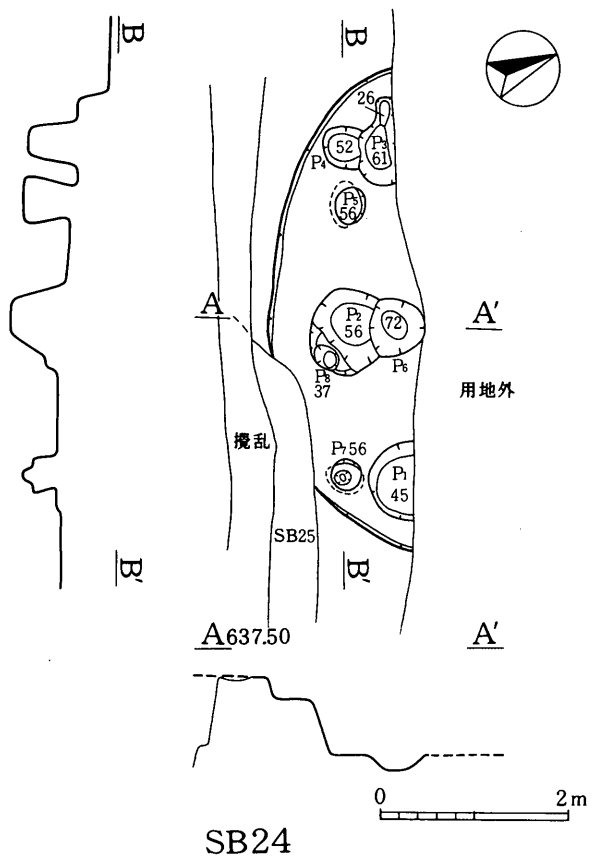


第12図 SB18・19

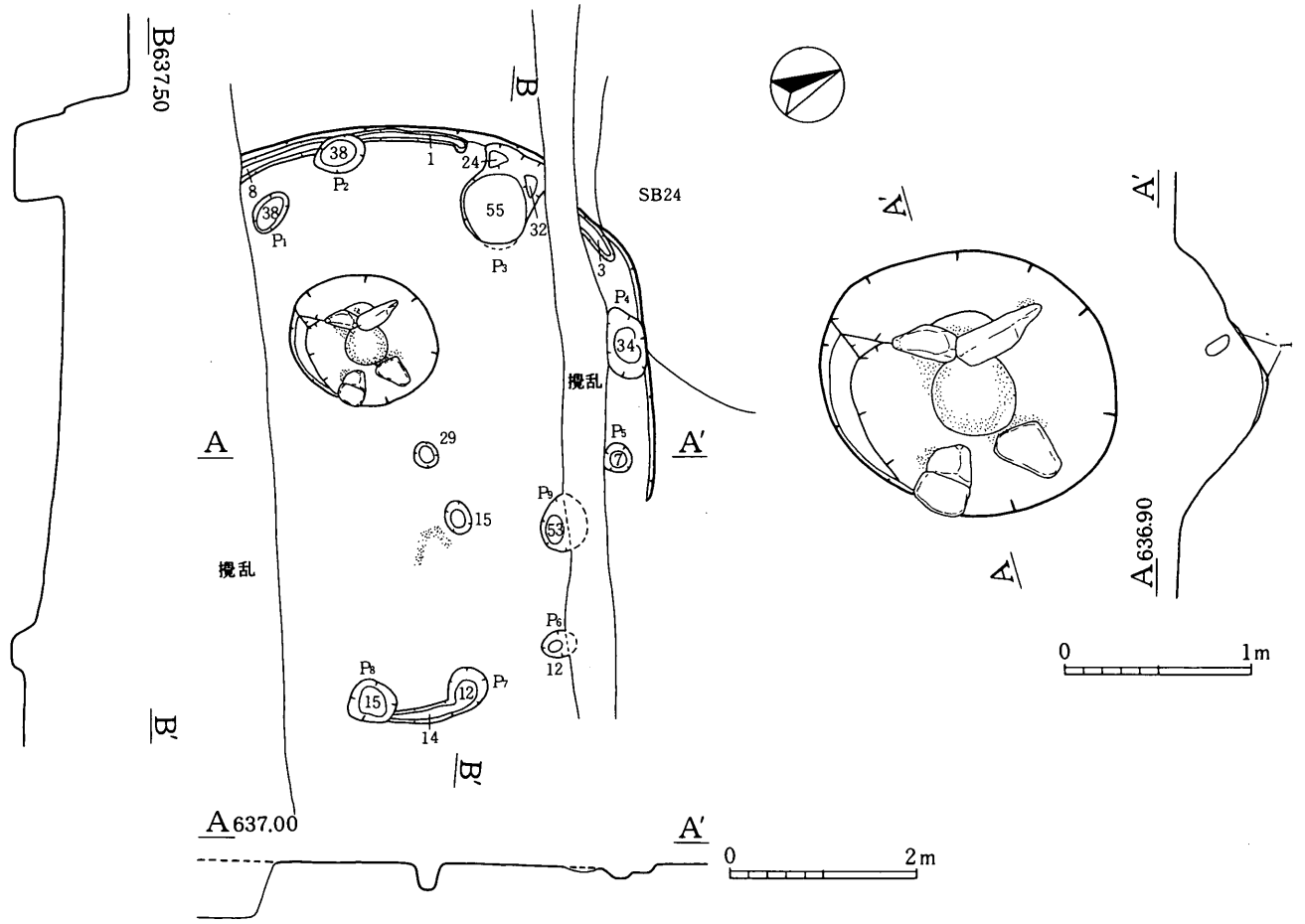


第13図 SB 20



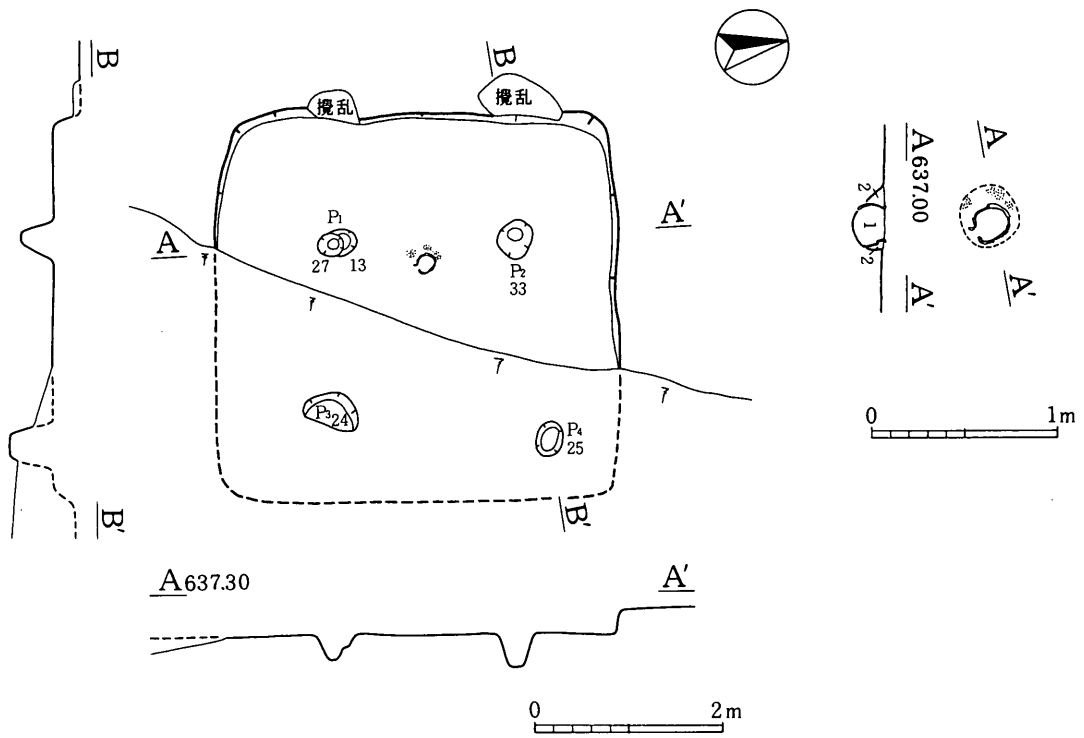


SB24

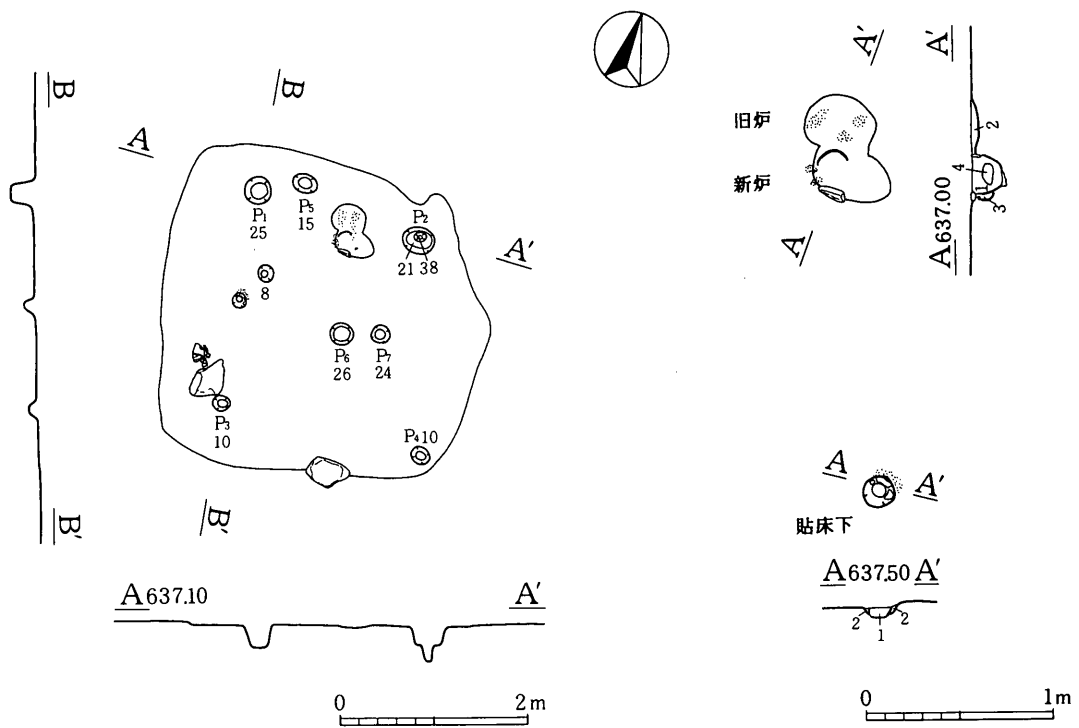


SB25

第14図 SB24・25

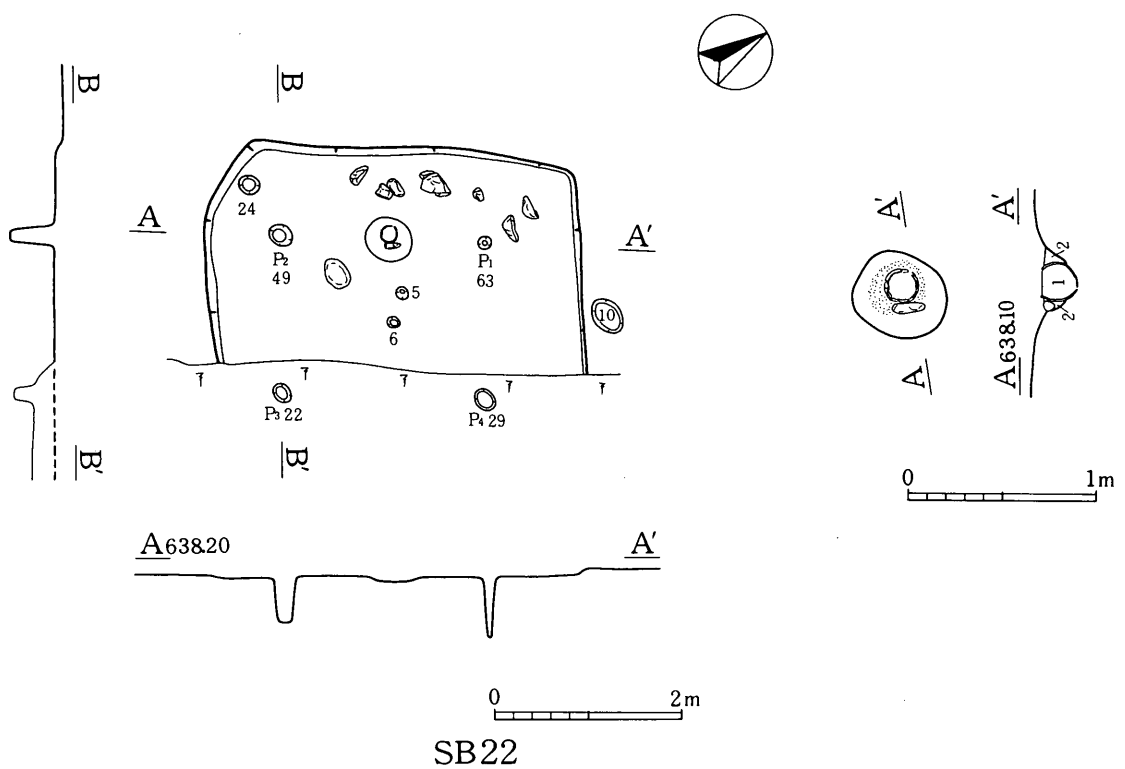
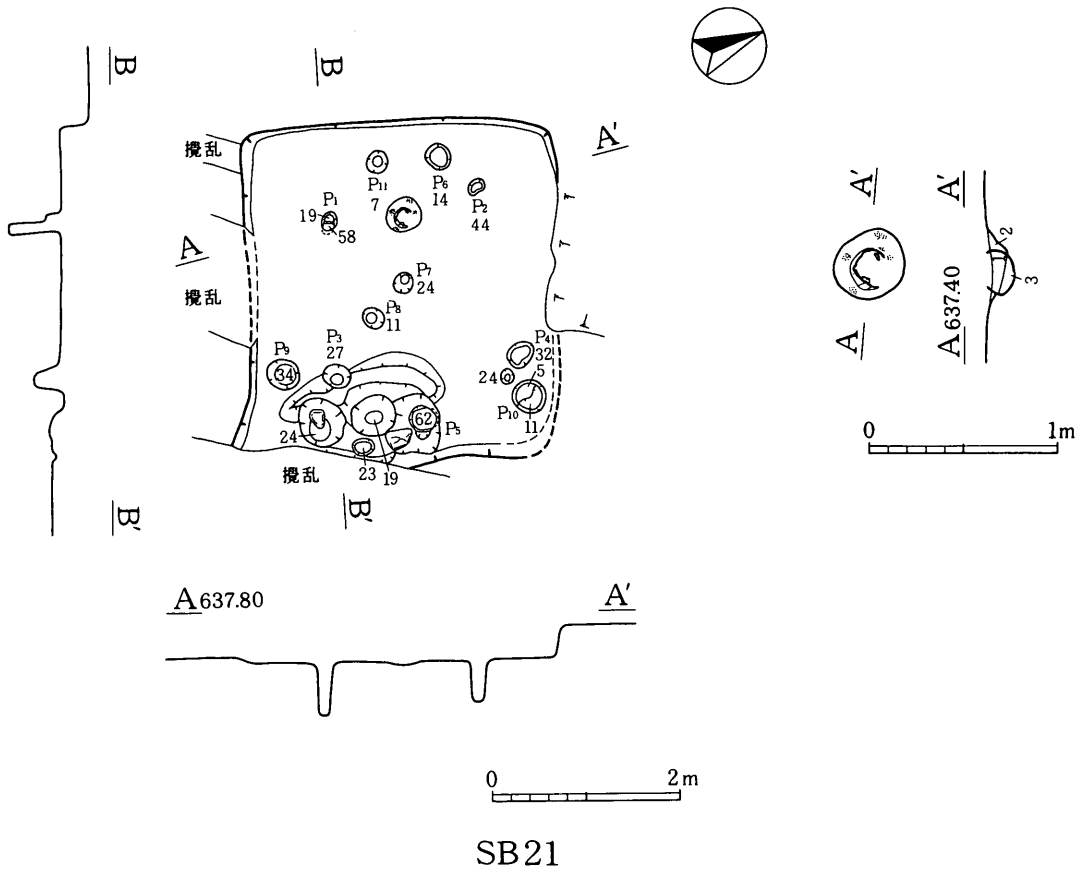


SB14

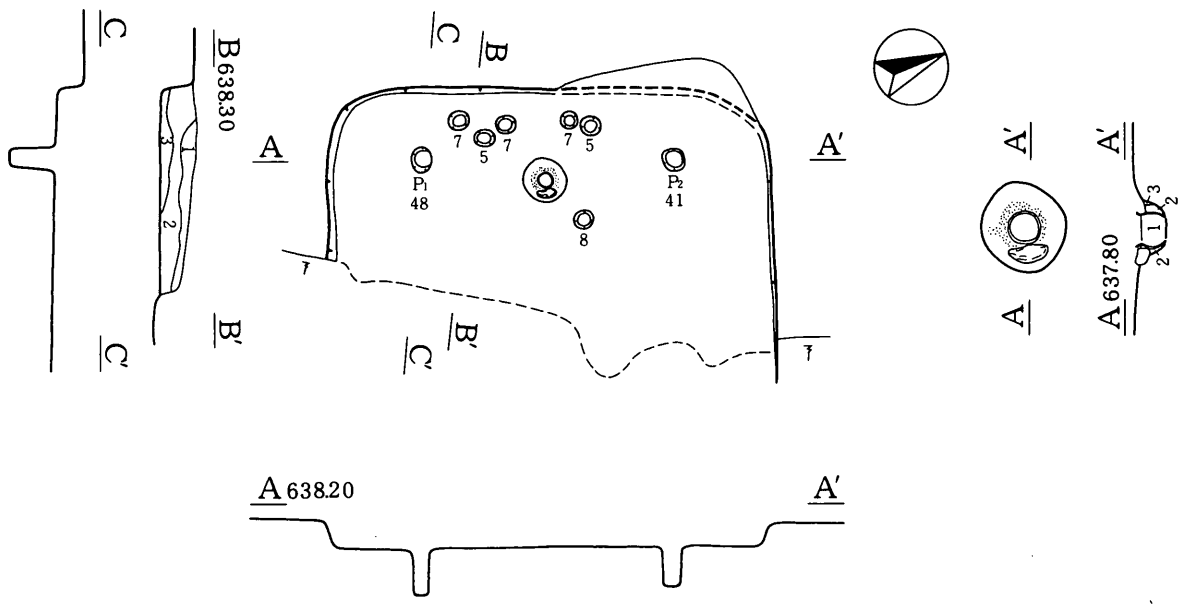


SB15

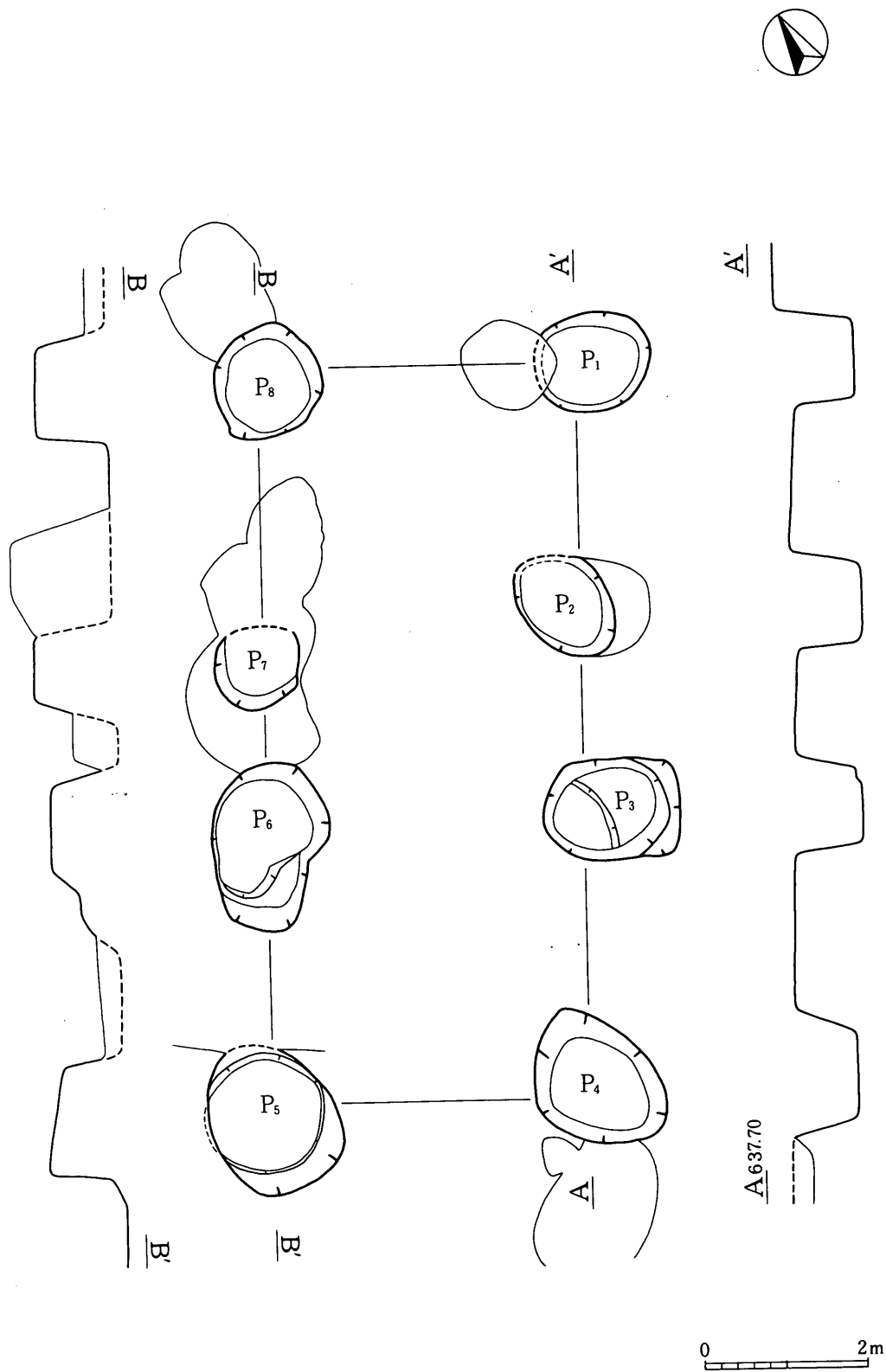
第15图 SB14·15



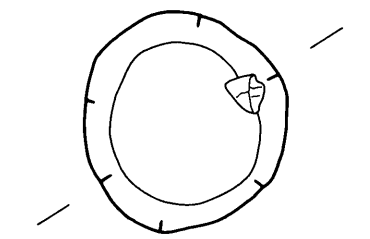
第16图 SB21·22



第17図 SB 2 3



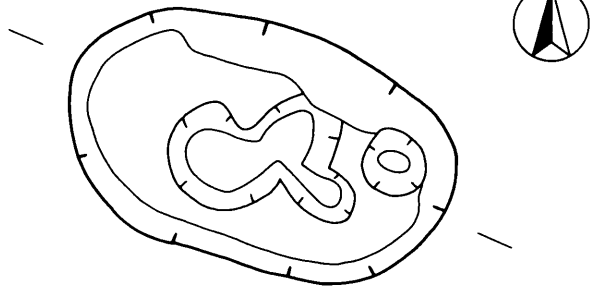
第18圖 ST 01



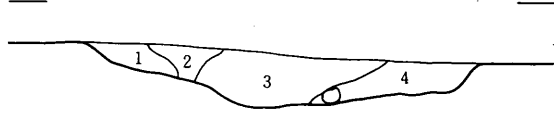
635.10



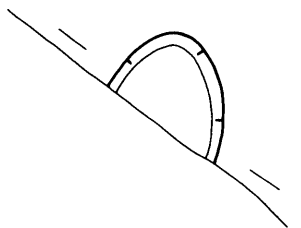
SK 148



635.50



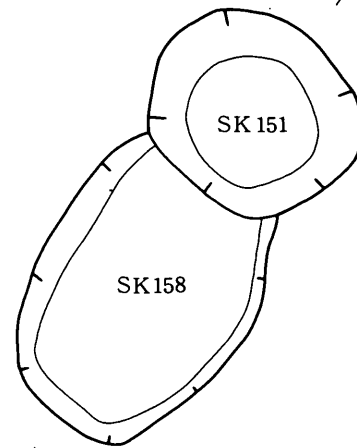
SK 149



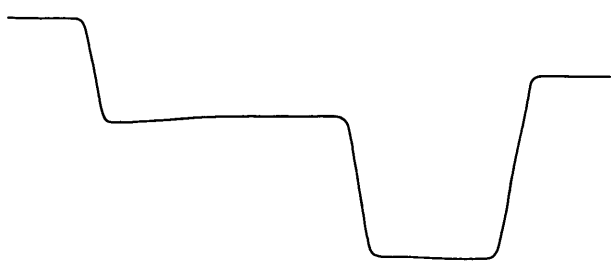
636.00



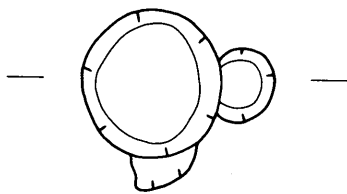
SK 150



637.30



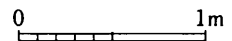
SK 151·158



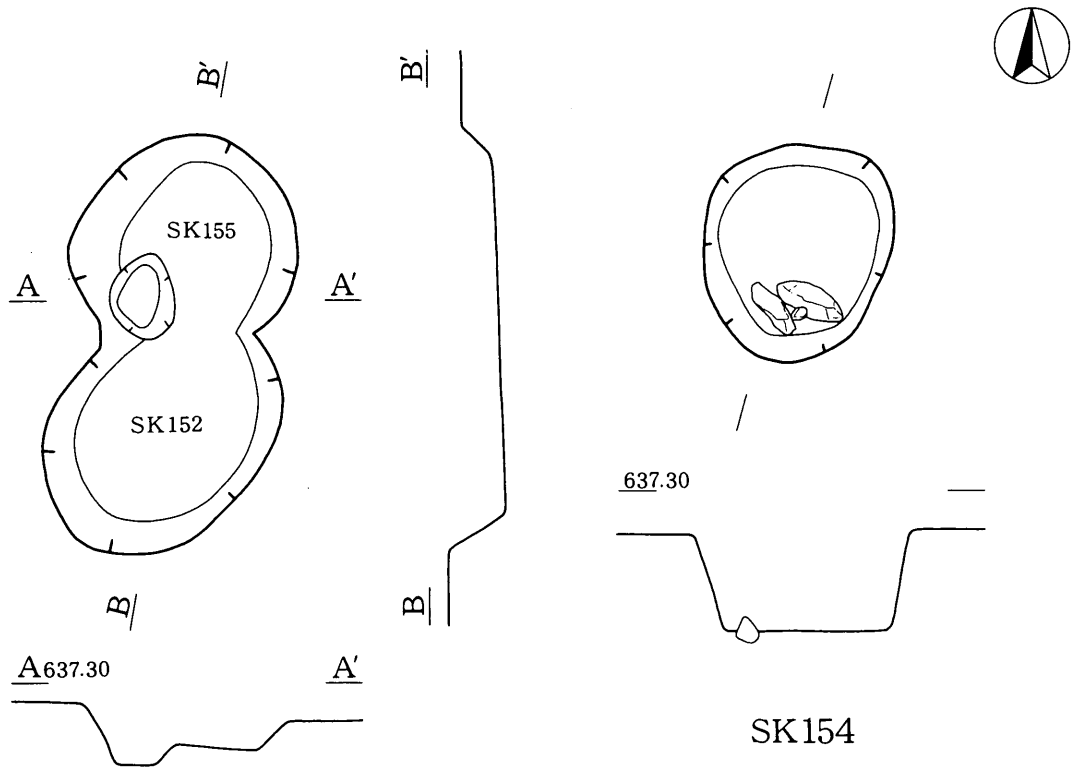
637.50



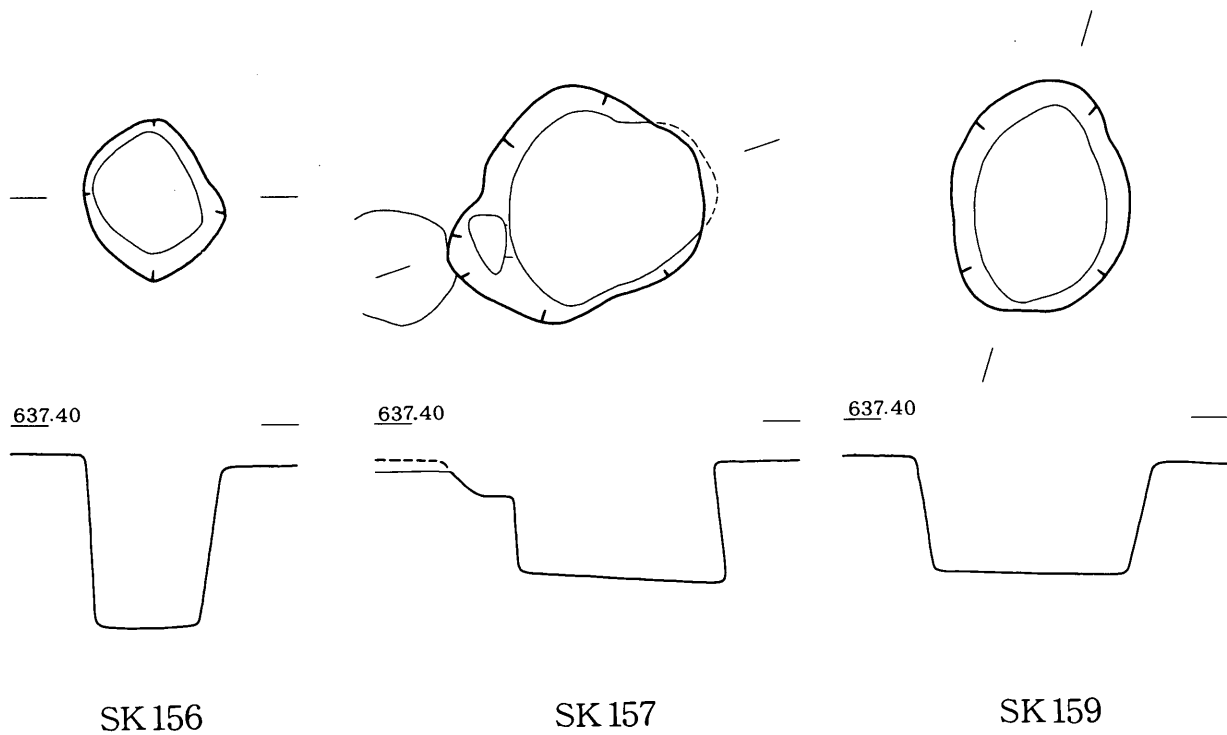
SK 153



第19図 SK 148・149・150・151・153・158



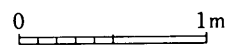
SK152·155



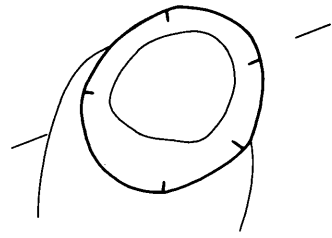
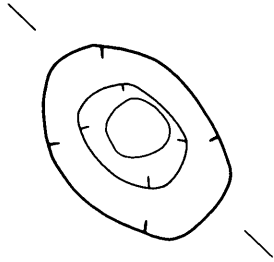
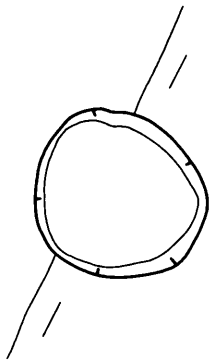
SK 156

SK 157

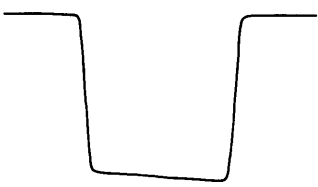
SK 159



第20図 S K152・154・155・156・157・159

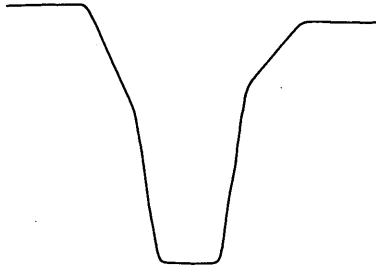


637.60



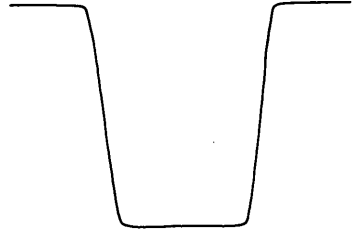
SK160

637.60

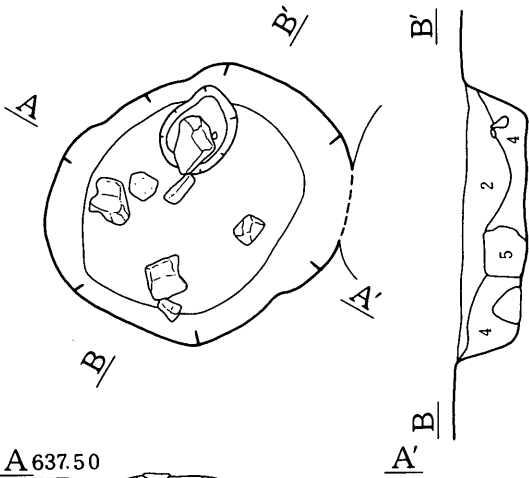


SK161

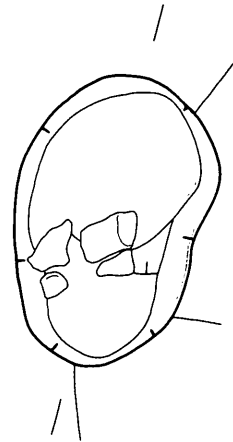
637.40



SK163



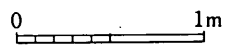
SK162



637.60

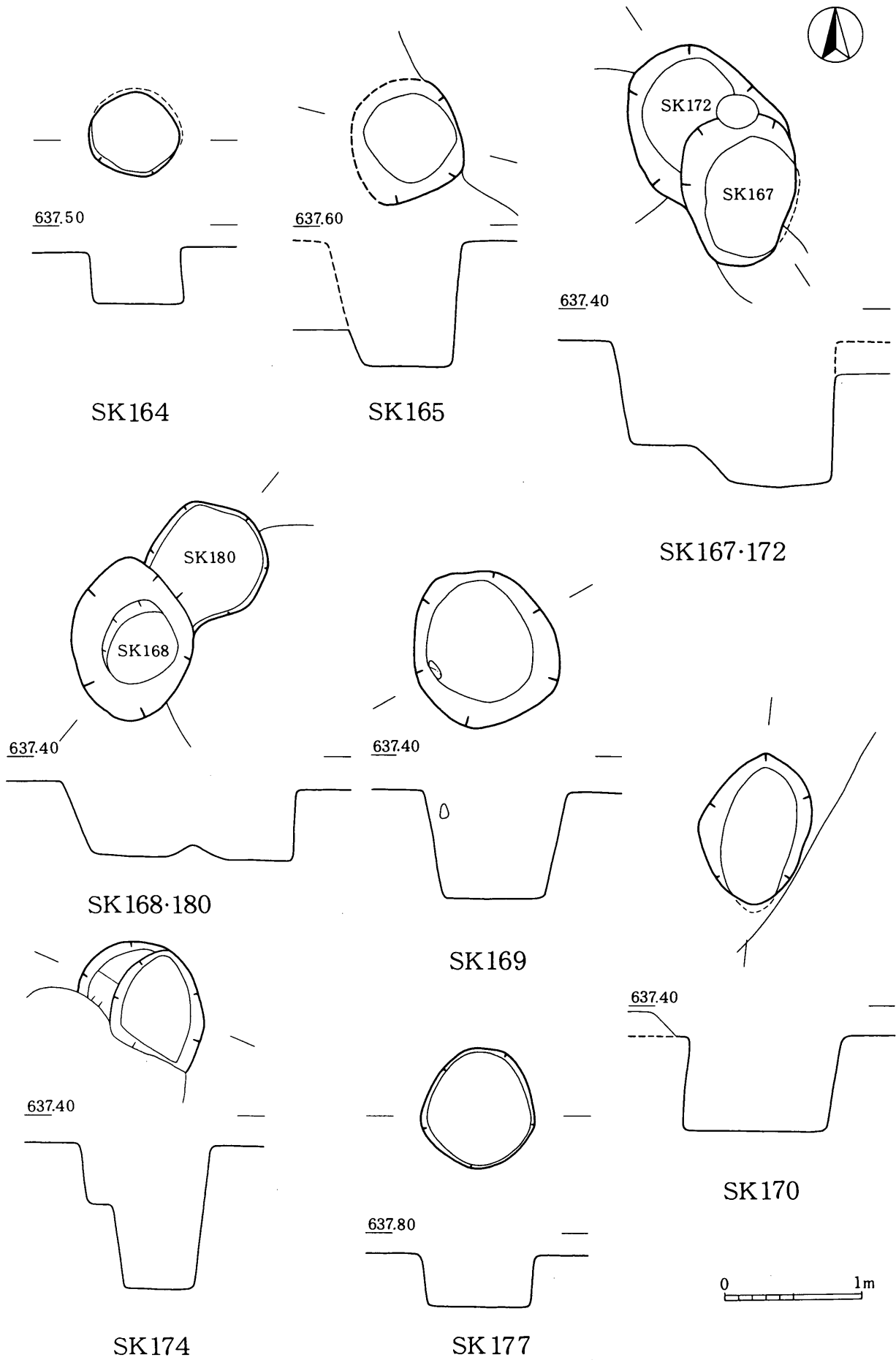


SK166

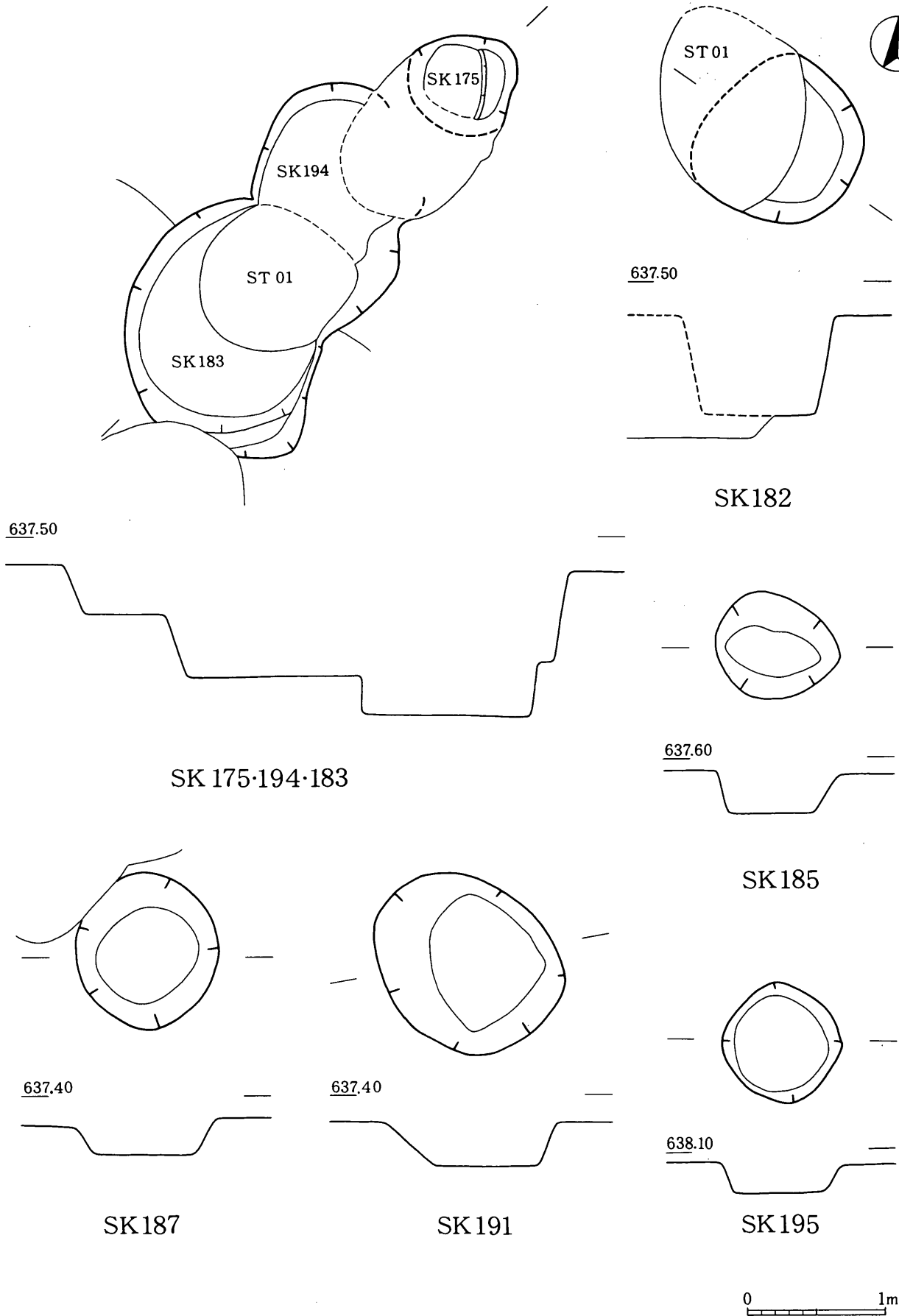


第21图 SK160·161·162·163·166

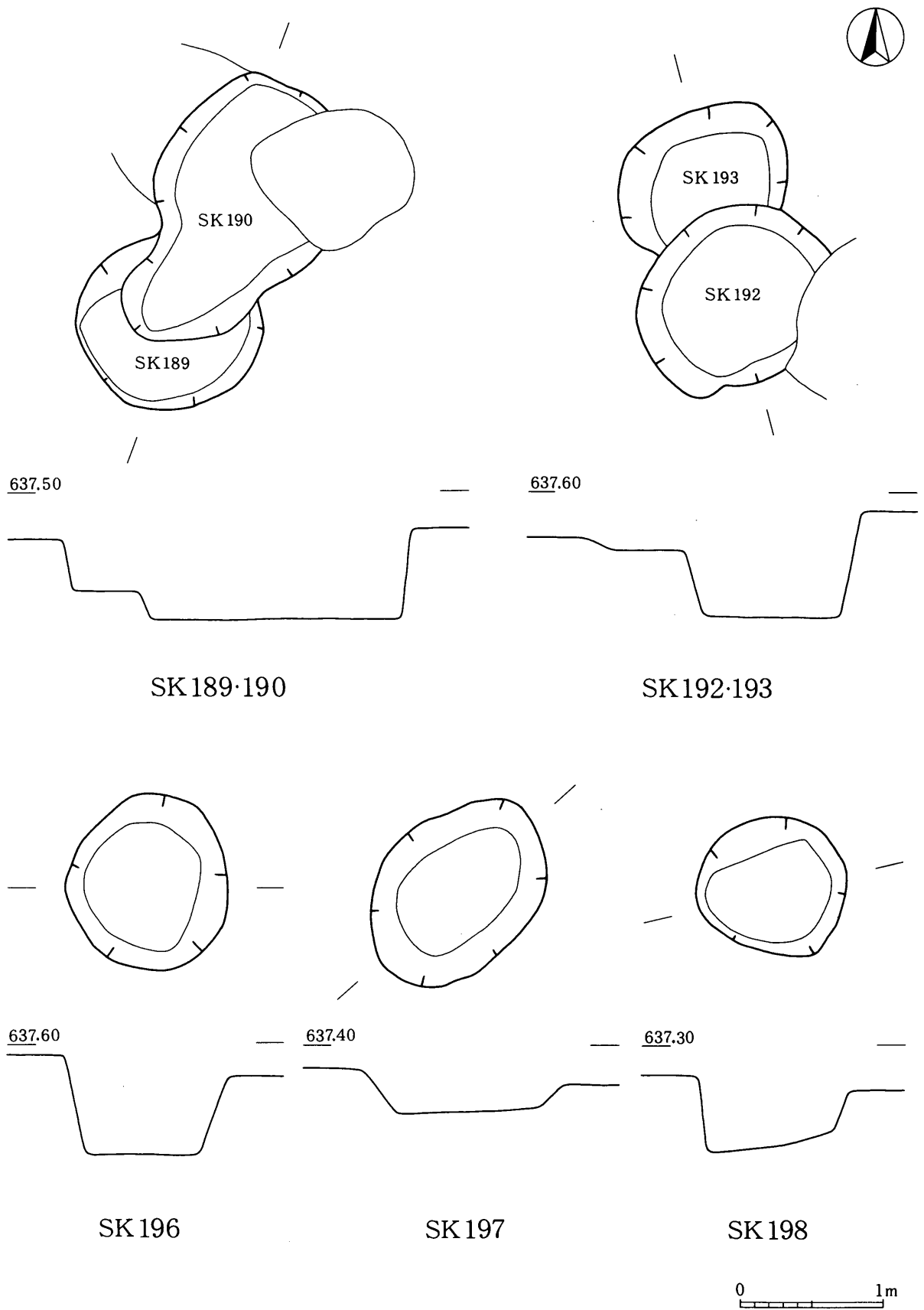




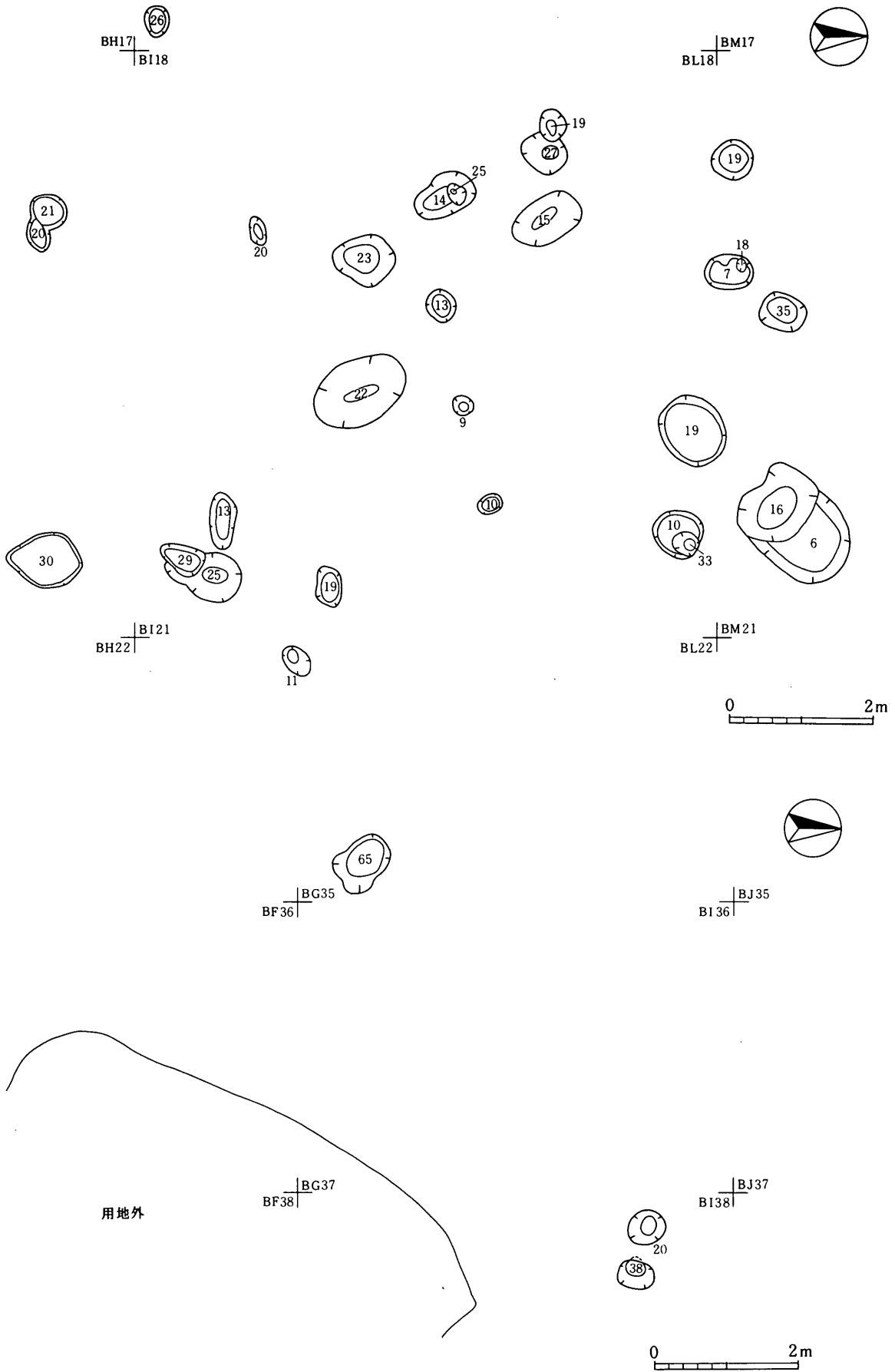
第22図 S K 164・165・167・172・168・180・169・170・174・177



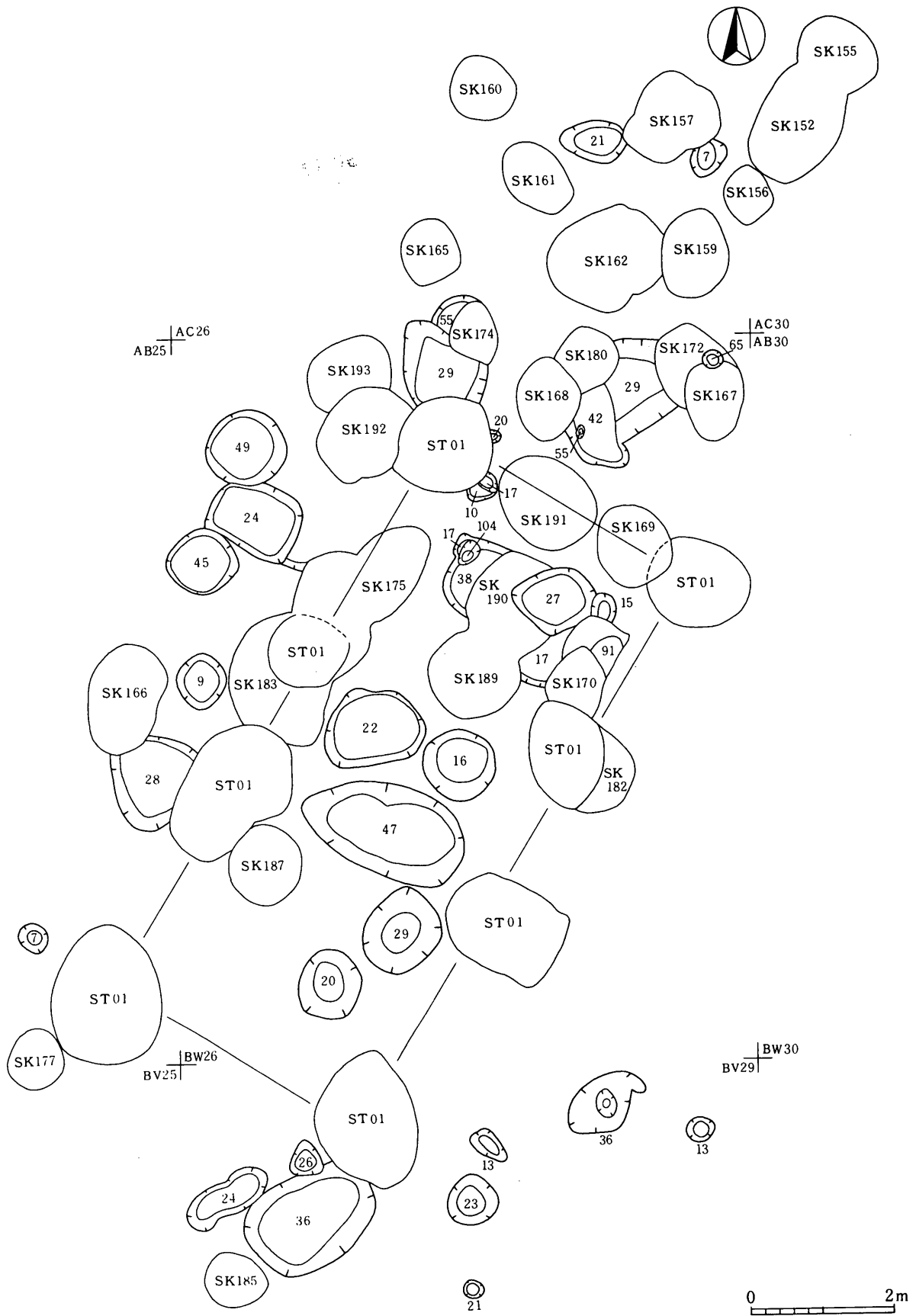
第23图 SK 175 · 194 · 183 · 182 · 185 · 187 · 191 · 195



第24図 S K189・190・192・193・196・197・198



第25図 ピット(1)



第26図 ピット(2)



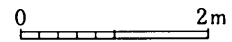
BC22 | BD21

BF22 | BG21

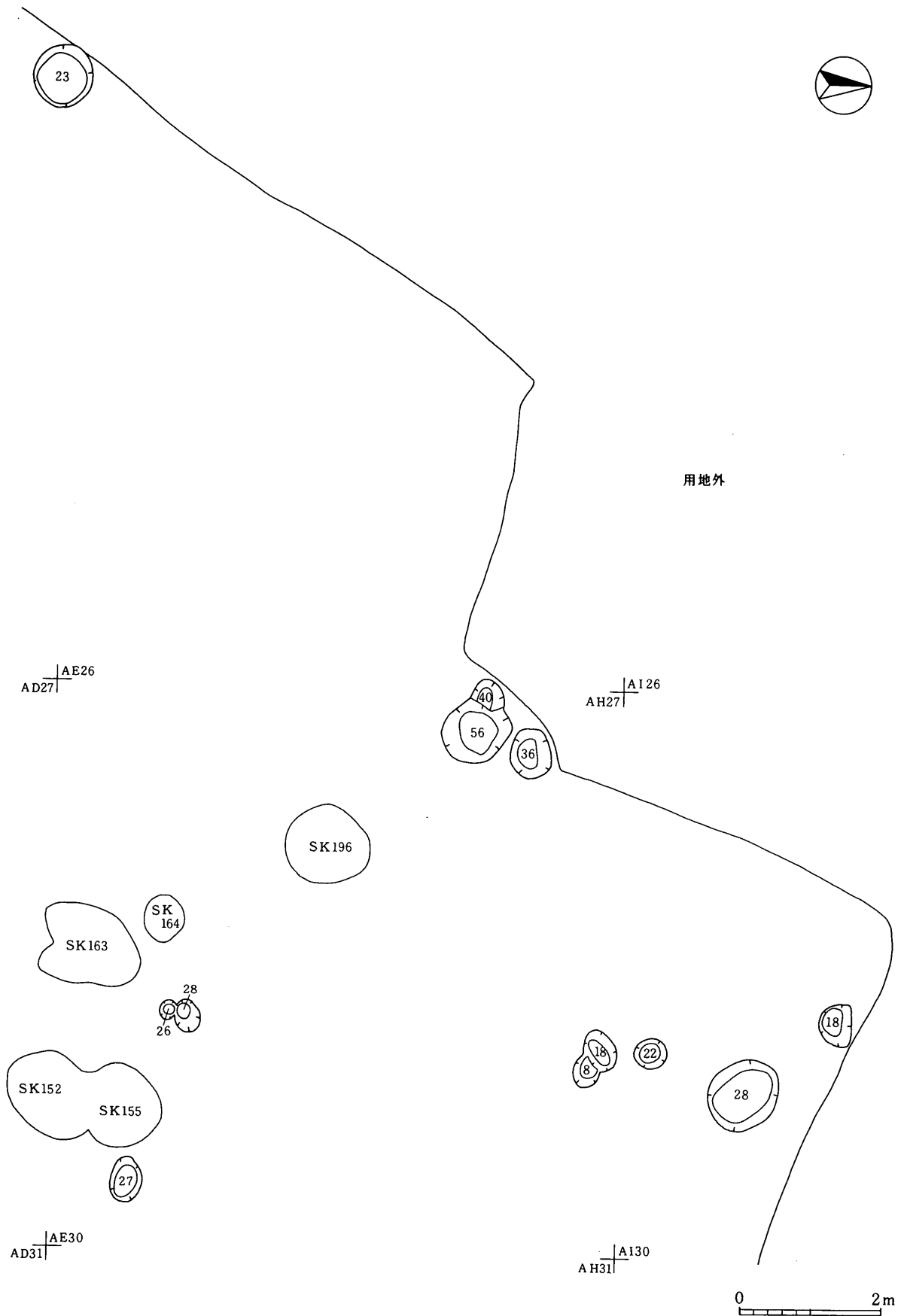


BC28 | BD27

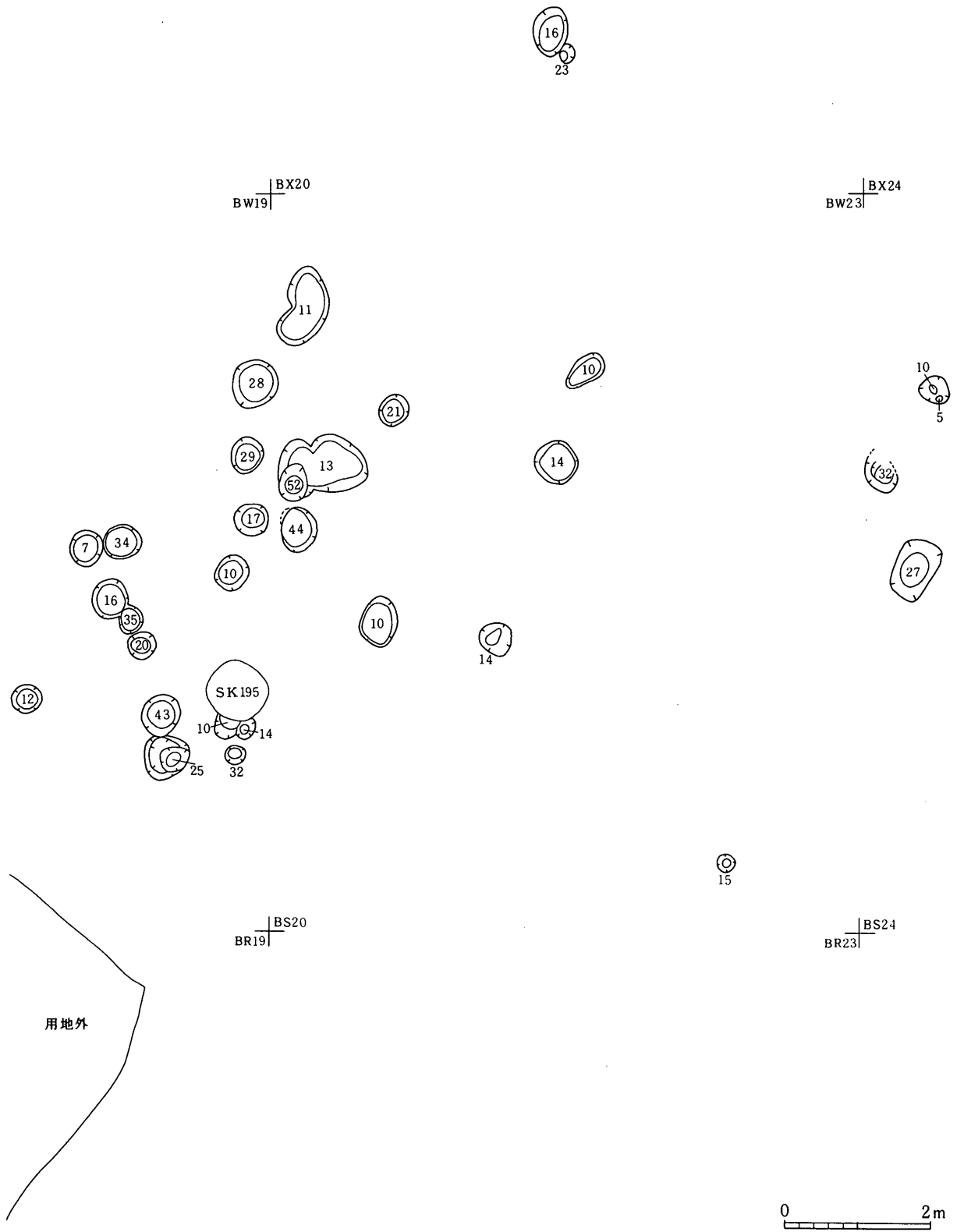
BF28 | BG27



第27図 ピット(3)

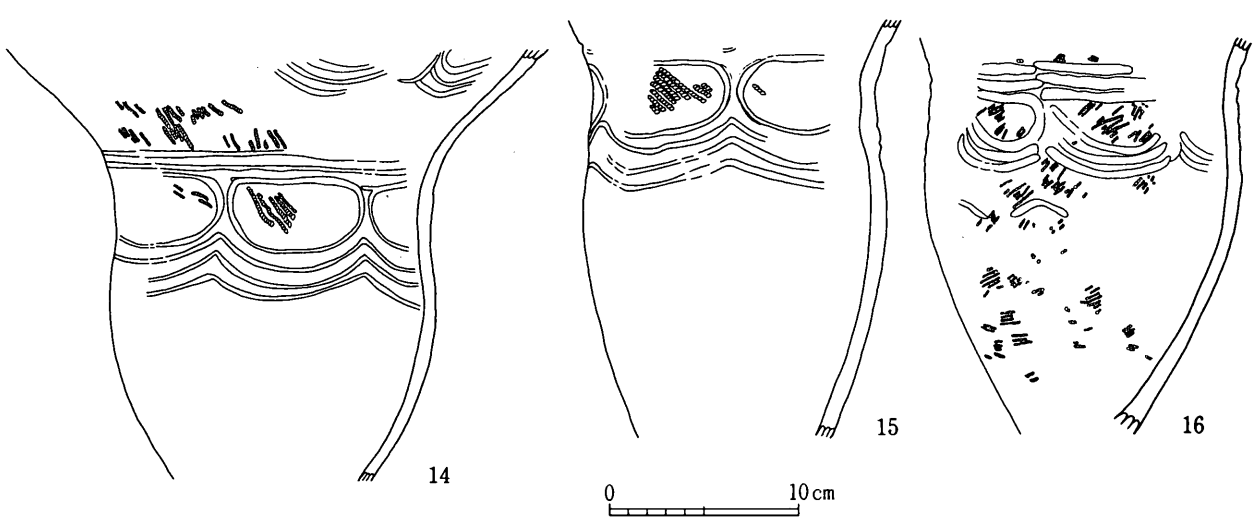
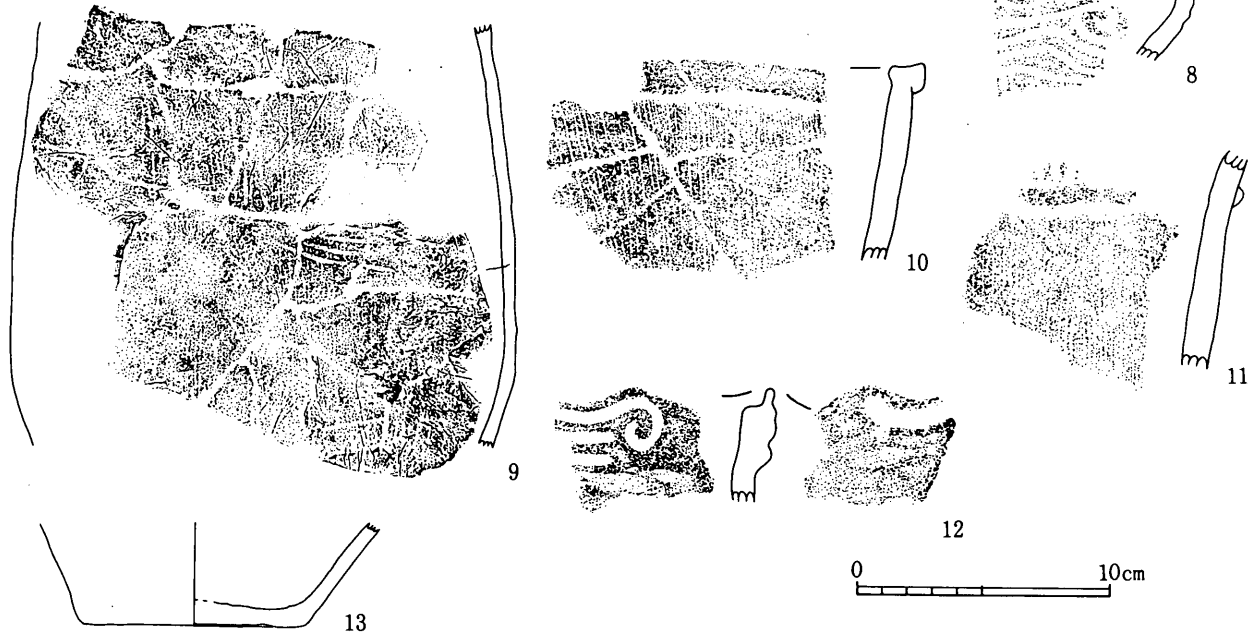
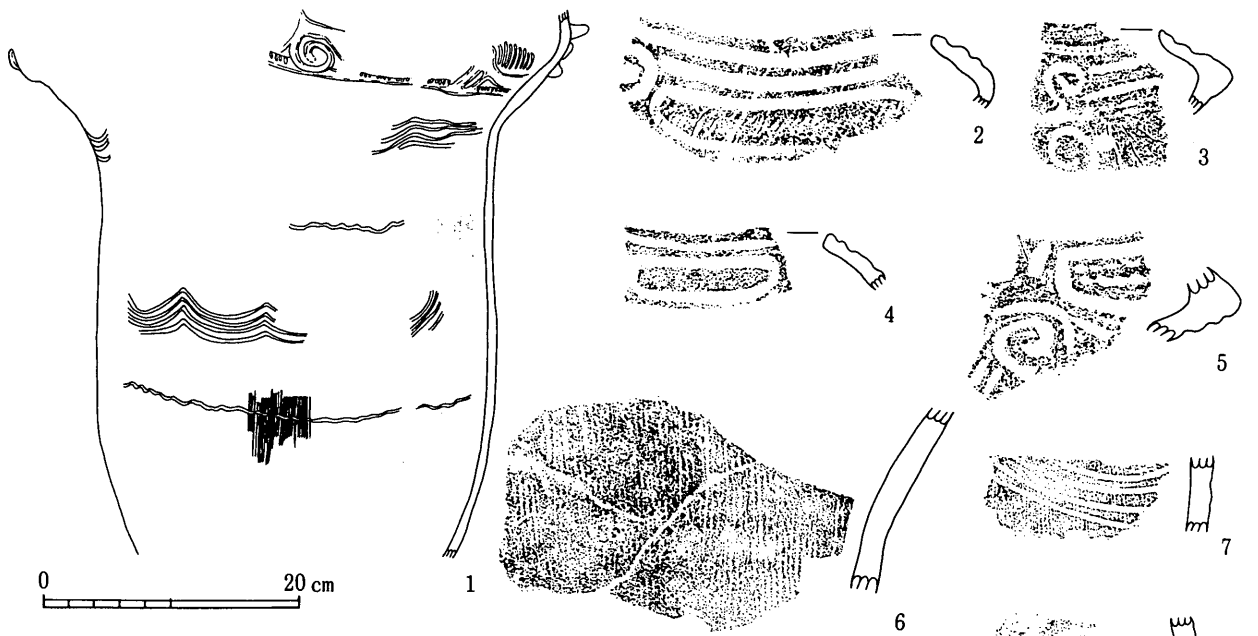


第28図 ピット(4)

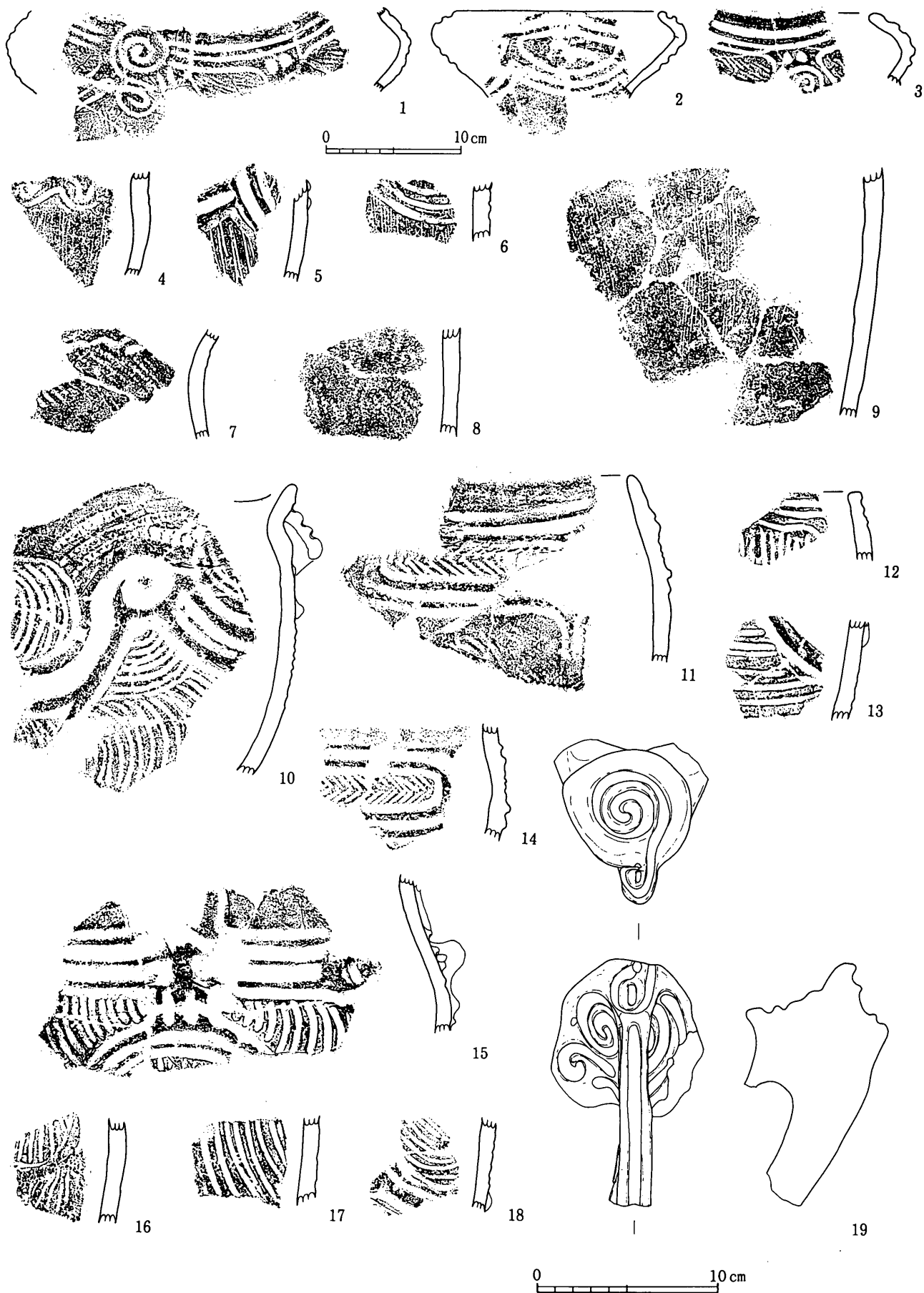


第29図 ピット(5)

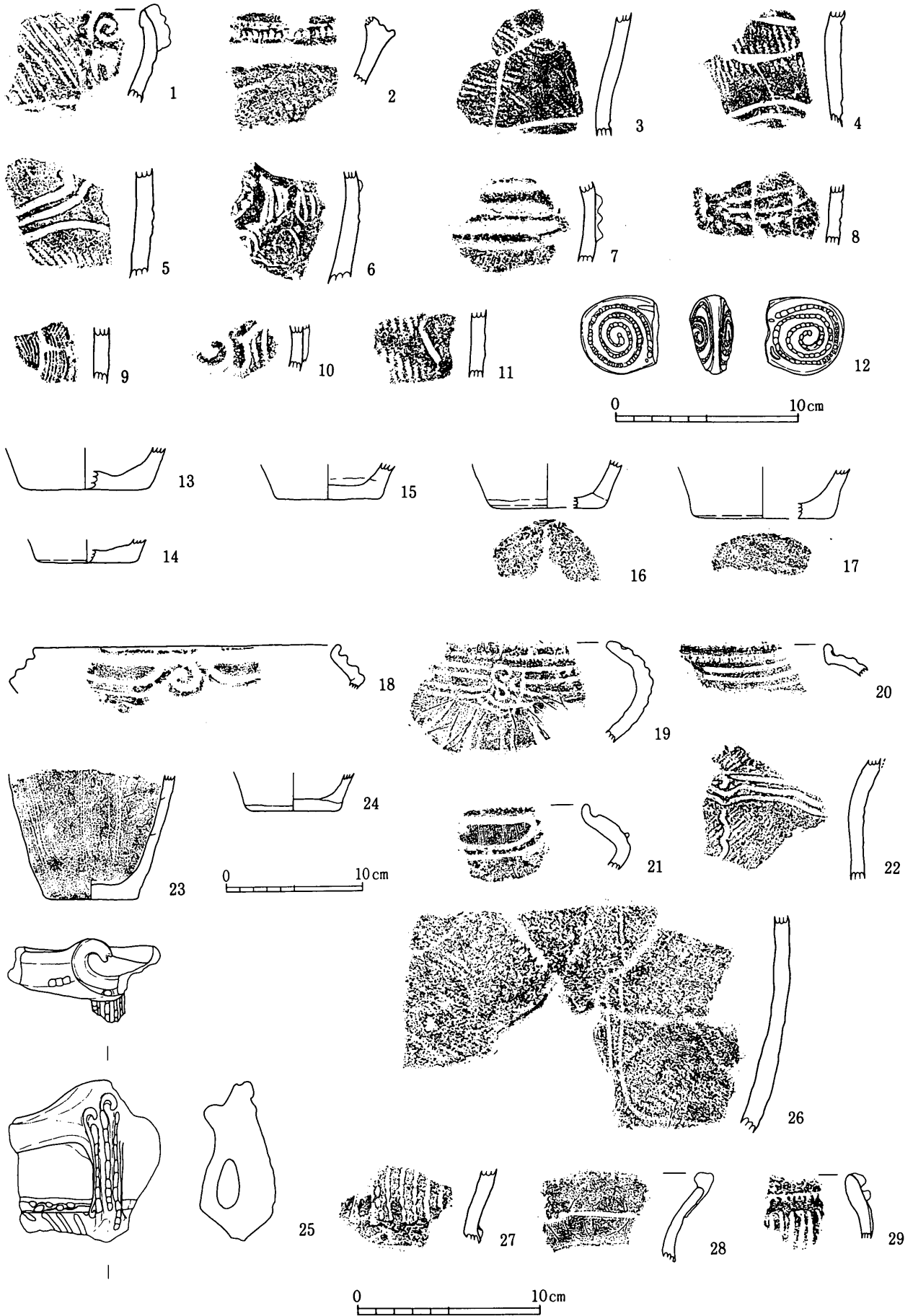




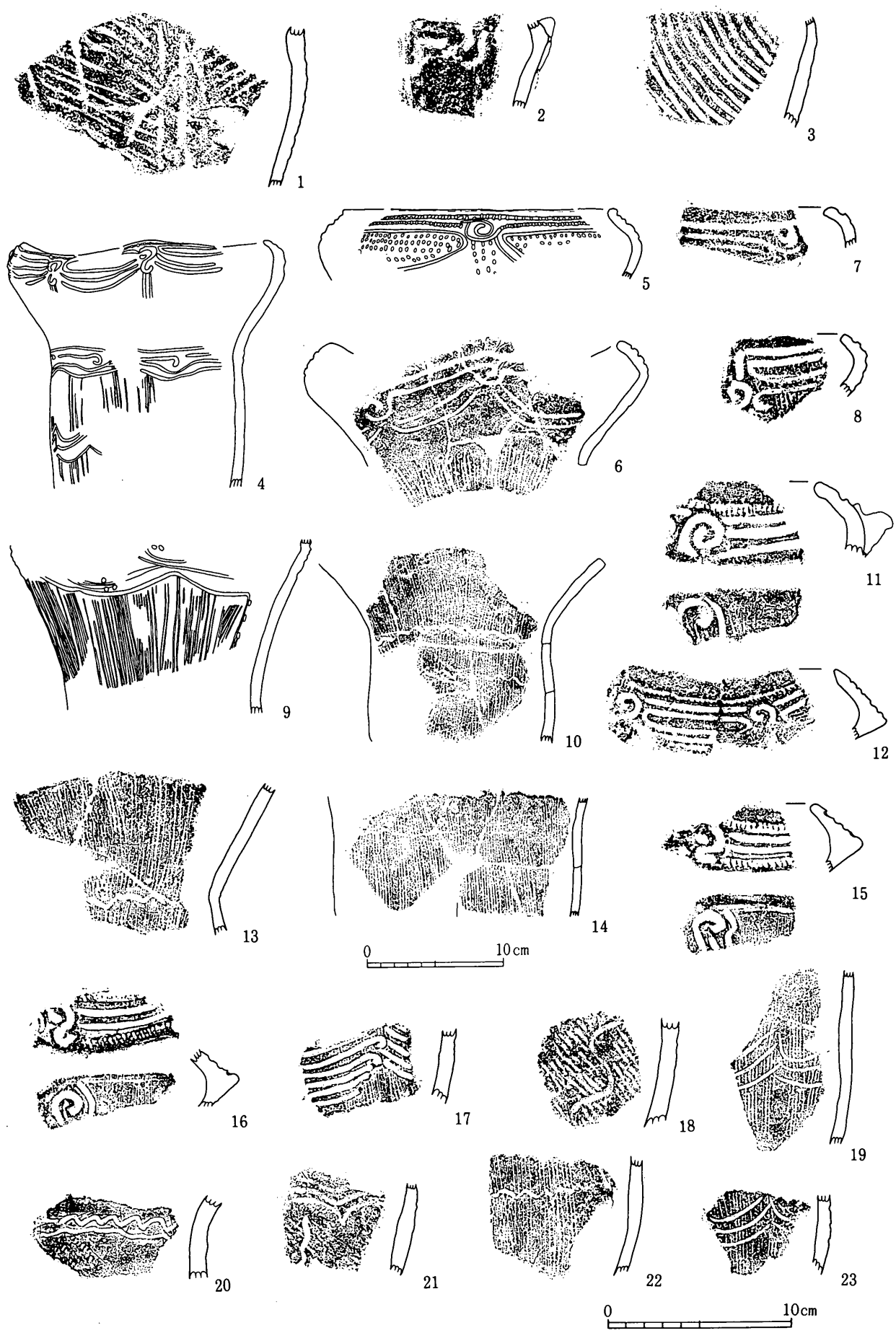
第30圖 出土遺物 1~13 SB07  
14~16 SB08



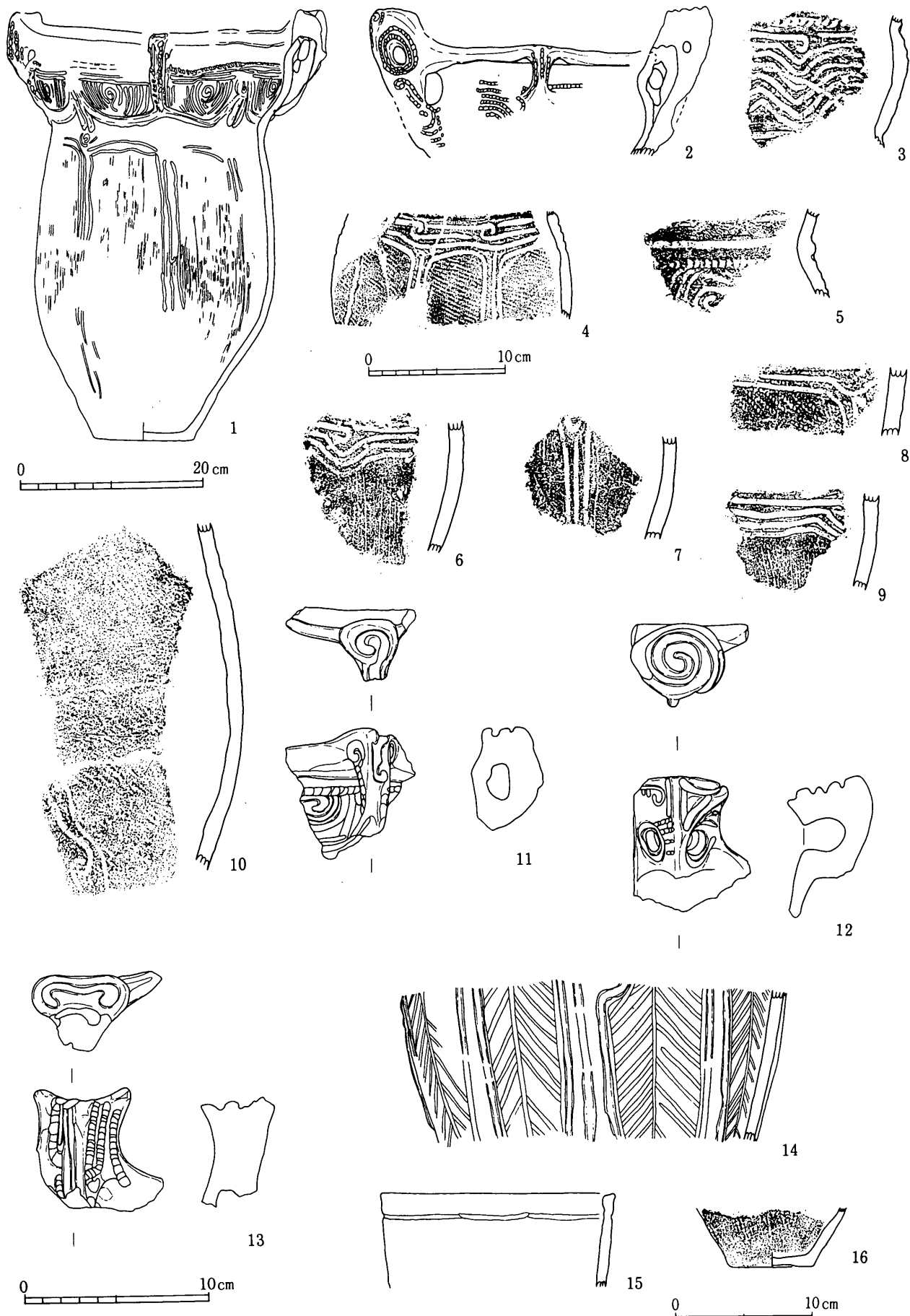
第31图 出土遺物 1~19 SB08



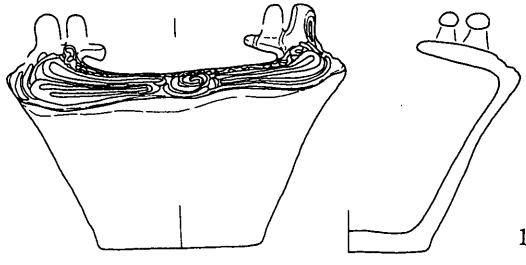
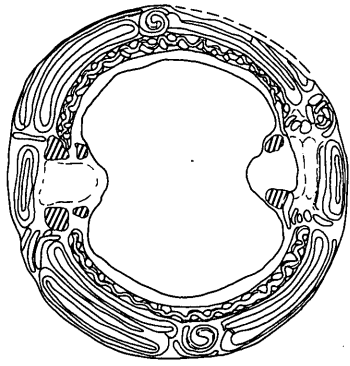
第32図 出土遺物 1~17 SB08  
18~29 SB09



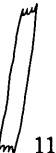
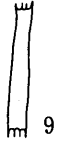
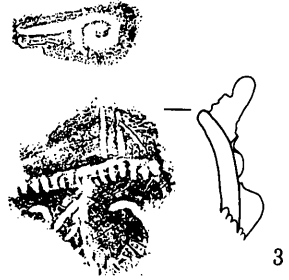
第33图 出土遺物 1~3 SB09 4~23 SB10



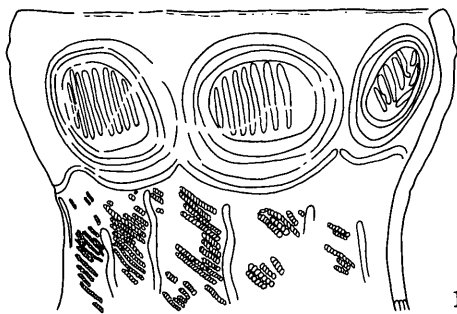
第34図 出土遺物 1~16 SB10



0 10cm



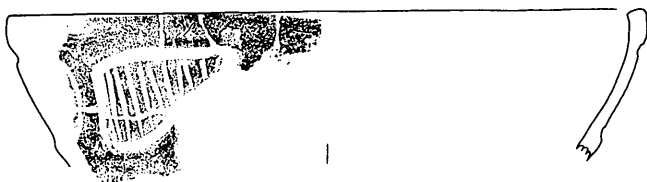
0 10cm



16



17



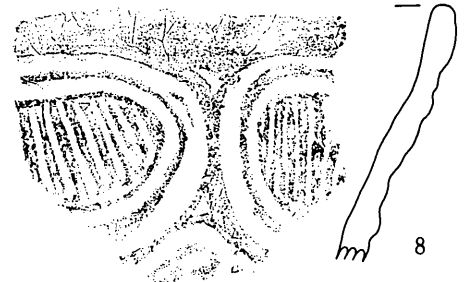
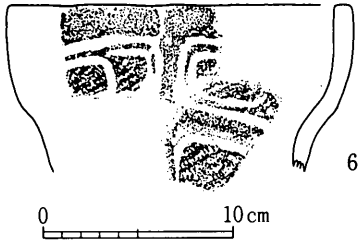
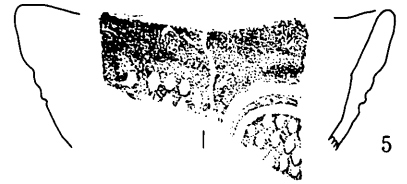
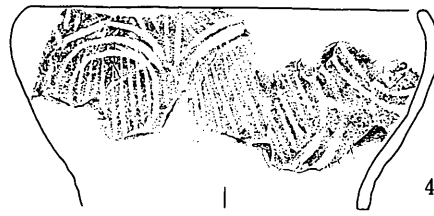
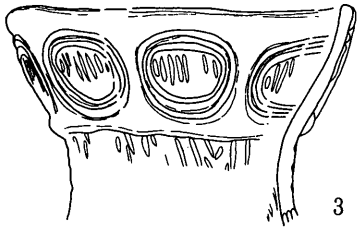
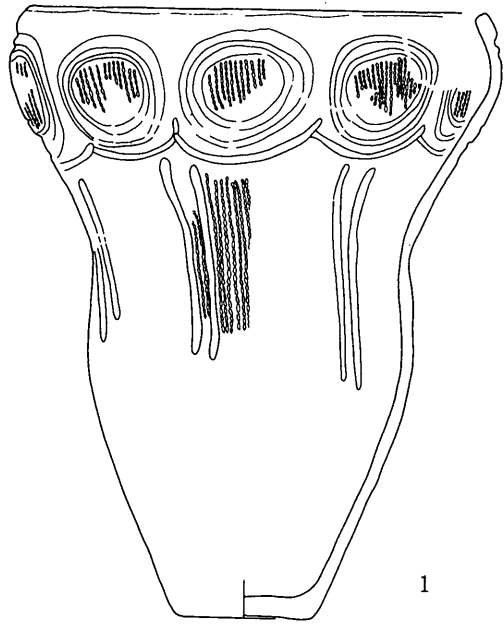
18



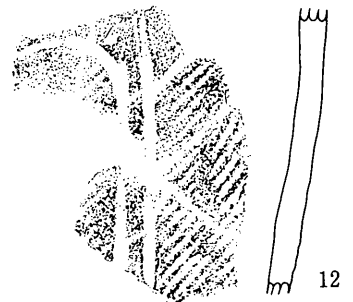
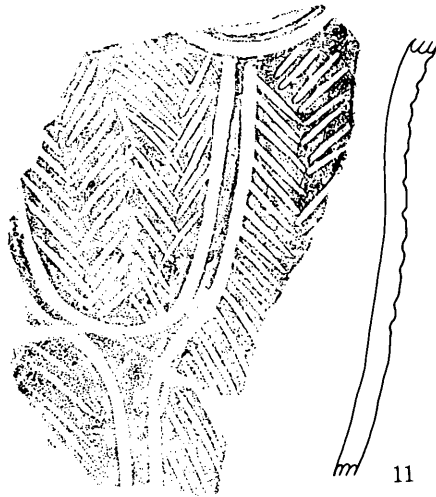
19

0 10cm

第35图 出土遺物 1~15 SB10 16~19 SB11

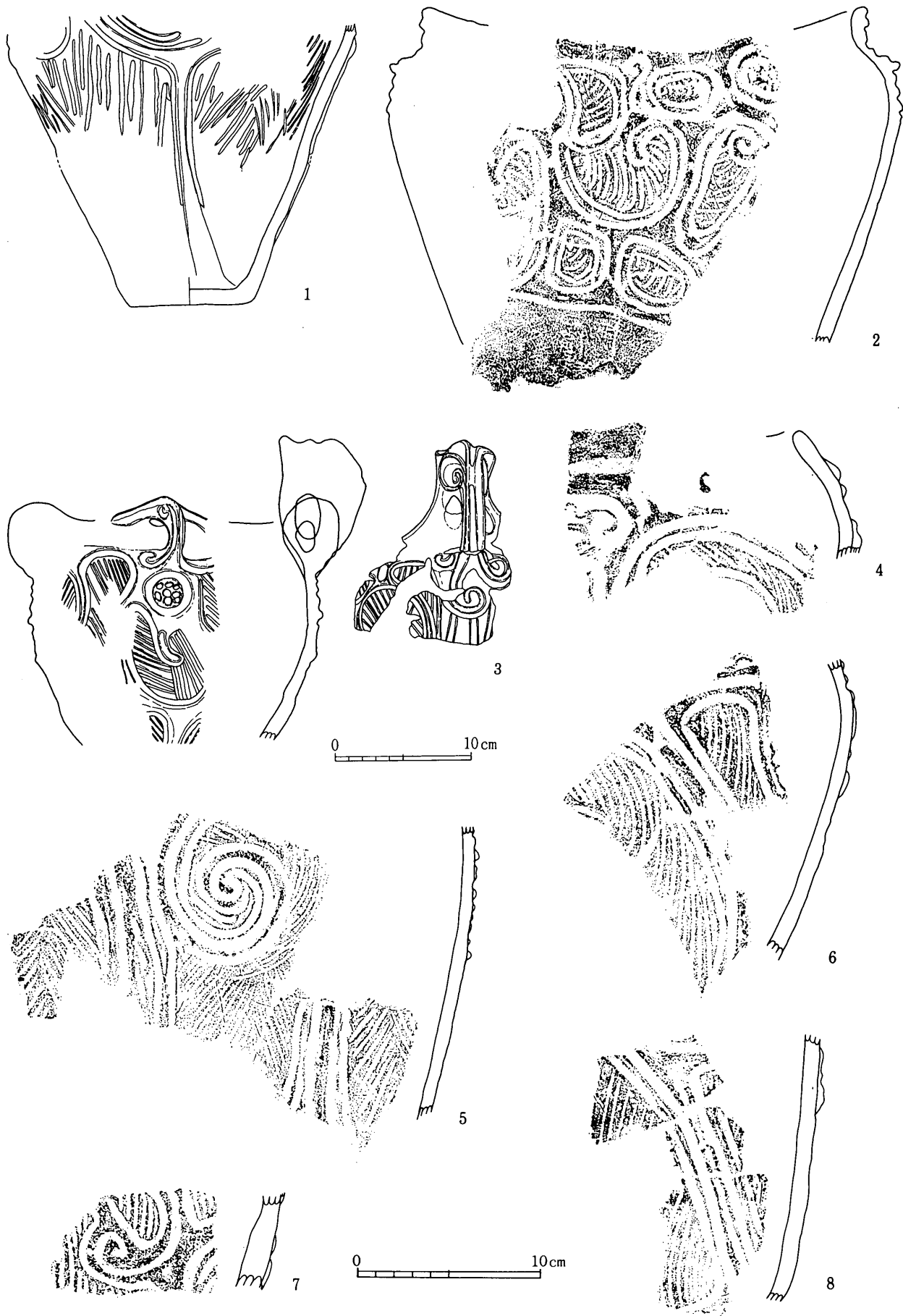


0 10 cm



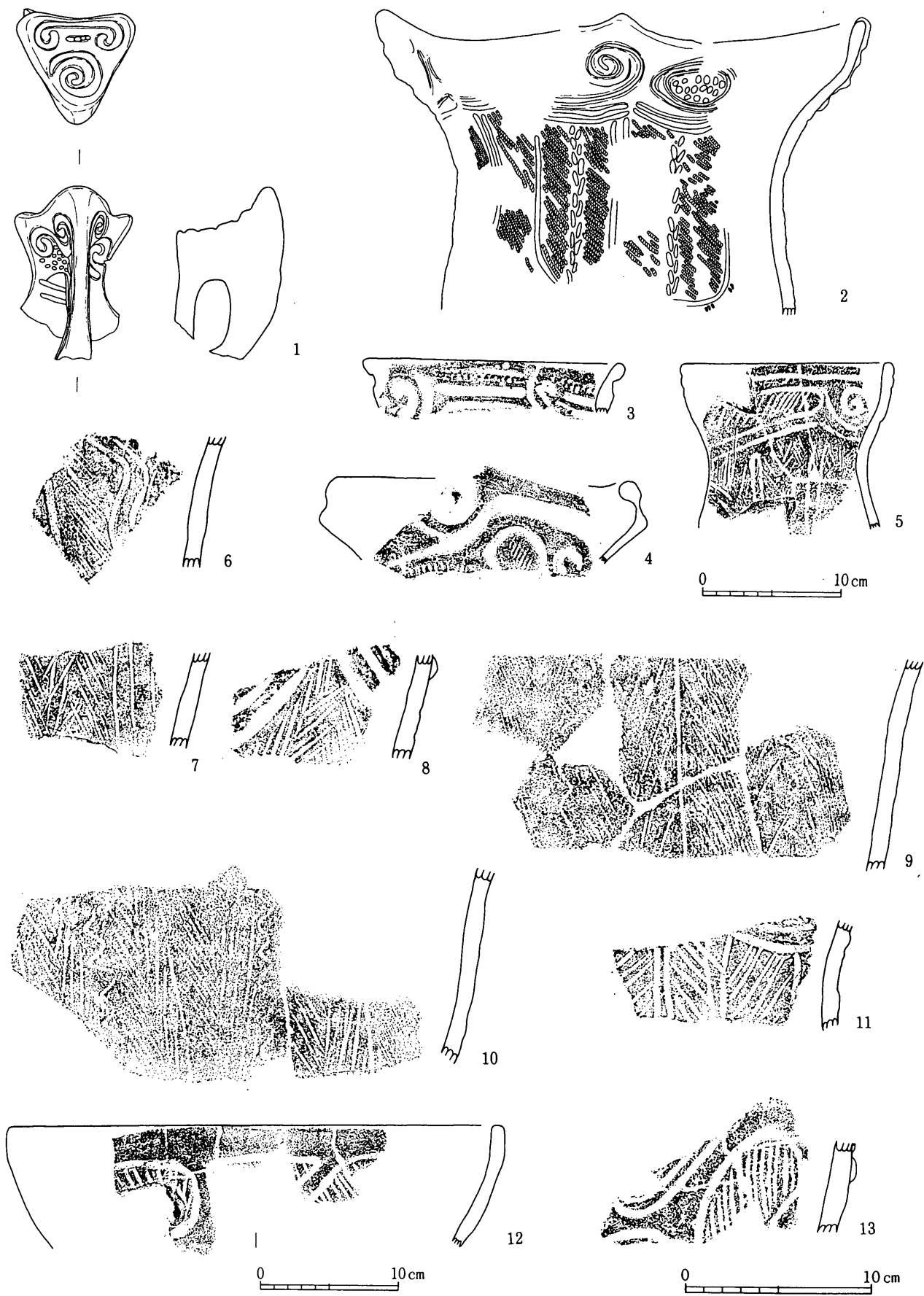
0 10 cm

第36図 出土遺物 1~12 SB11

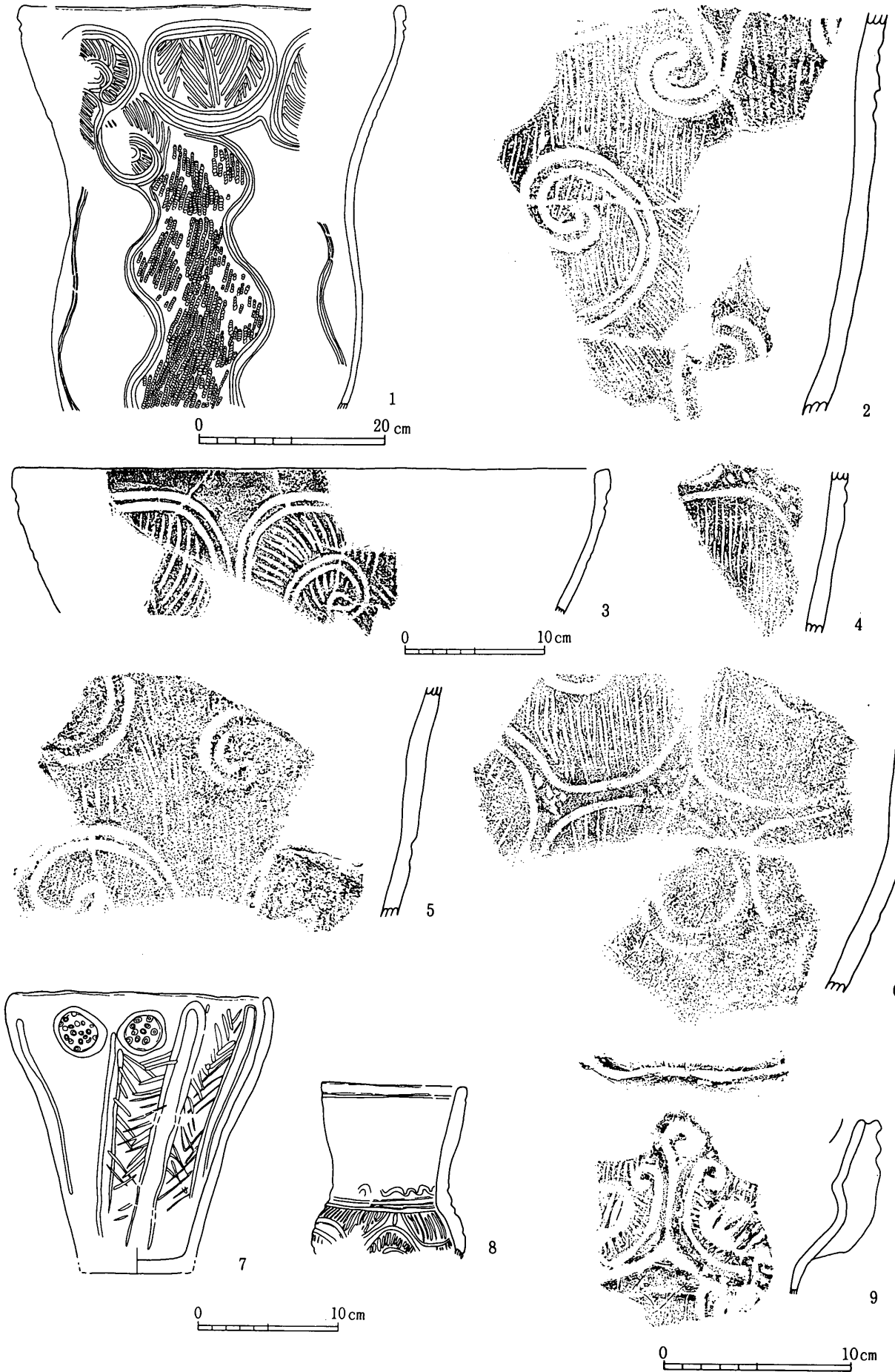


第37図 出土遺物 1~8 SB11

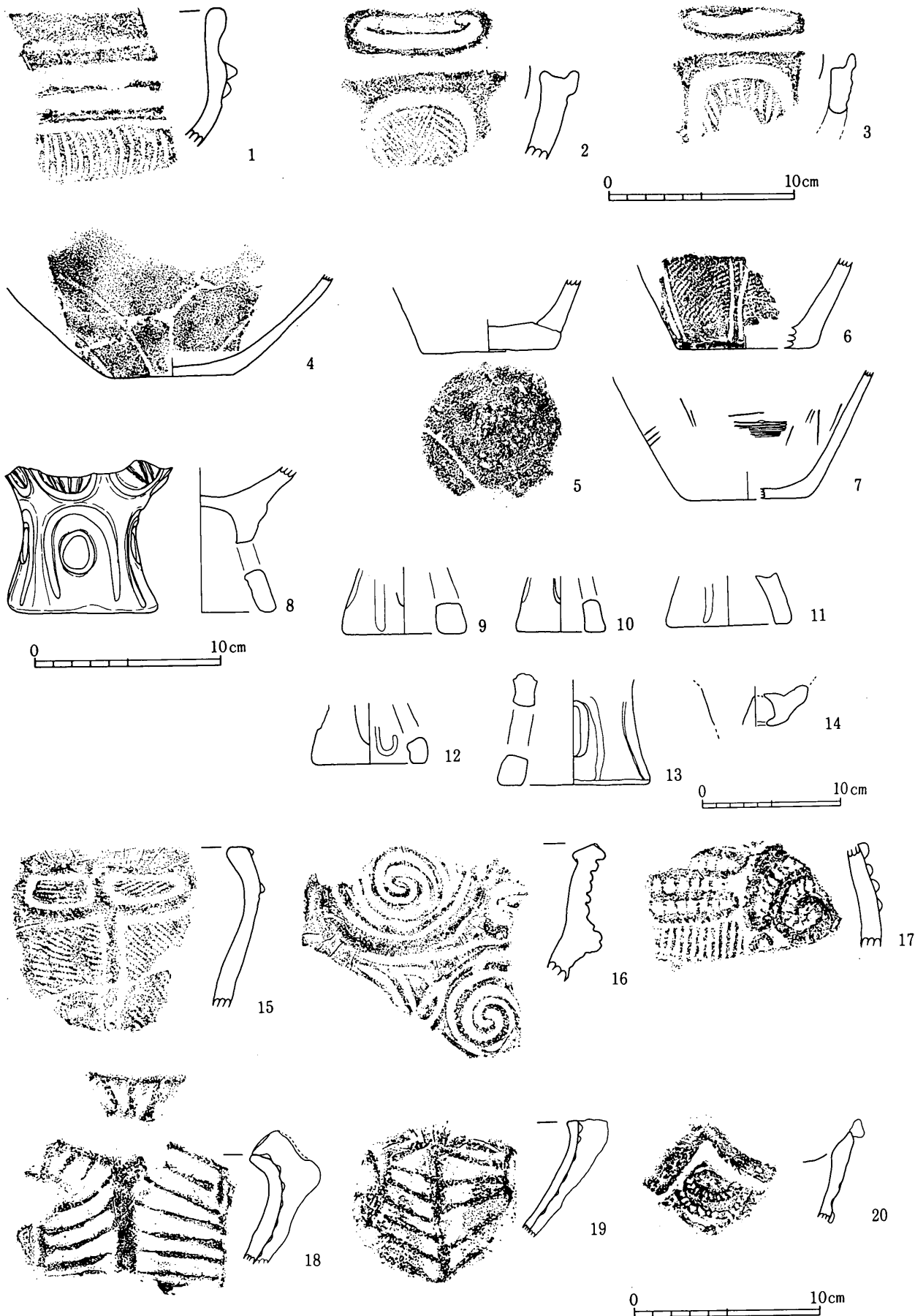




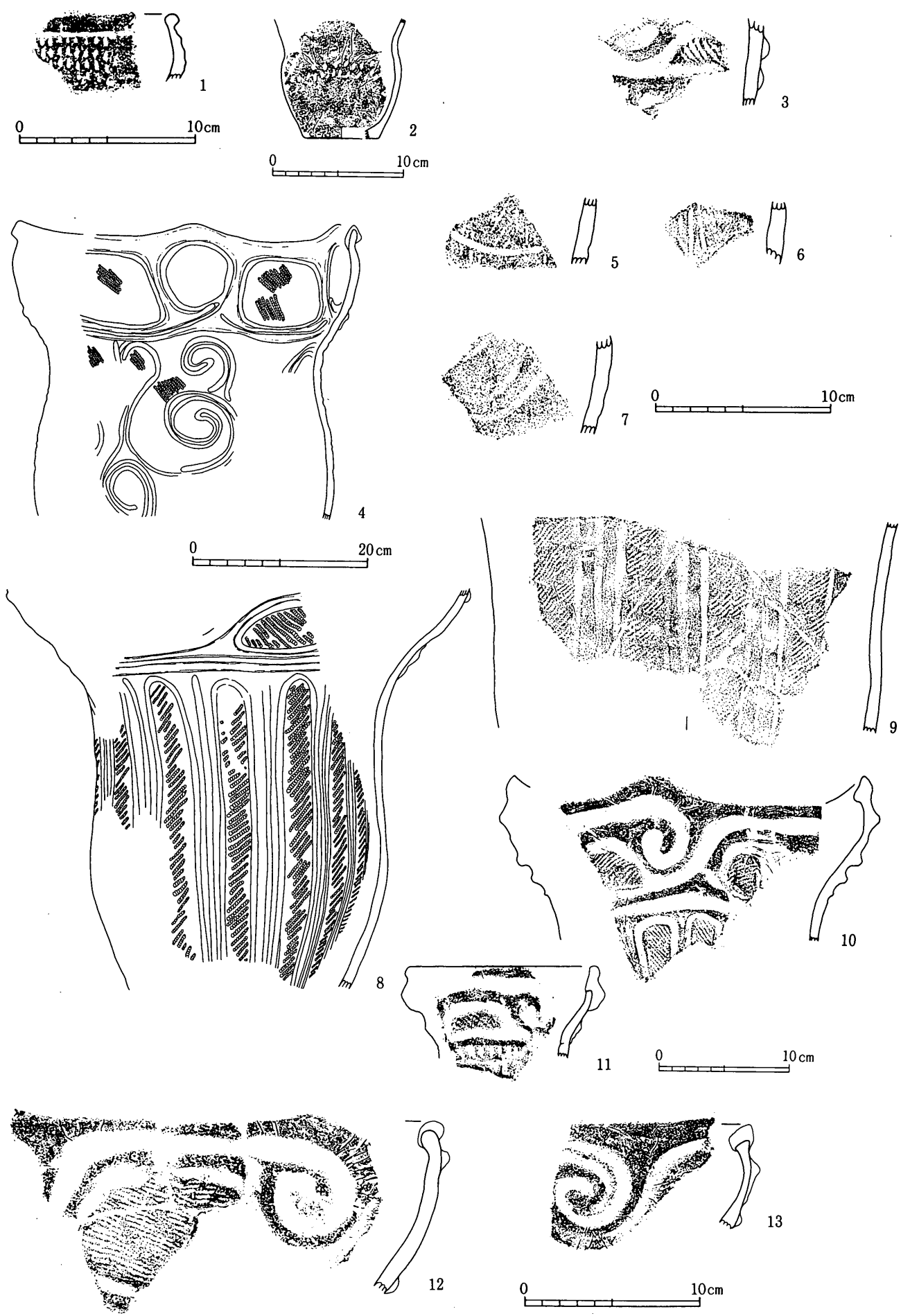
第38図 出土遺物 1~13 SB11



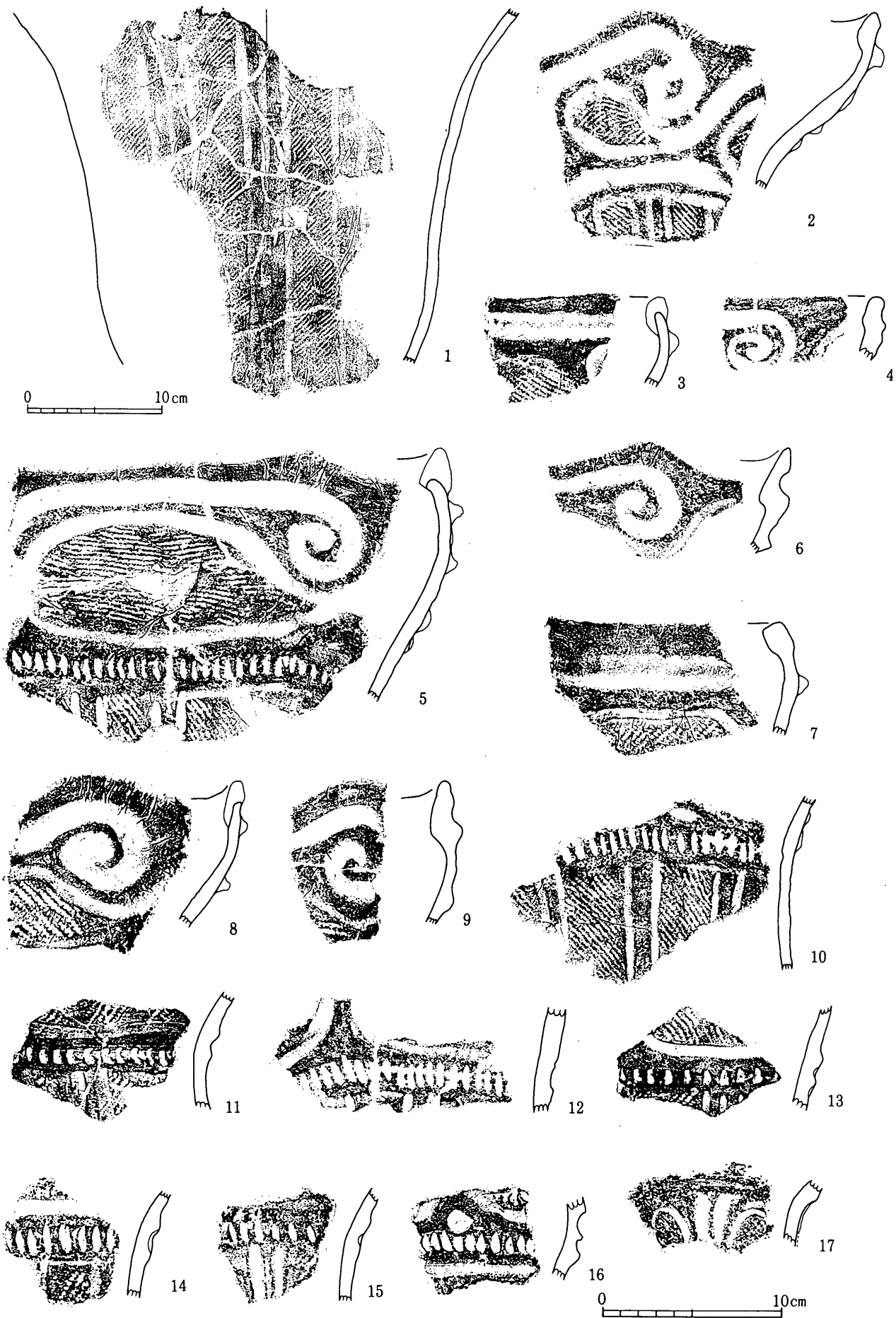
第39図 出土遺物 1~9 SB11



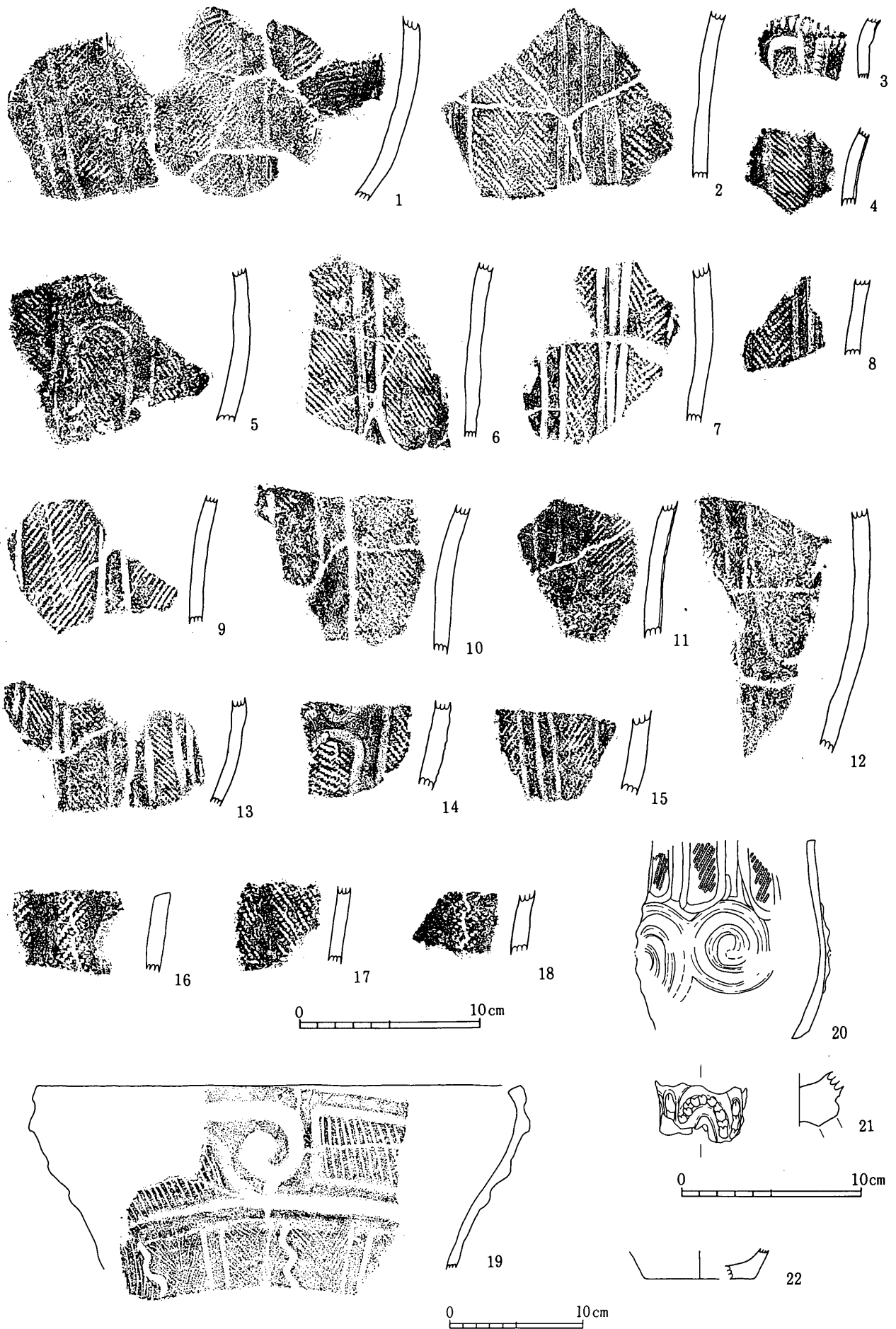
第40図 出土遺物 1~14 SB11  
 15~20 SB12



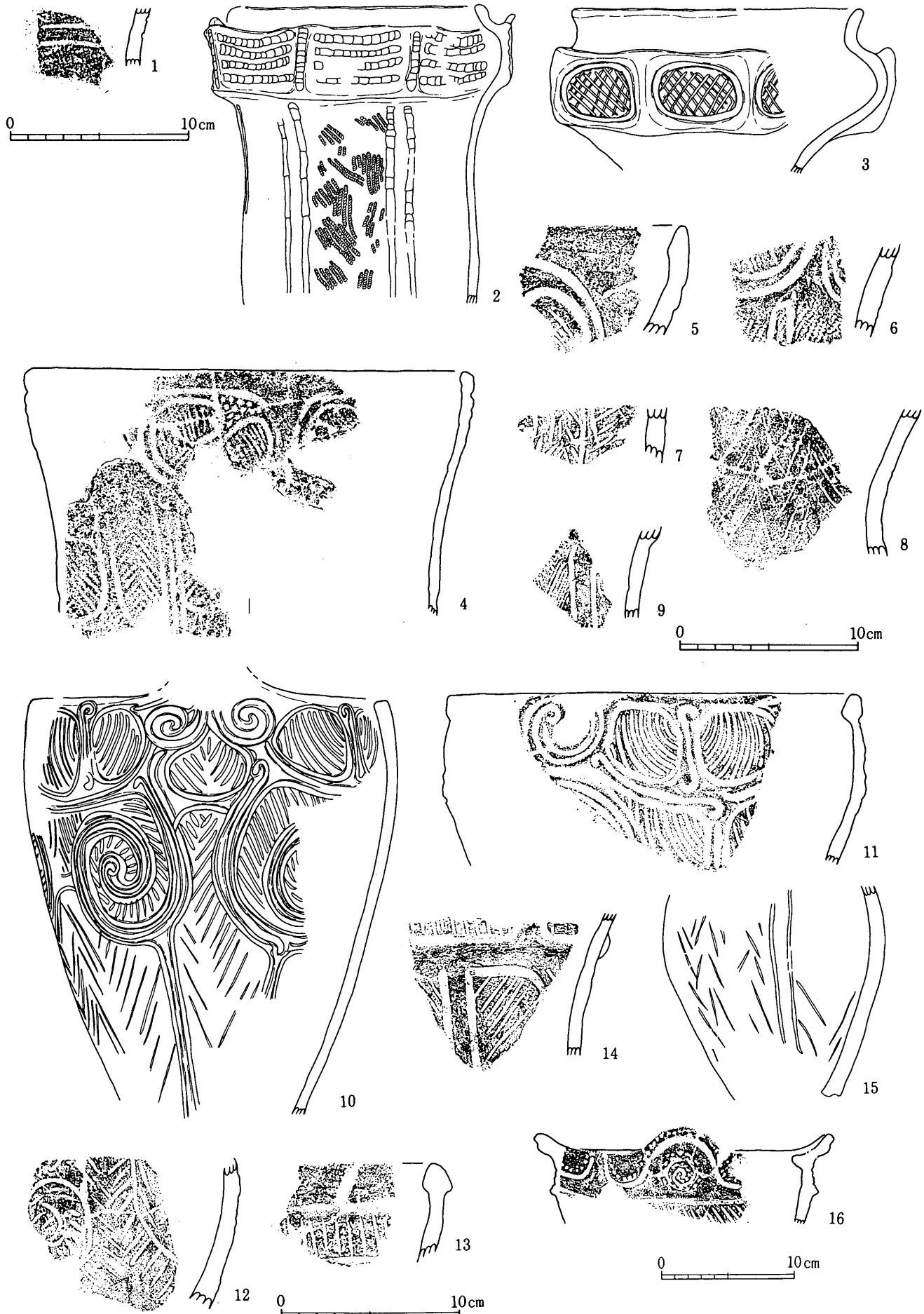
第41图 出土遺物 1・2 SB13 4~7 SB17  
3 SB16 8~13 SB18



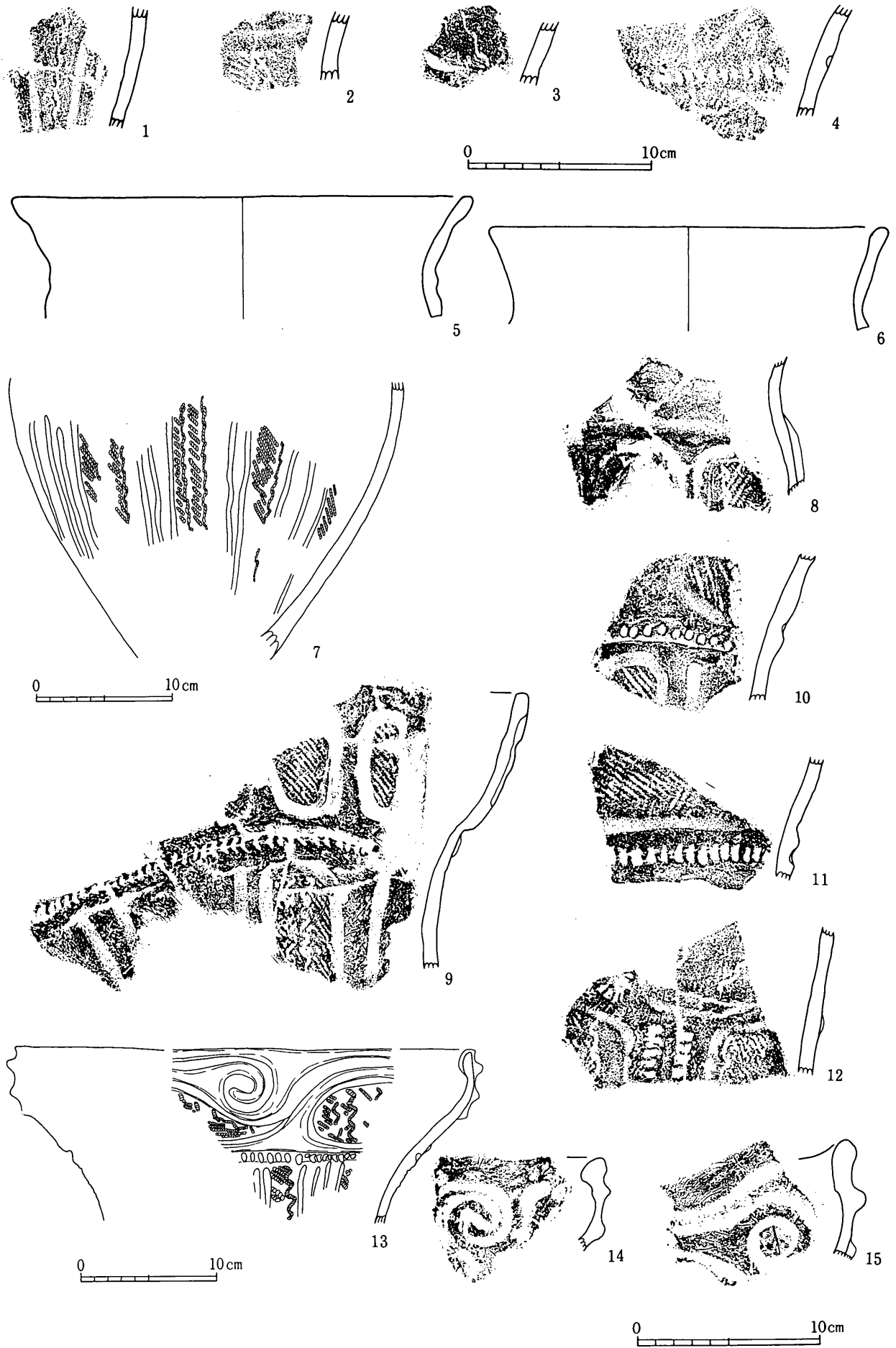
第42図 出土遺物 1~17 S B 18



第43図 出土遺物 1~22 S B 18

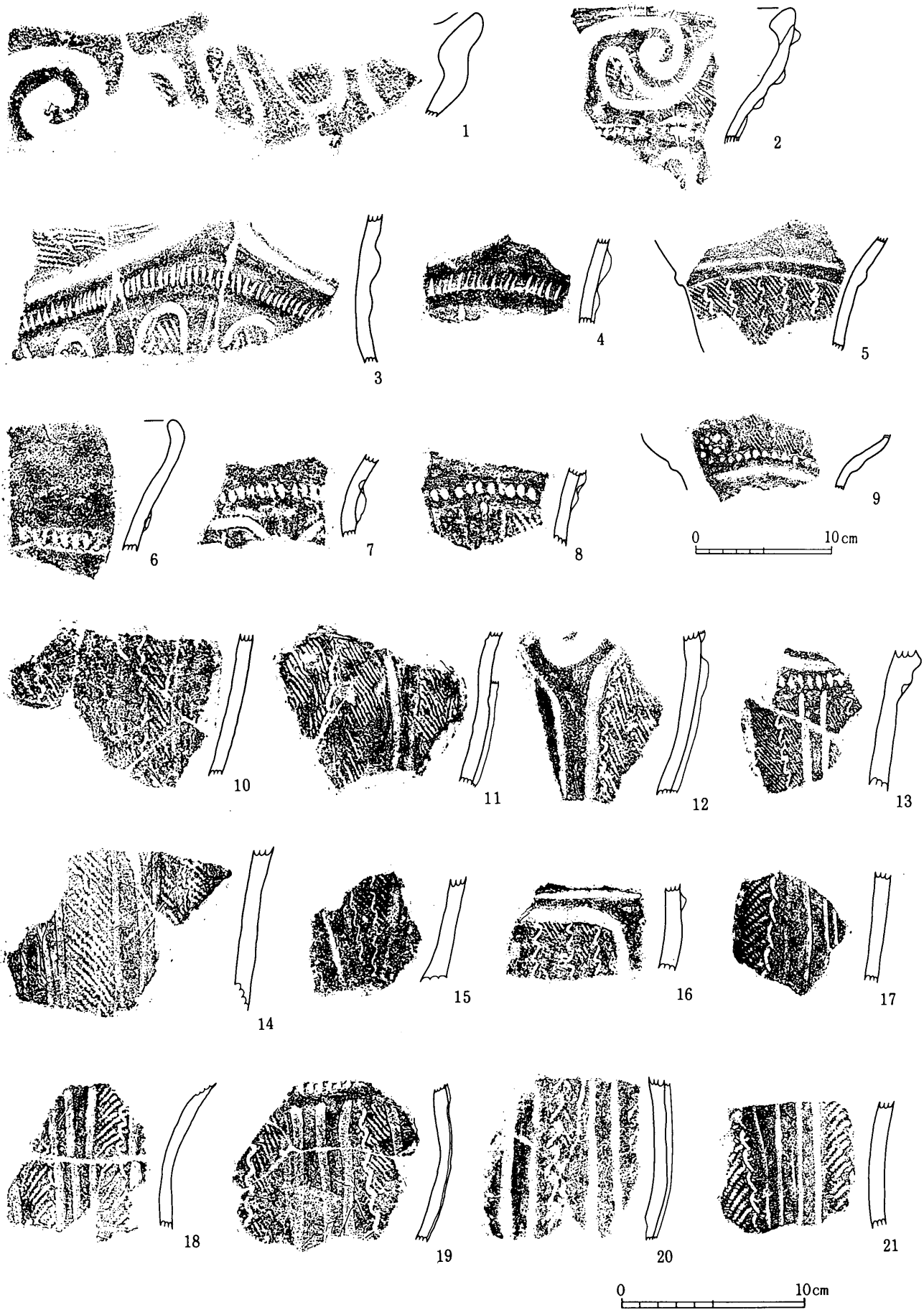


第44图 出土遺物 1 SB19  
2~16 SB20

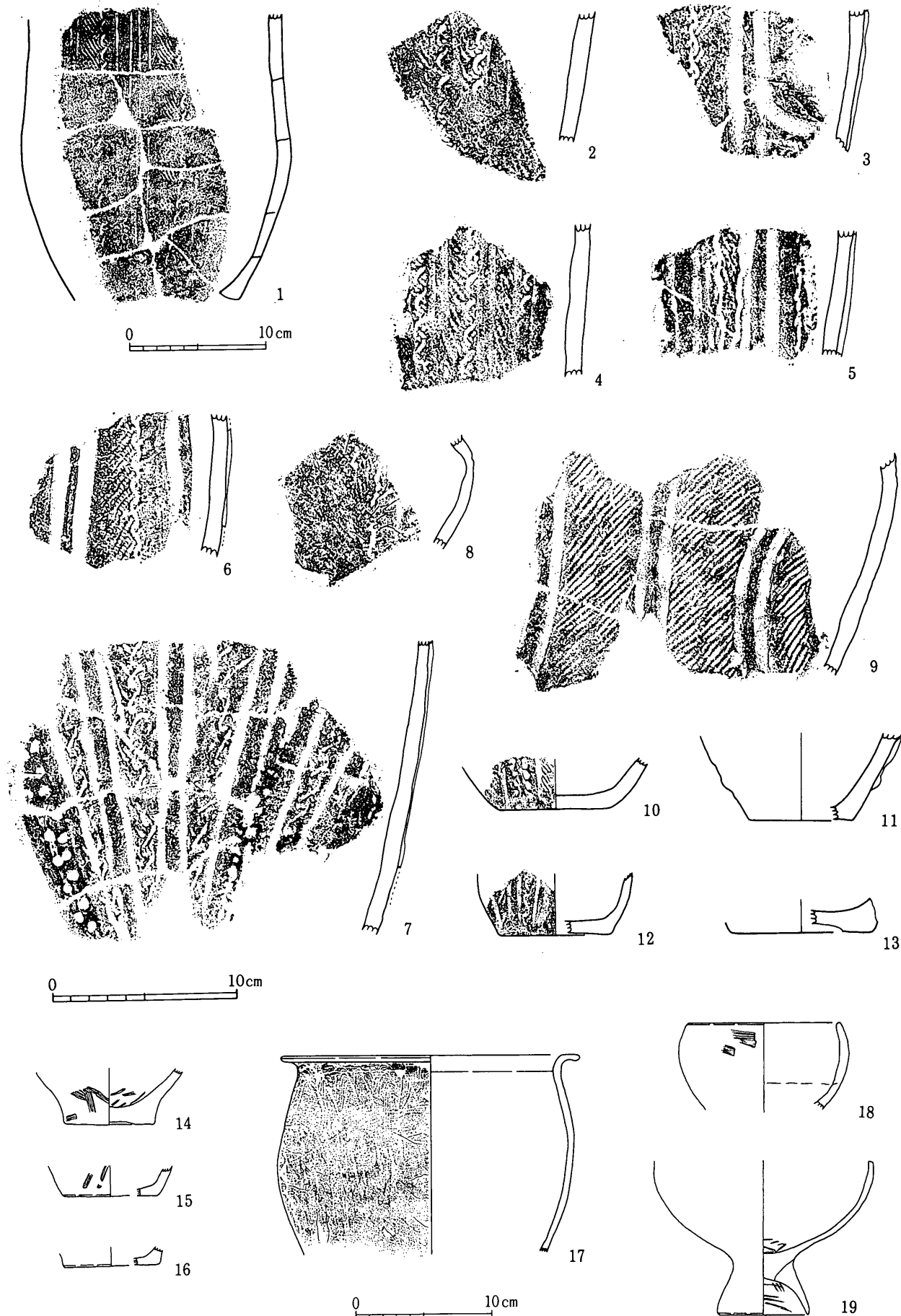


第45図 出土遺物 1~4 SB24  
5~15 SB25

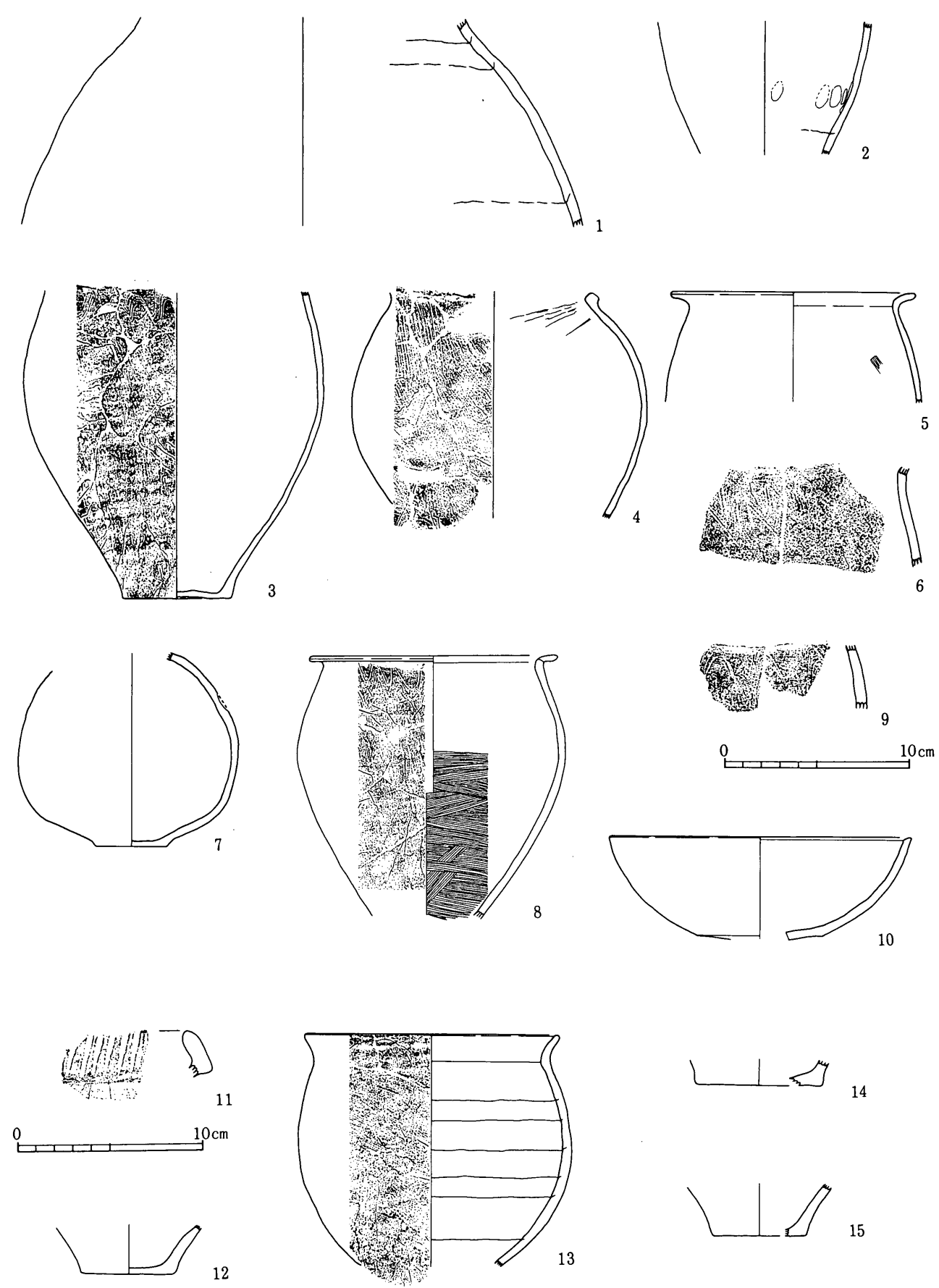




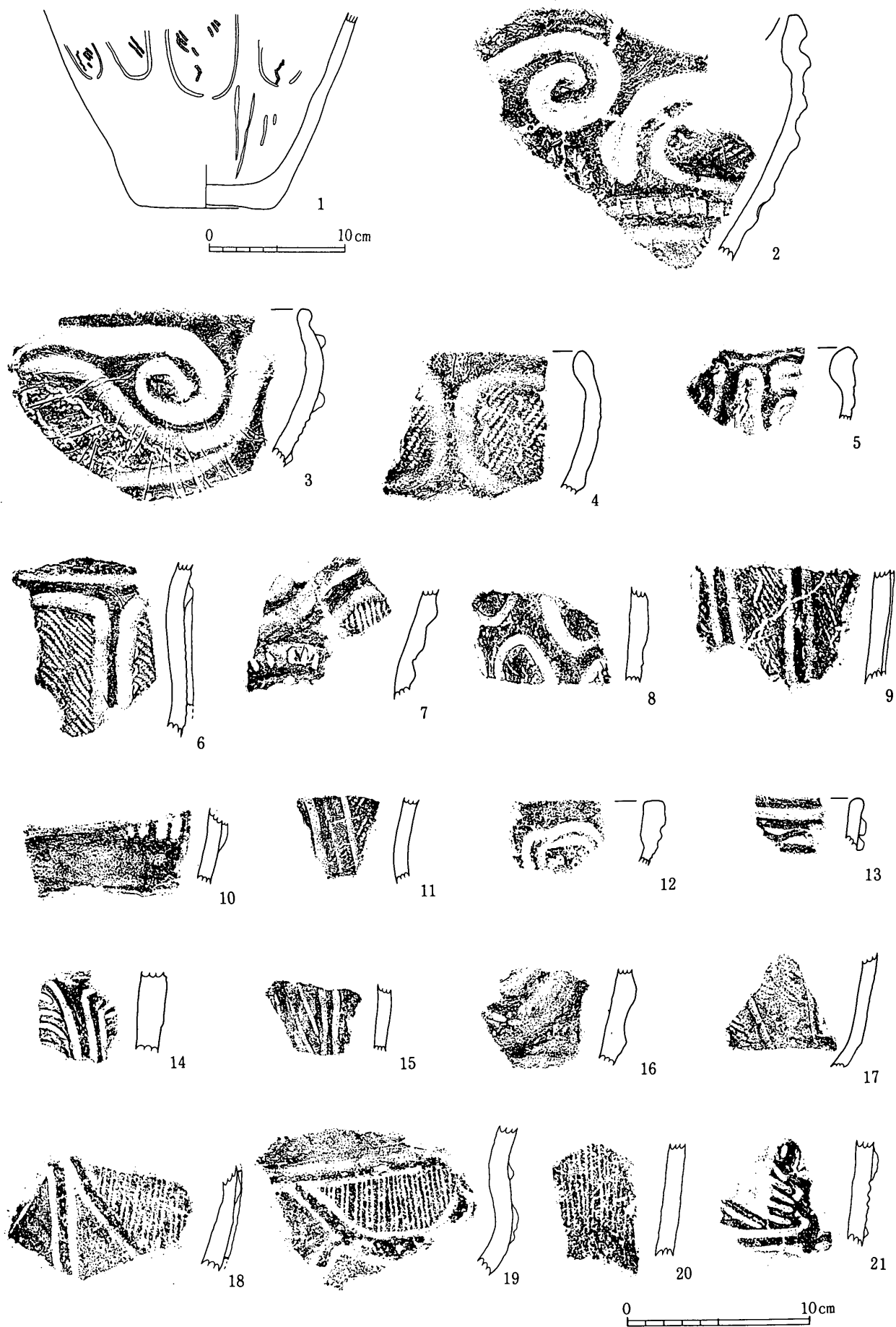
第46図 出土遺物 1~21 S B 25



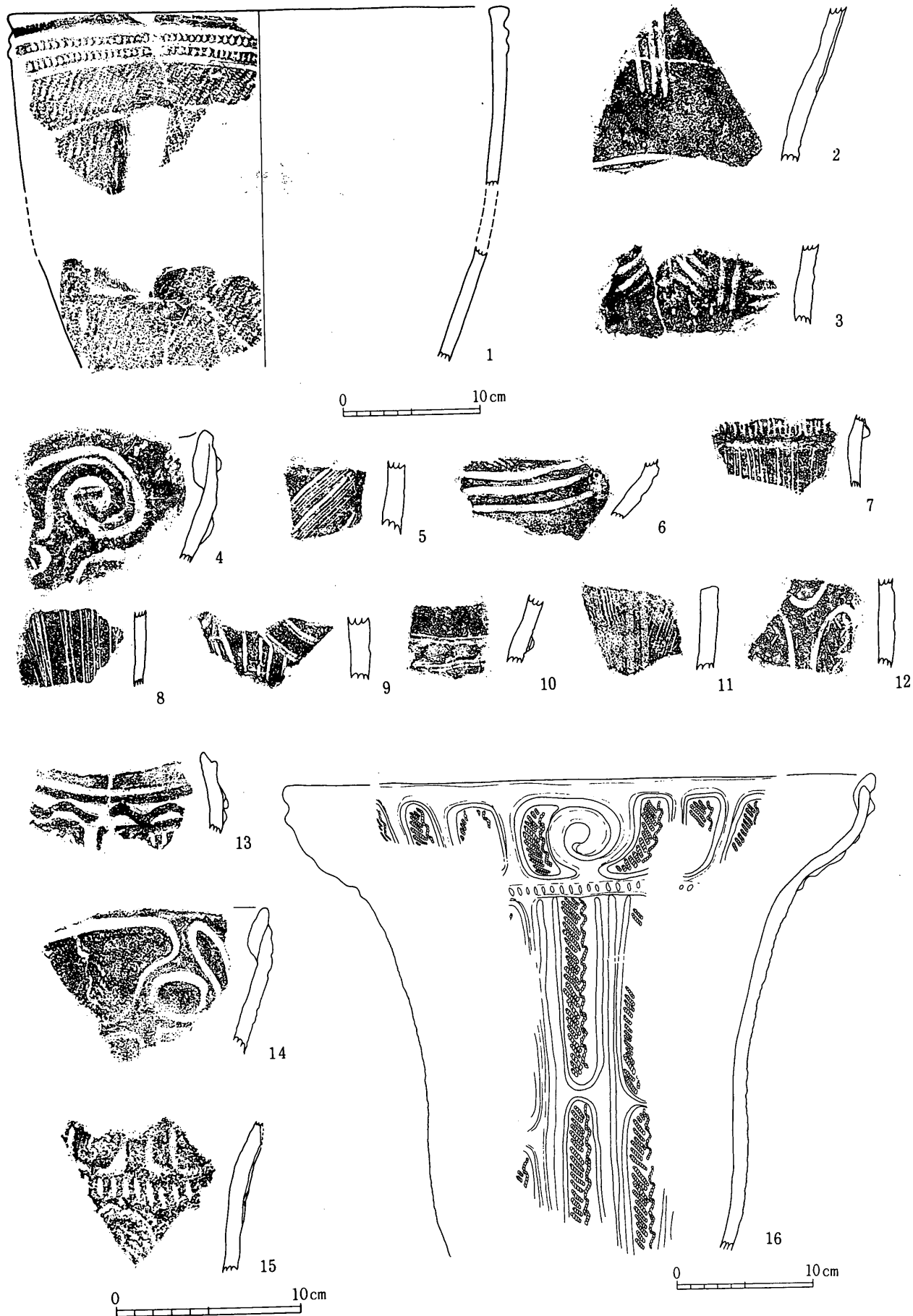
第47図 出土遺物 1~13 SB25  
14~19 SB14



第48図 出土遺物 1~3 SB15 7~10 SB22  
4~6 SB21 11~15 SB23

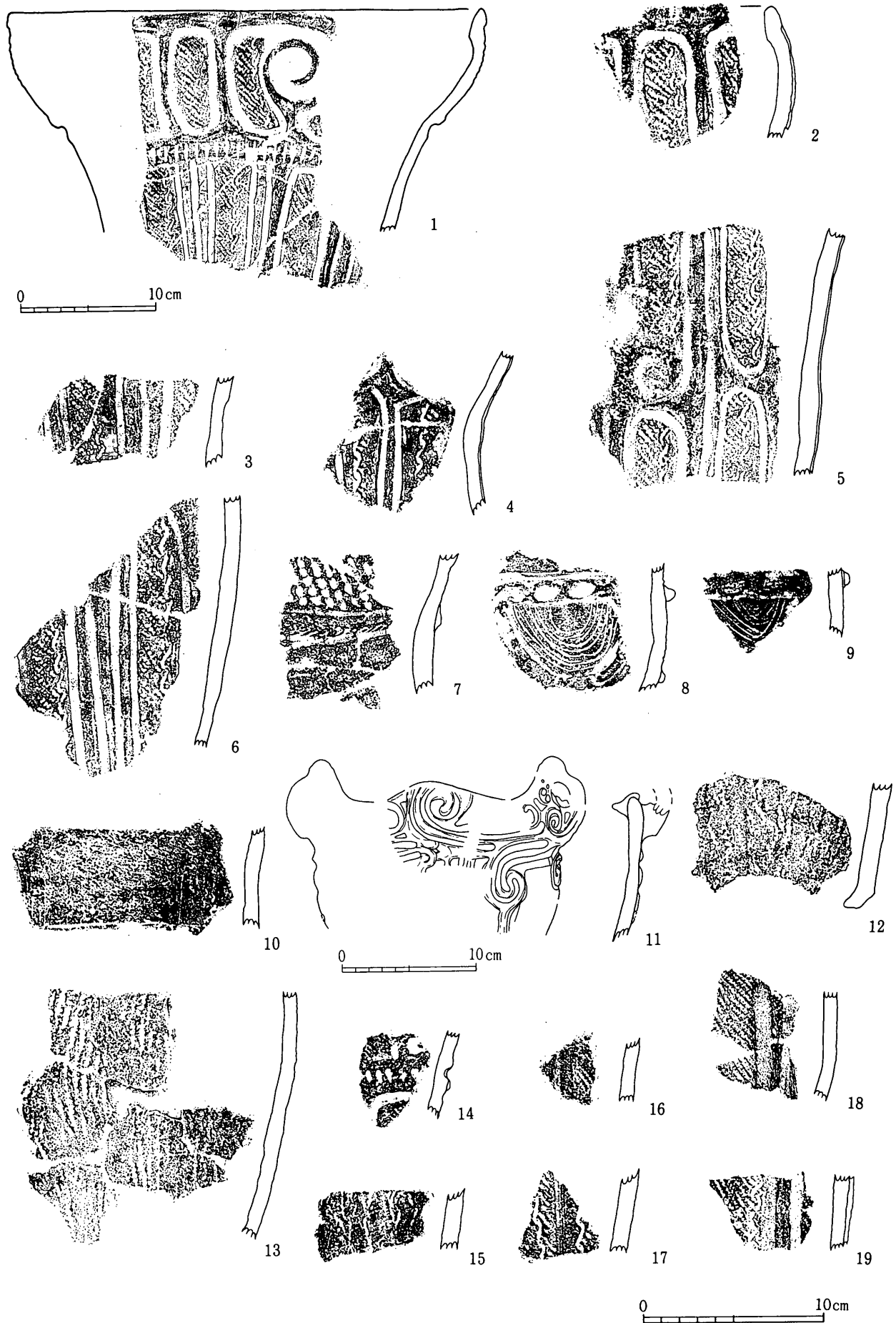


第49図 出土遺物 1~17 ST01  
 18~21 SK148



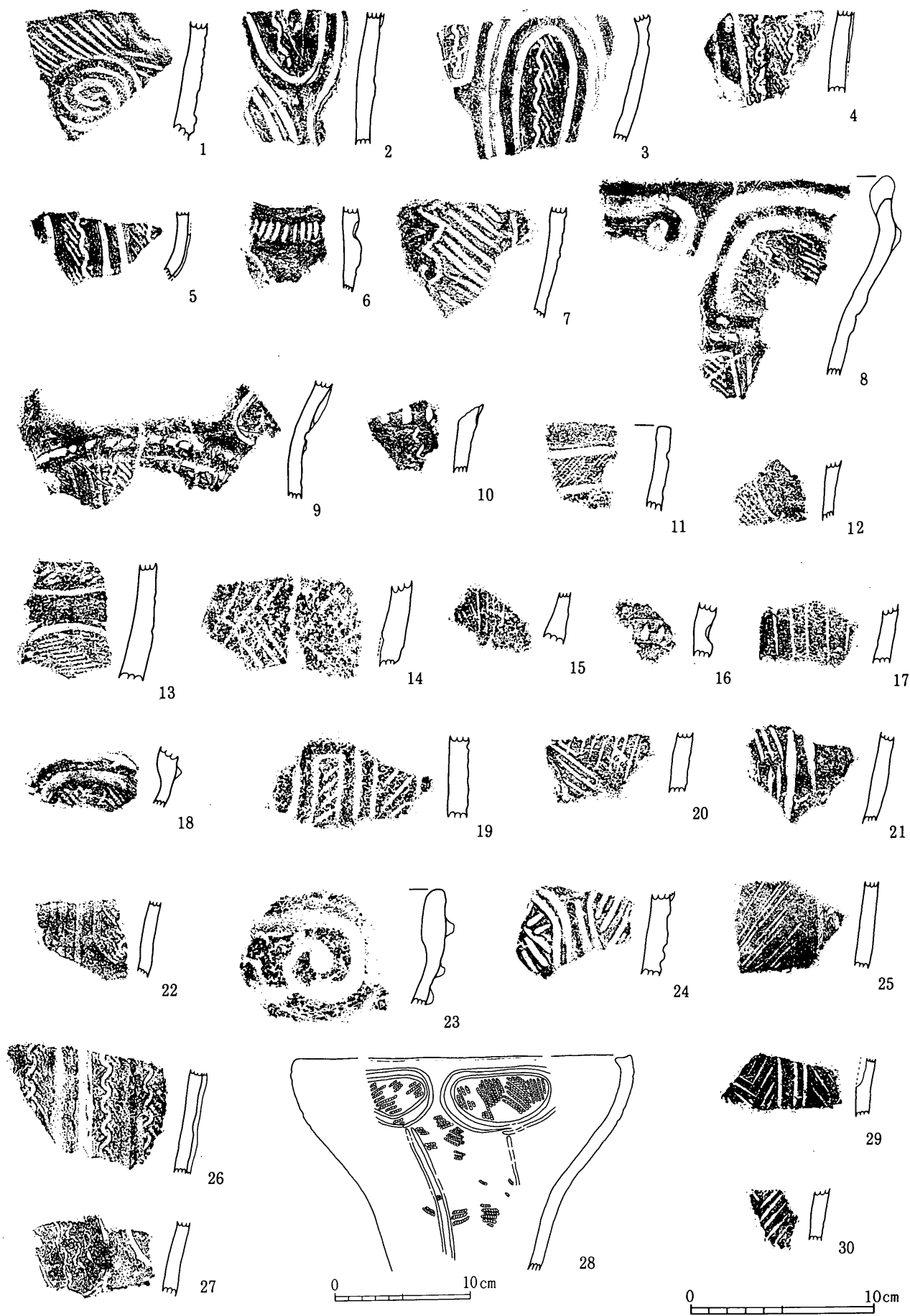
第50図 出土遺物

- |     |       |      |       |       |       |
|-----|-------|------|-------|-------|-------|
| 1   | SK148 | 6    | SK154 | 13    | SK160 |
| 2・3 | SK150 | 7・8  | SK157 | 14~16 | SK162 |
| 4・5 | SK151 | 9~12 | SK158 |       |       |



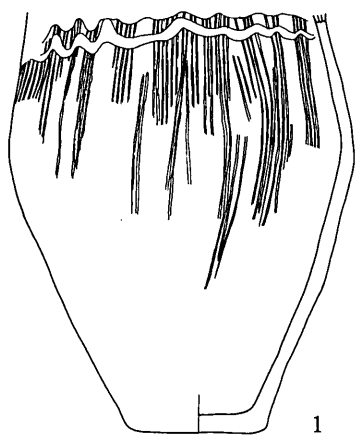
第51図 出土遺物

1~6	SK162	14・15	SK169
7~10	SK163	16・17	SK170
11~13	SK168	18・19	SK172

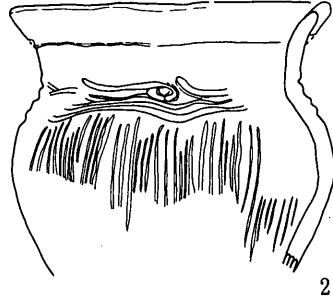


第52図 出土遺物

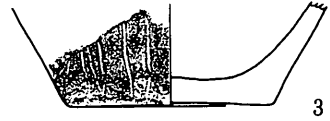
1~5	SK174	14~17	SK189	24~27	SK194
6・7	SK175	18	SK191	28	SK195
8~10	SK180	19~22	SK192	29~30	SK196
11~13	SK185	23	SK193		



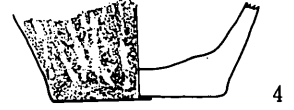
1



2



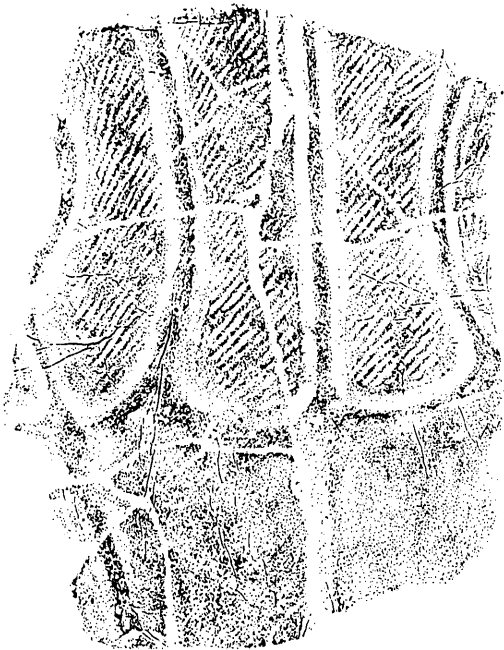
3



4



5



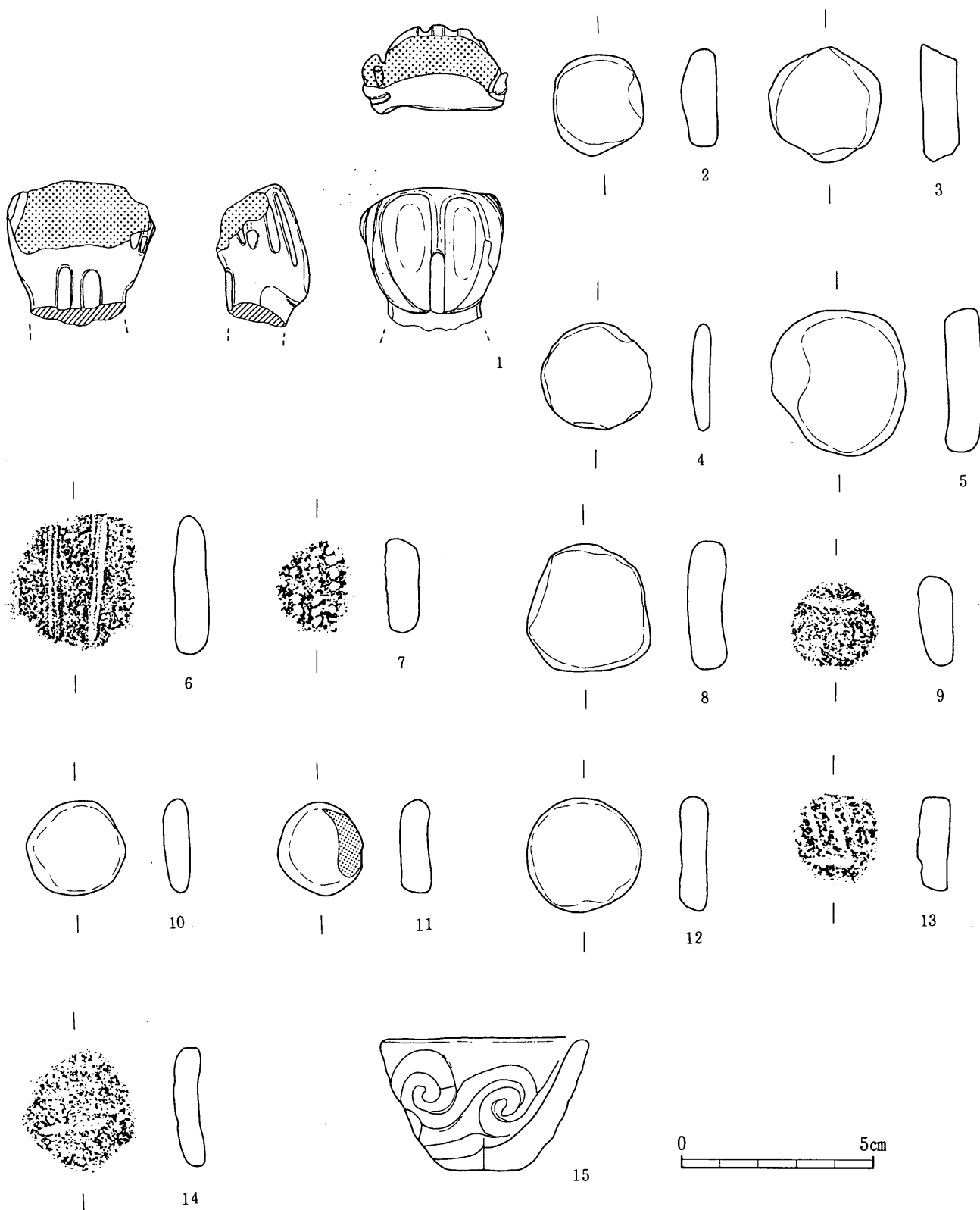
6

0 10 cm

0 10 cm

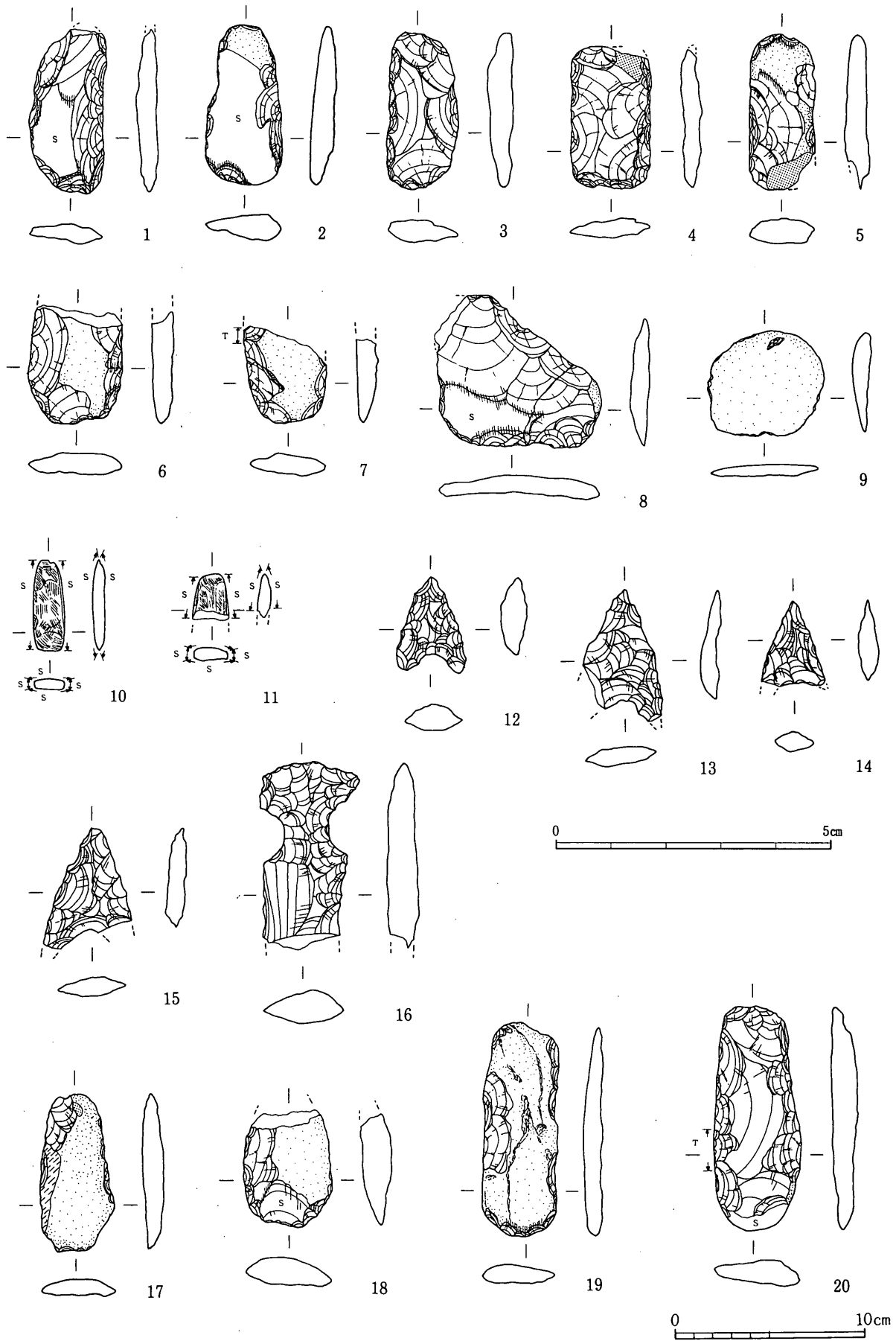
第53圖 出土遺物 1~6 遺構外



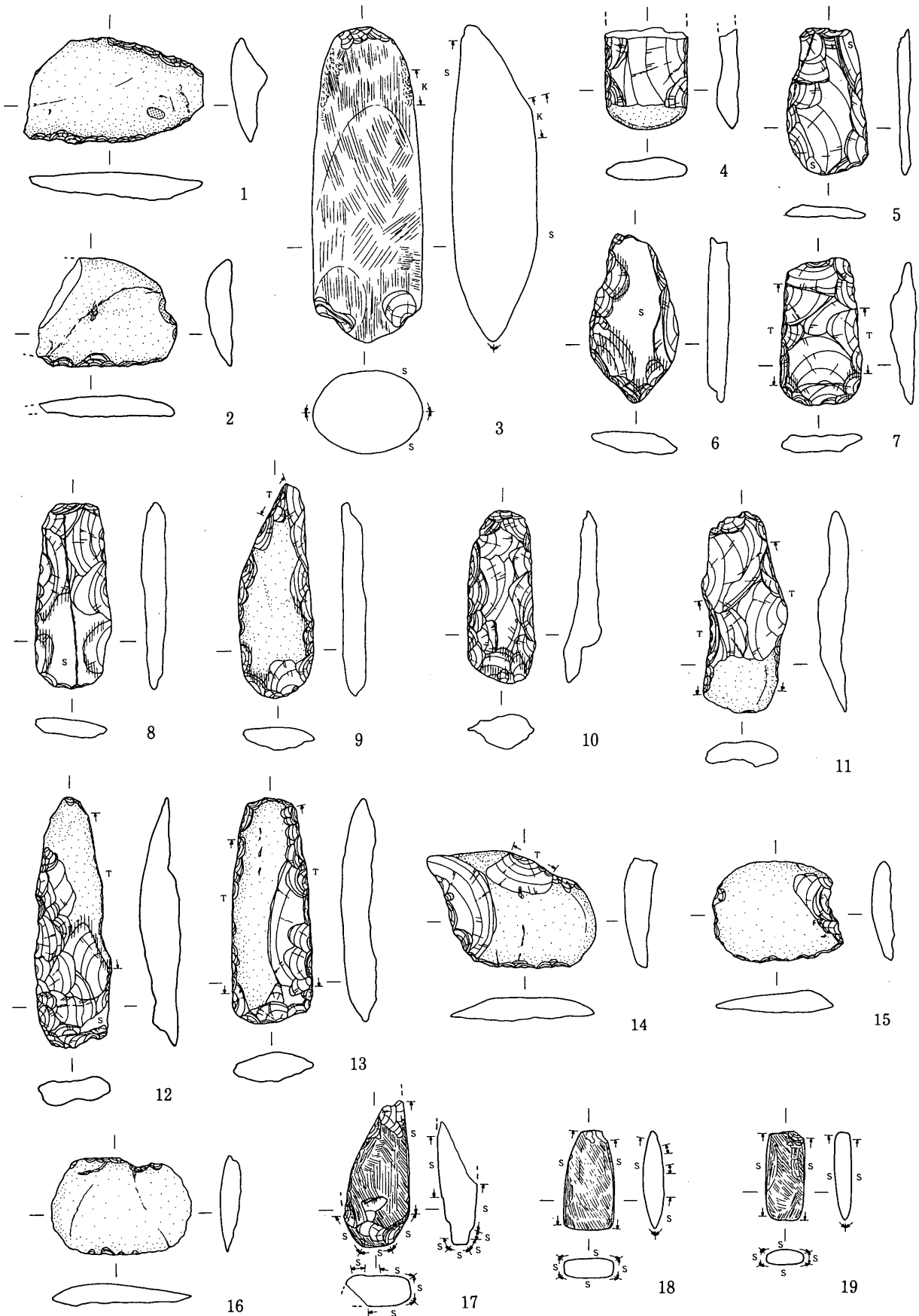


第54図 出土遺物

1~5	SB11	12	SB25	15	遺構外
6~8	SB18	13	SB14		
9~11	SB20	14	SB15		

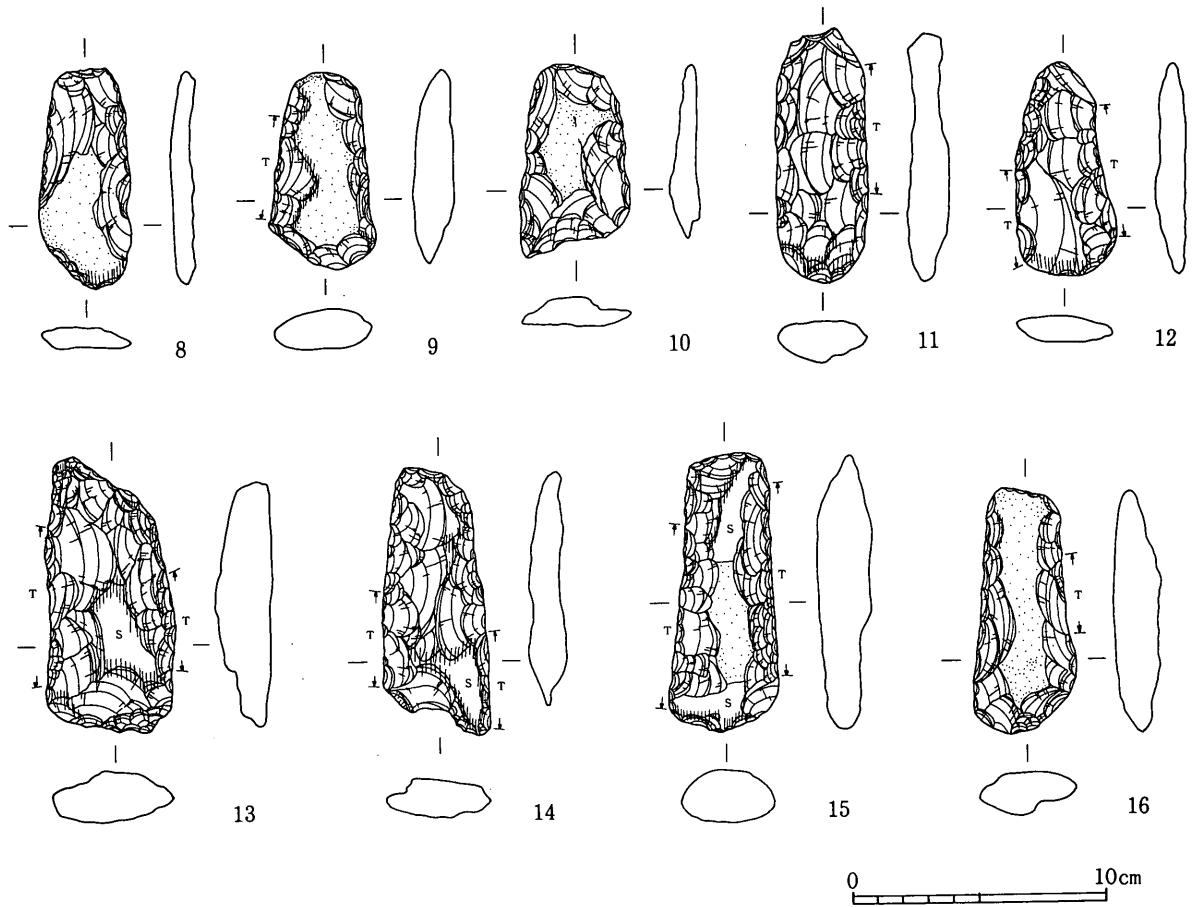
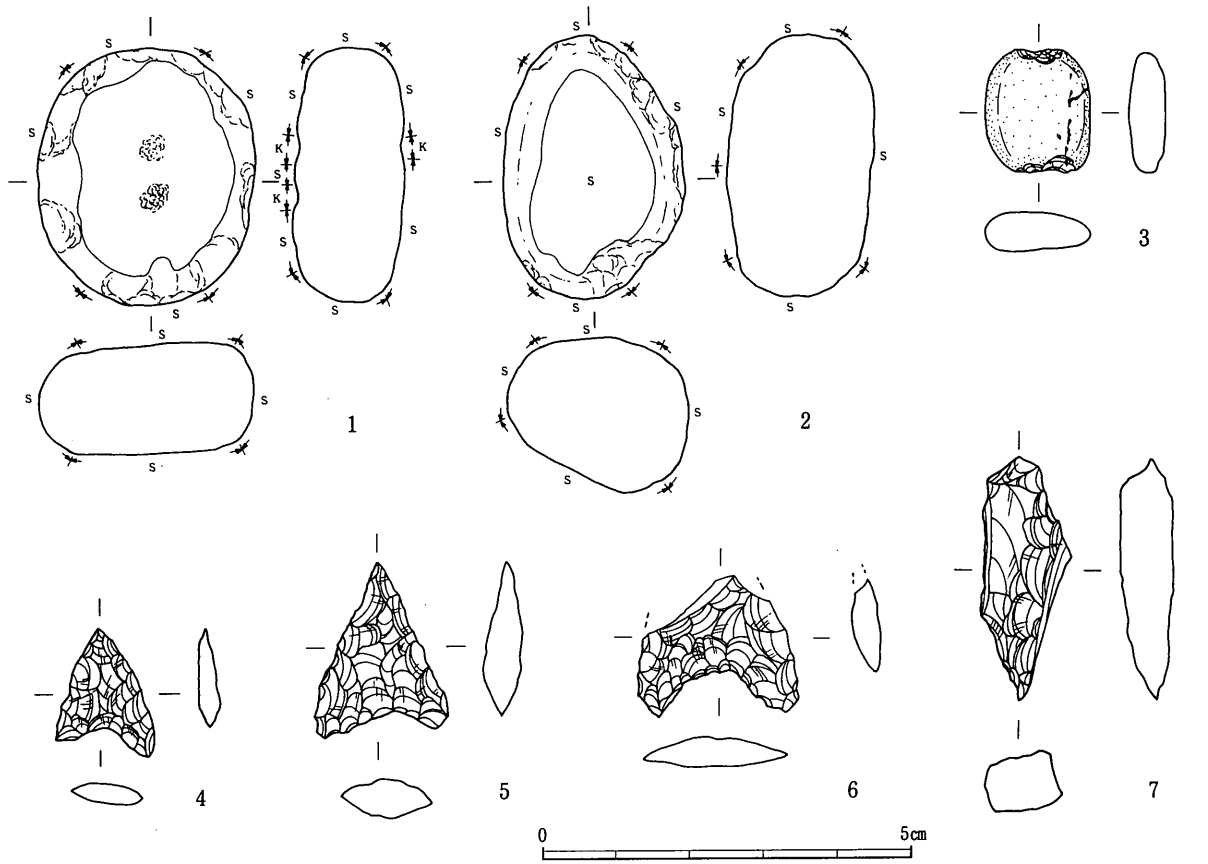


第55図 出土遺物 1~16 S B07  
17~20 S B08

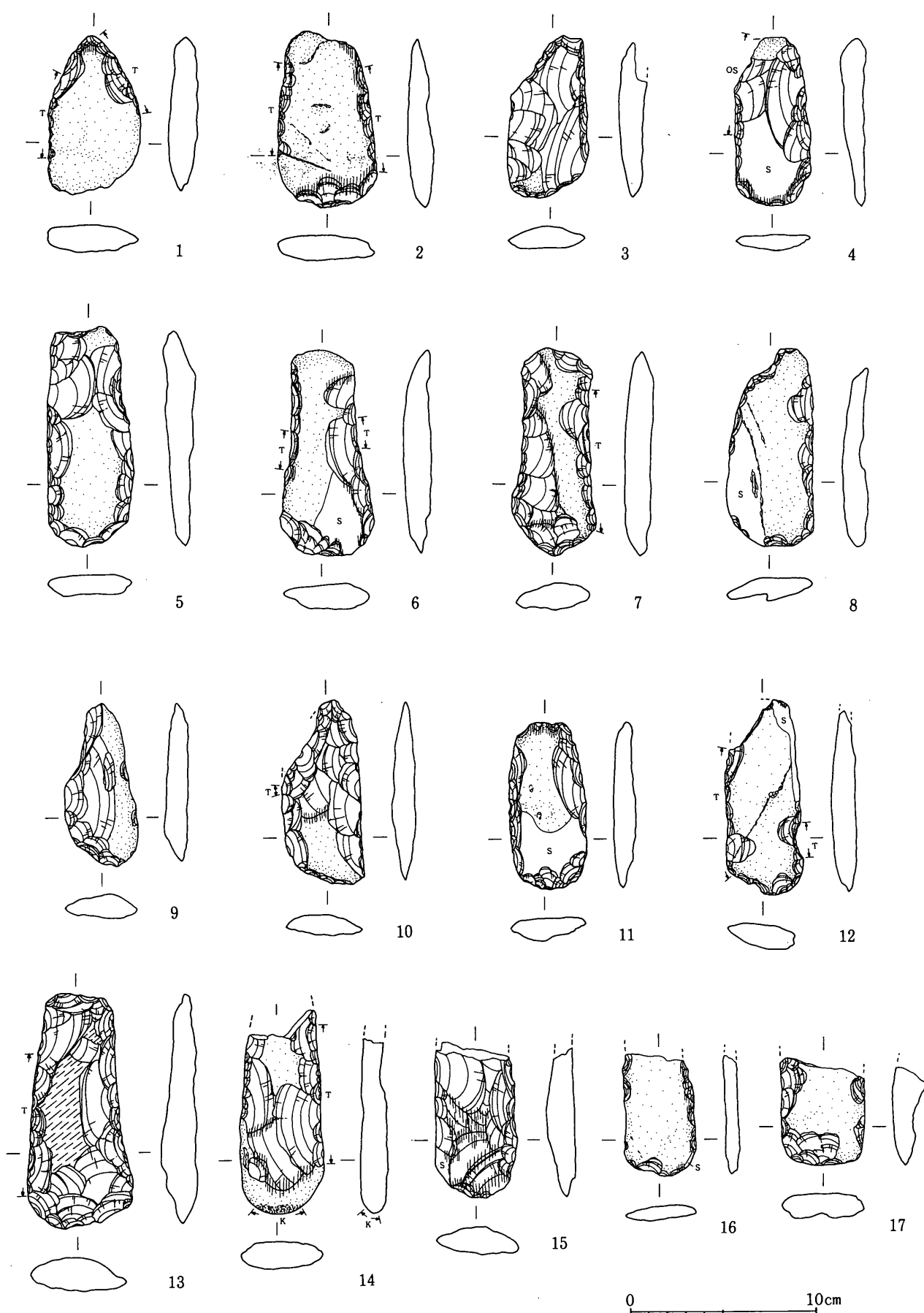


0 10 cm

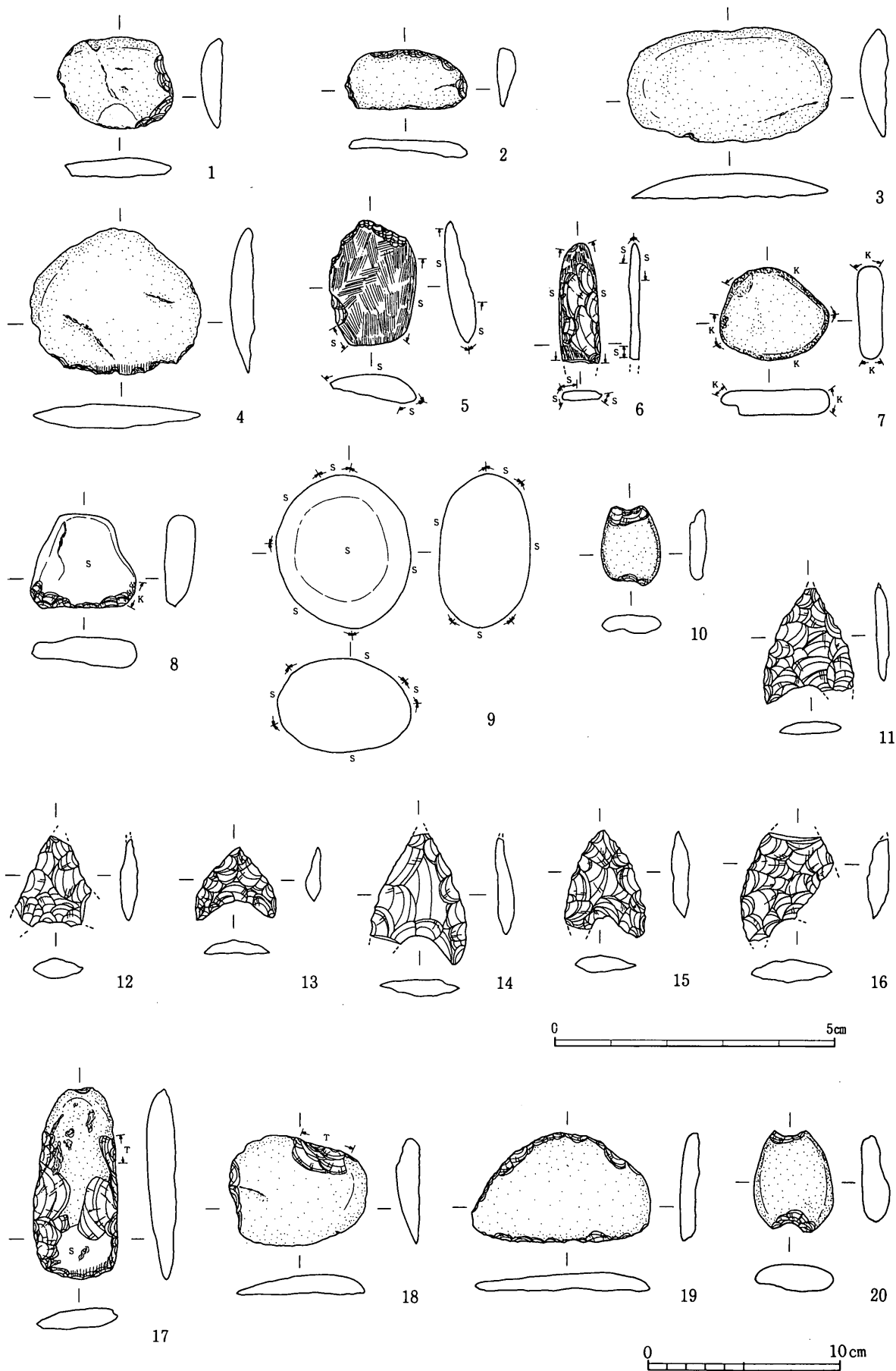
第56図 出土遺物 1~3 SB08 4 SB09 5~19 SB10



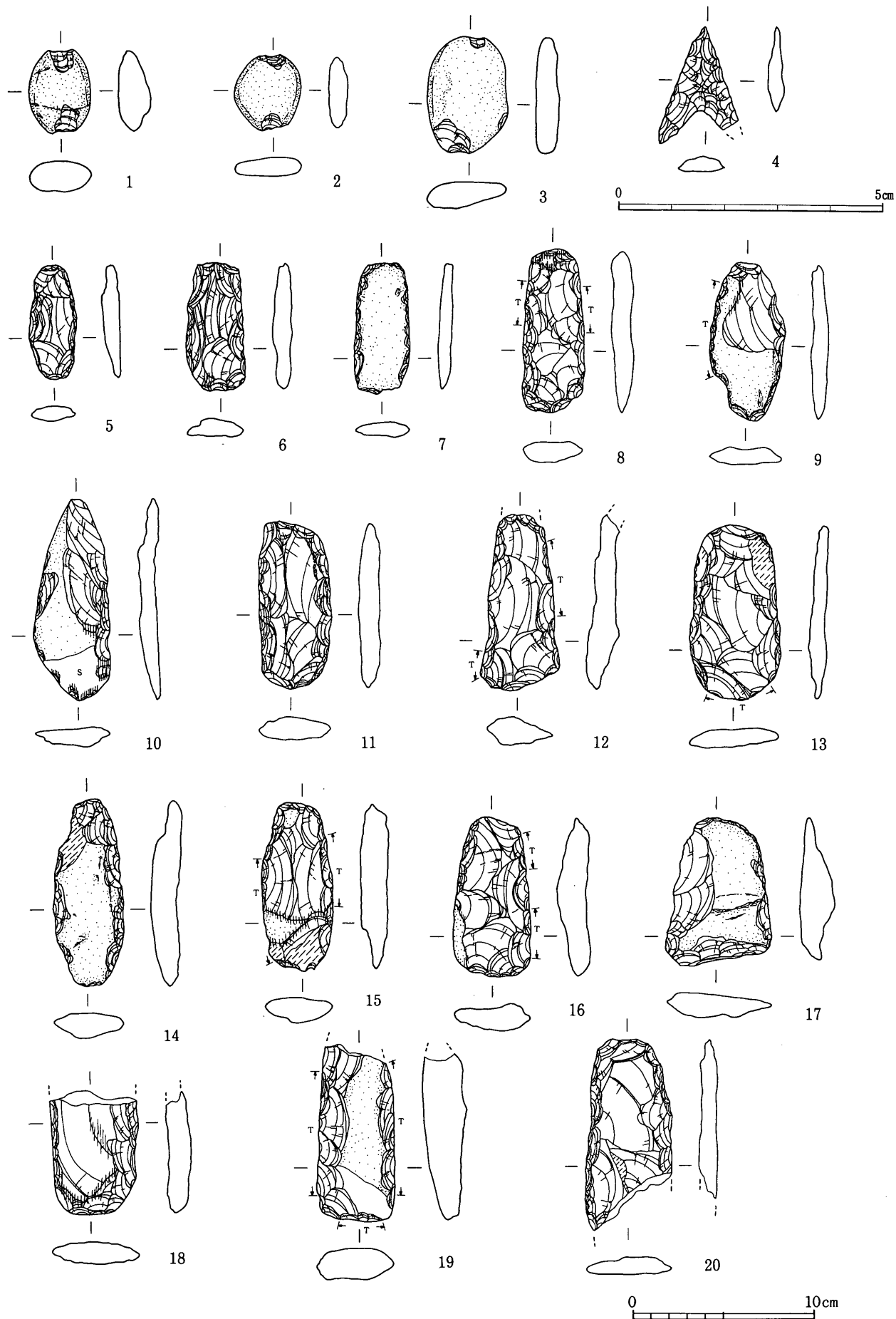
第57図 出土遺物 1~7 SB10  
8~16 SB11



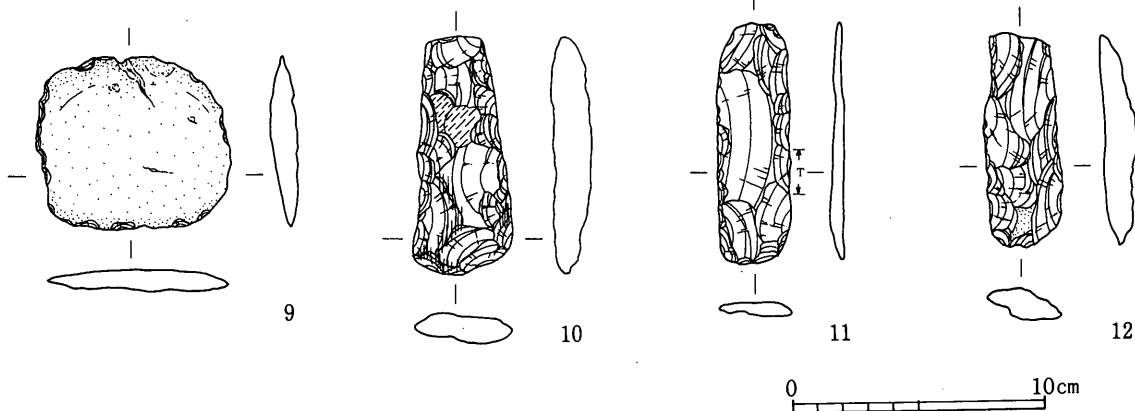
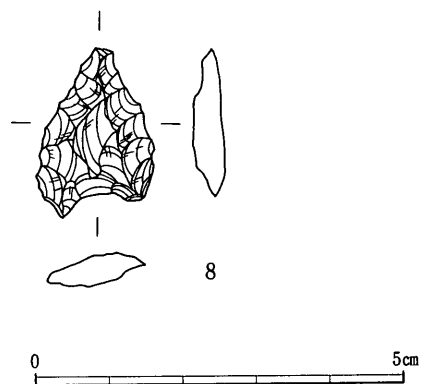
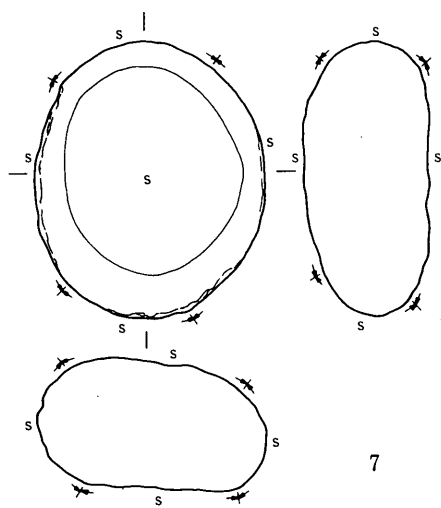
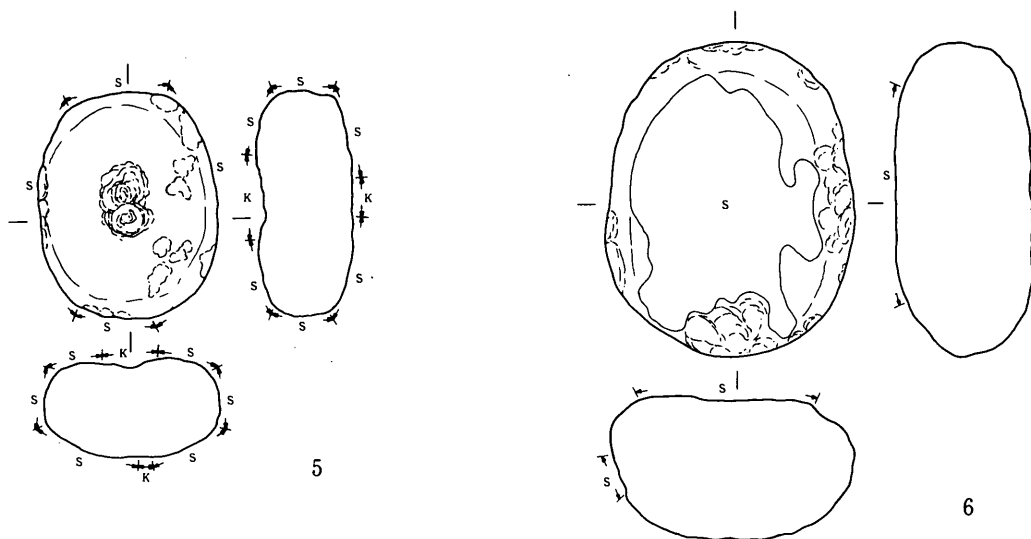
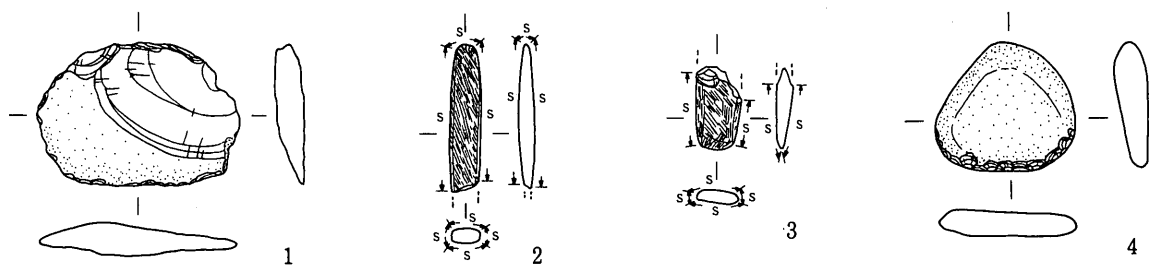
第58図 出土遺物 1~17 SB11



第59図 出土遺物 1~16 SB11 19 SB12・13  
17・18 SB12 20 SB13

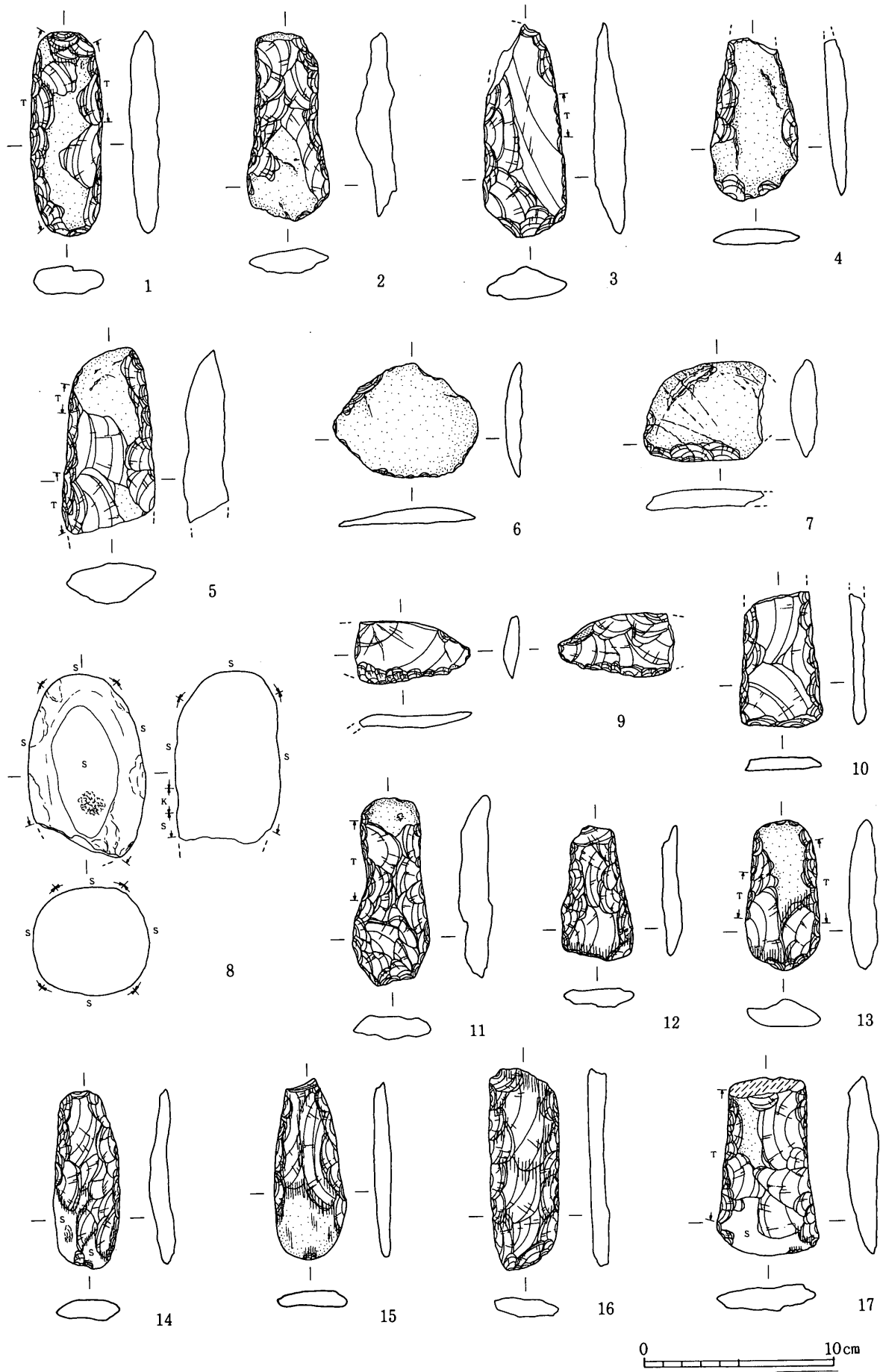


第60図 出土遺物 1~3 SB12・13 5~20 SB18  
4 SB13

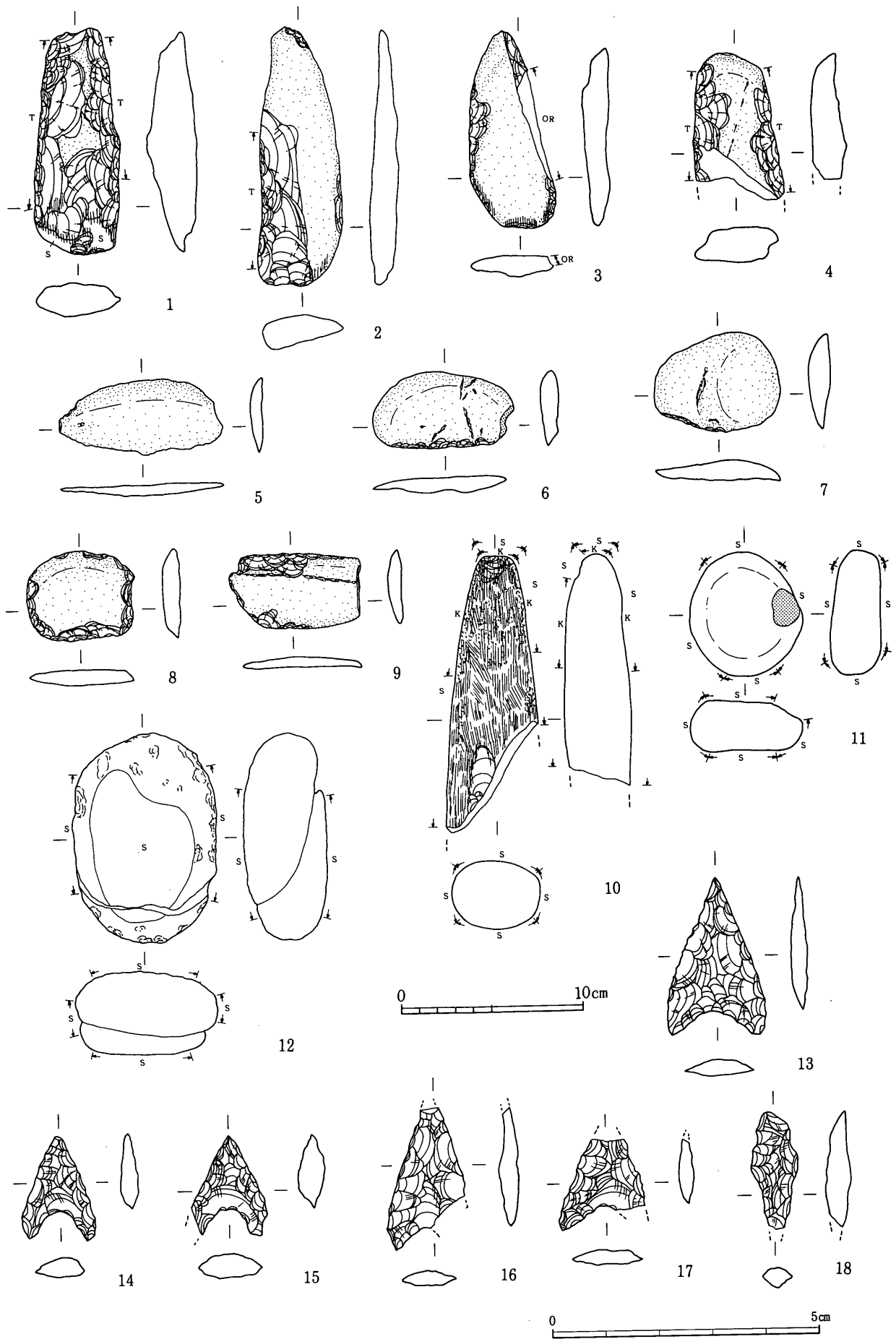


第 61 図 出土遺物 1~8 SB18 10~12 SB20  
9 SB19

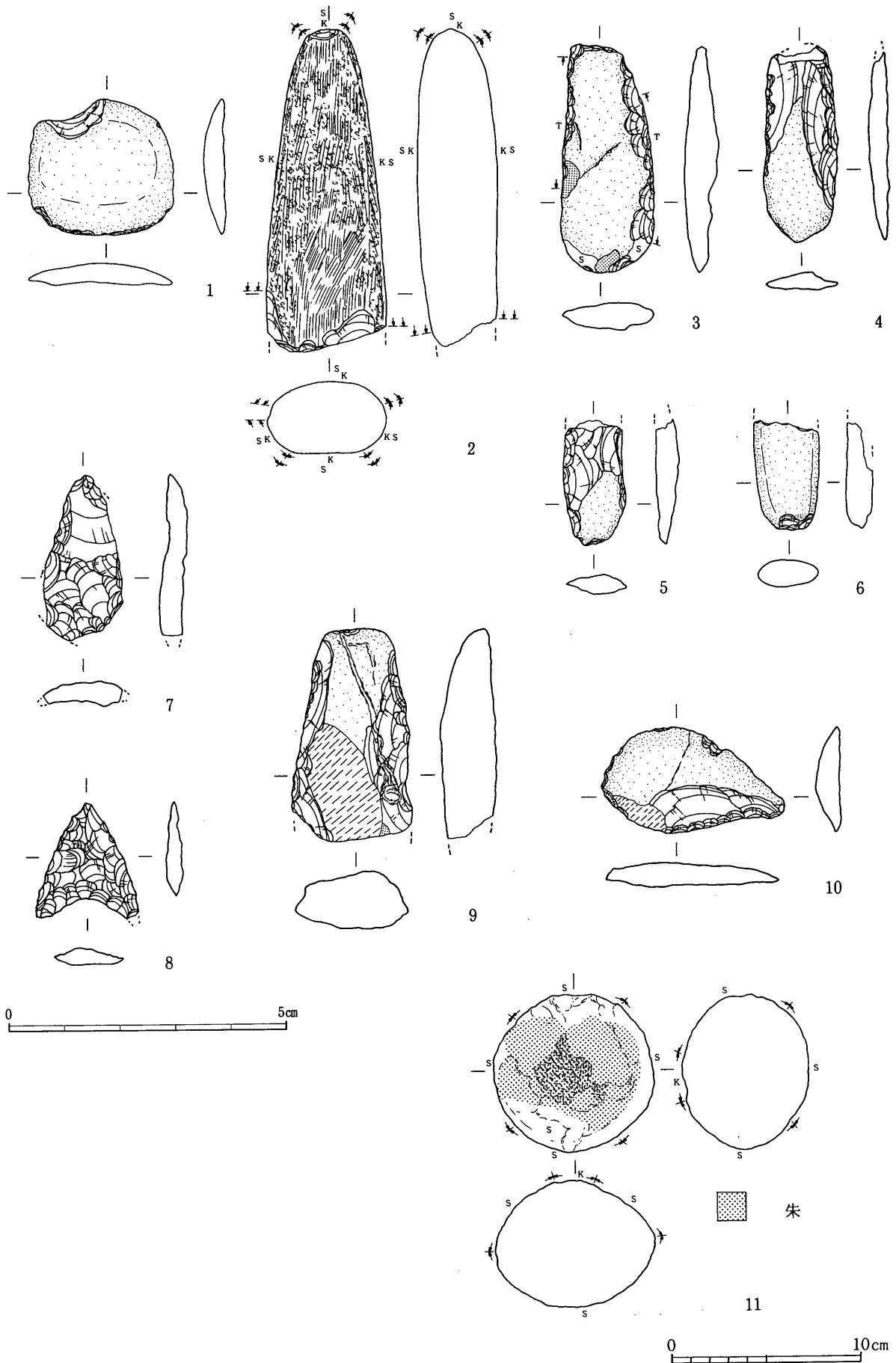




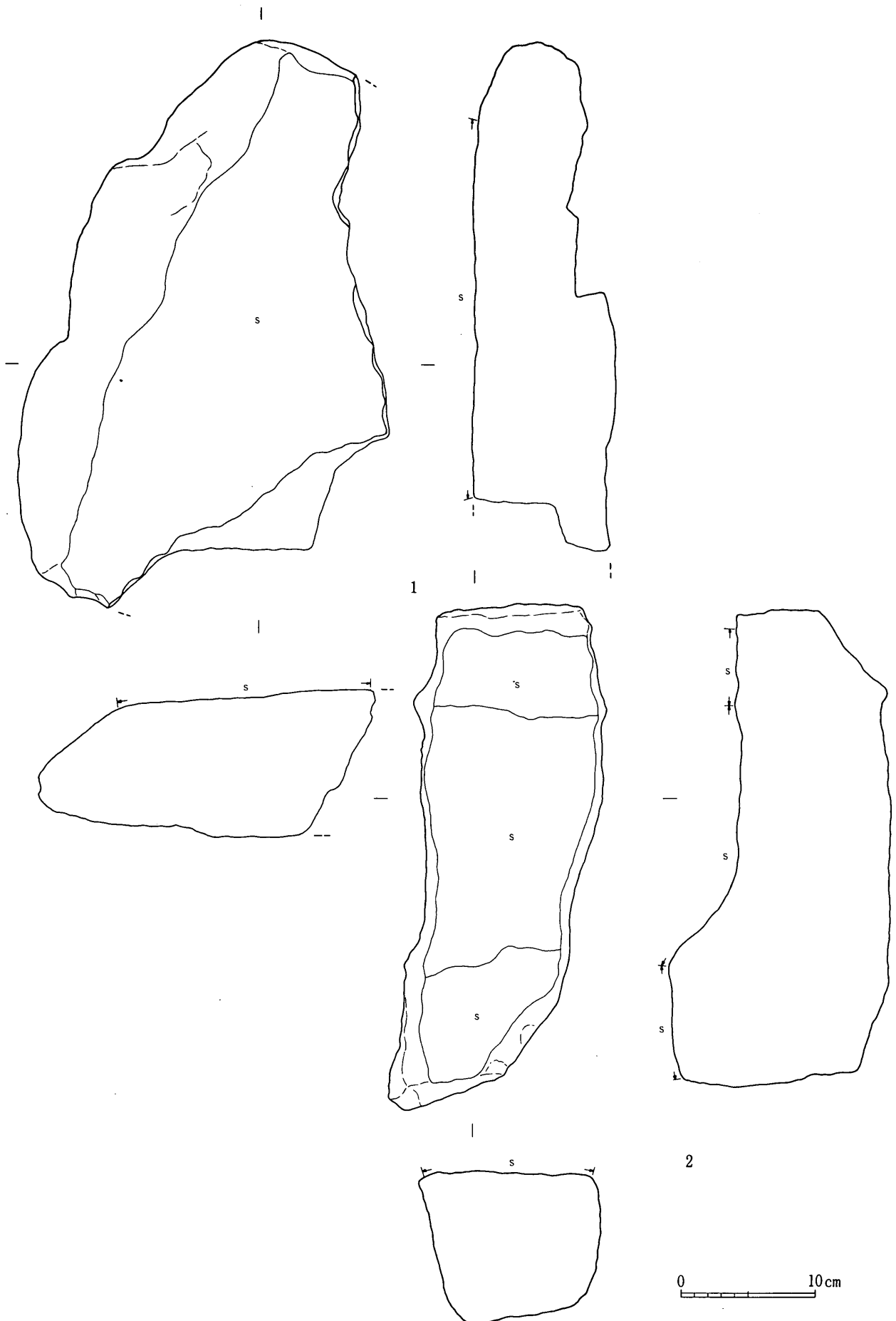
第62図 出土遺物 1~9 SB20 11~17 SB25  
10 SB24



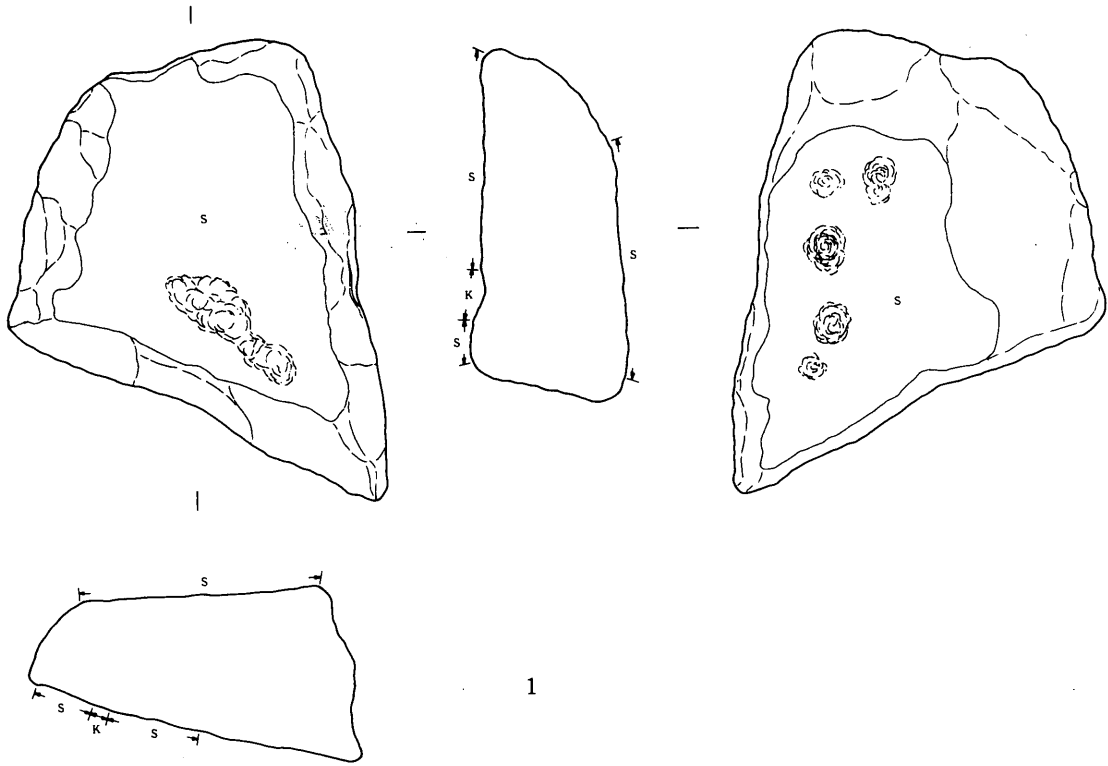
第63图 出土遺物 1~18 SB25



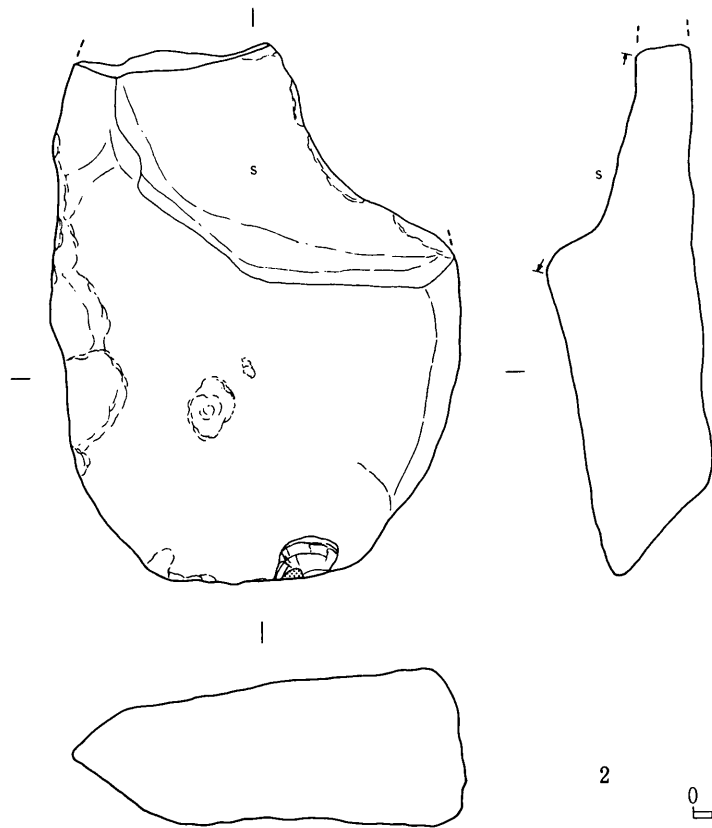
第64図 出土遺物 1・2 SB15 9~11 SB23  
3~8 SB21



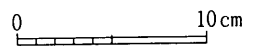
第65図 出土遺物 1・2 S B08



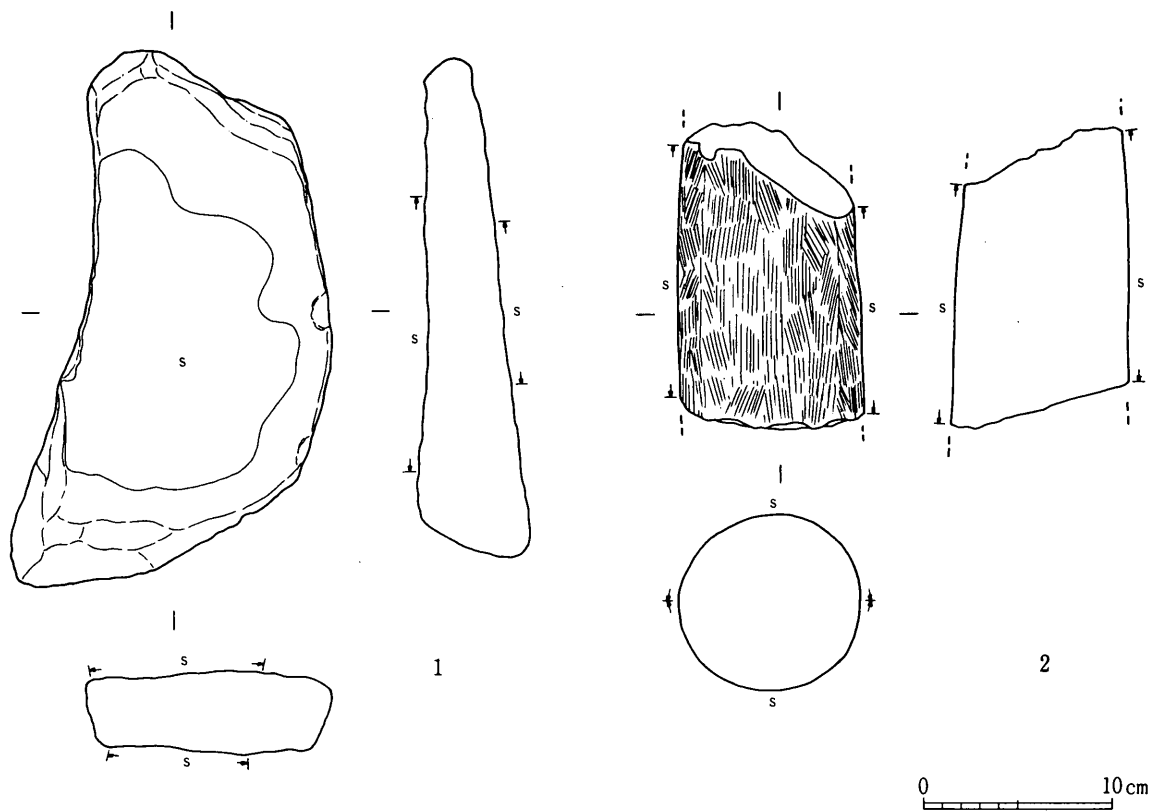
1



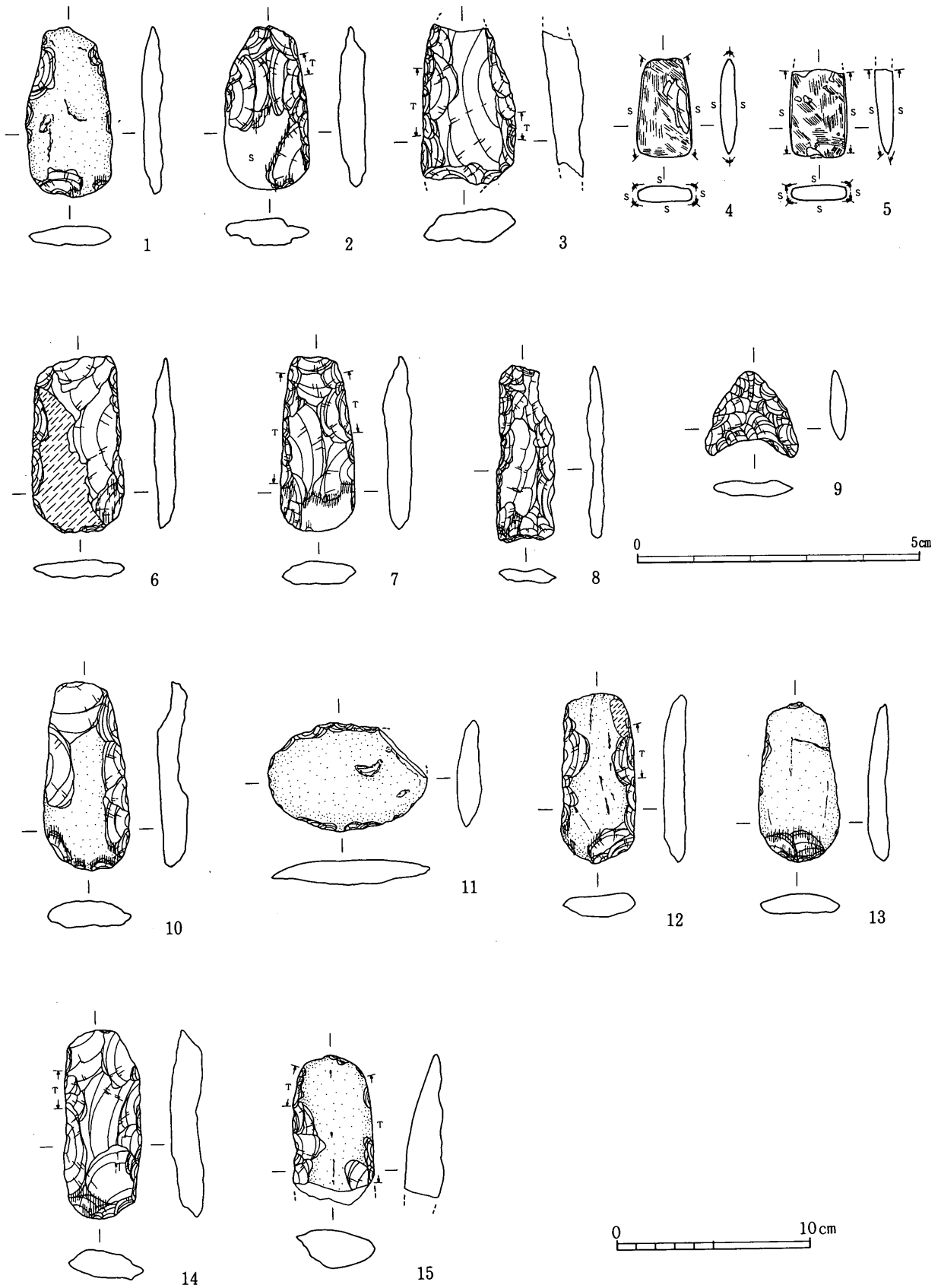
2



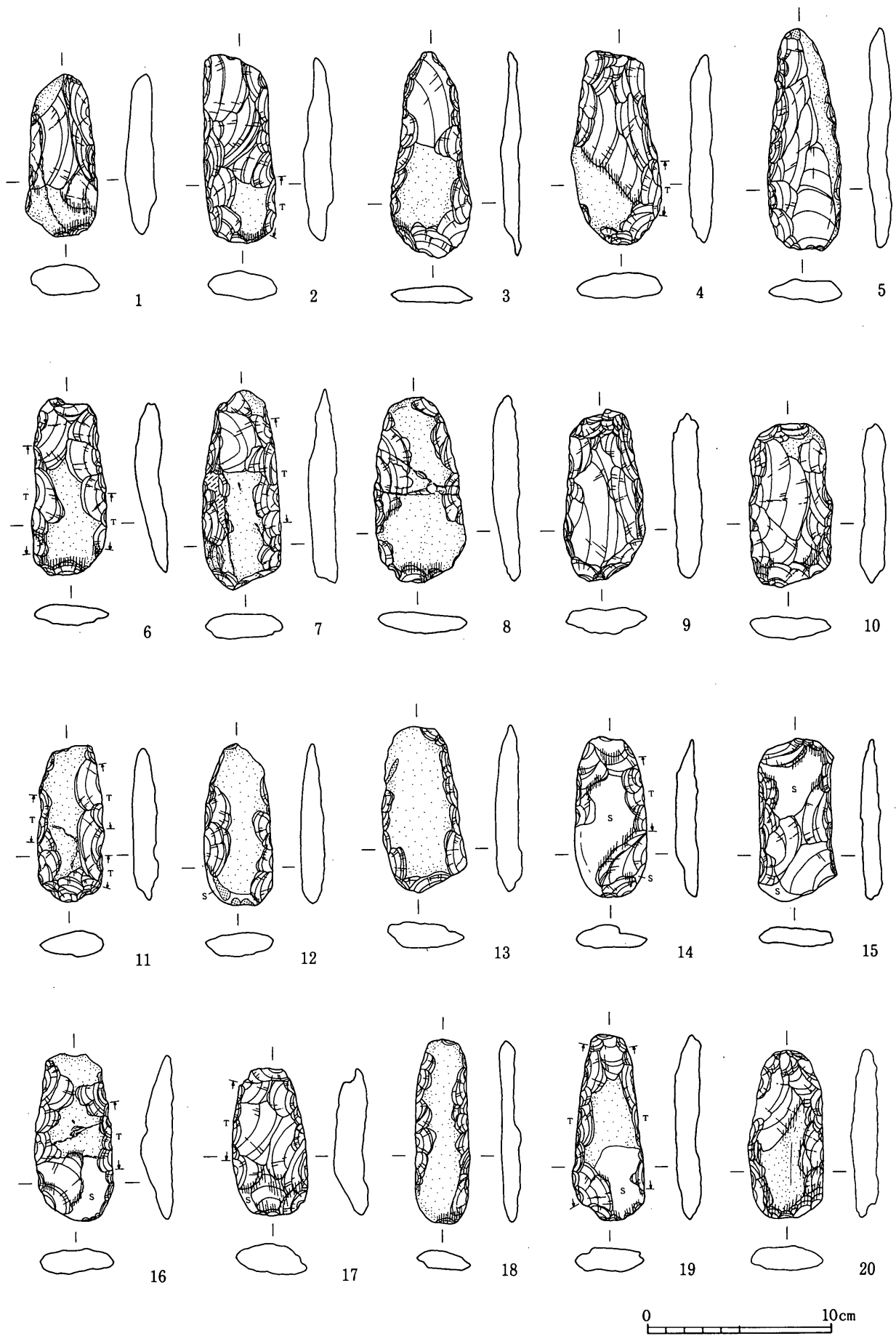
第66図 出土遺物 1 SB08  
2 SB11



第67図 出土遺物 1・2 SB18

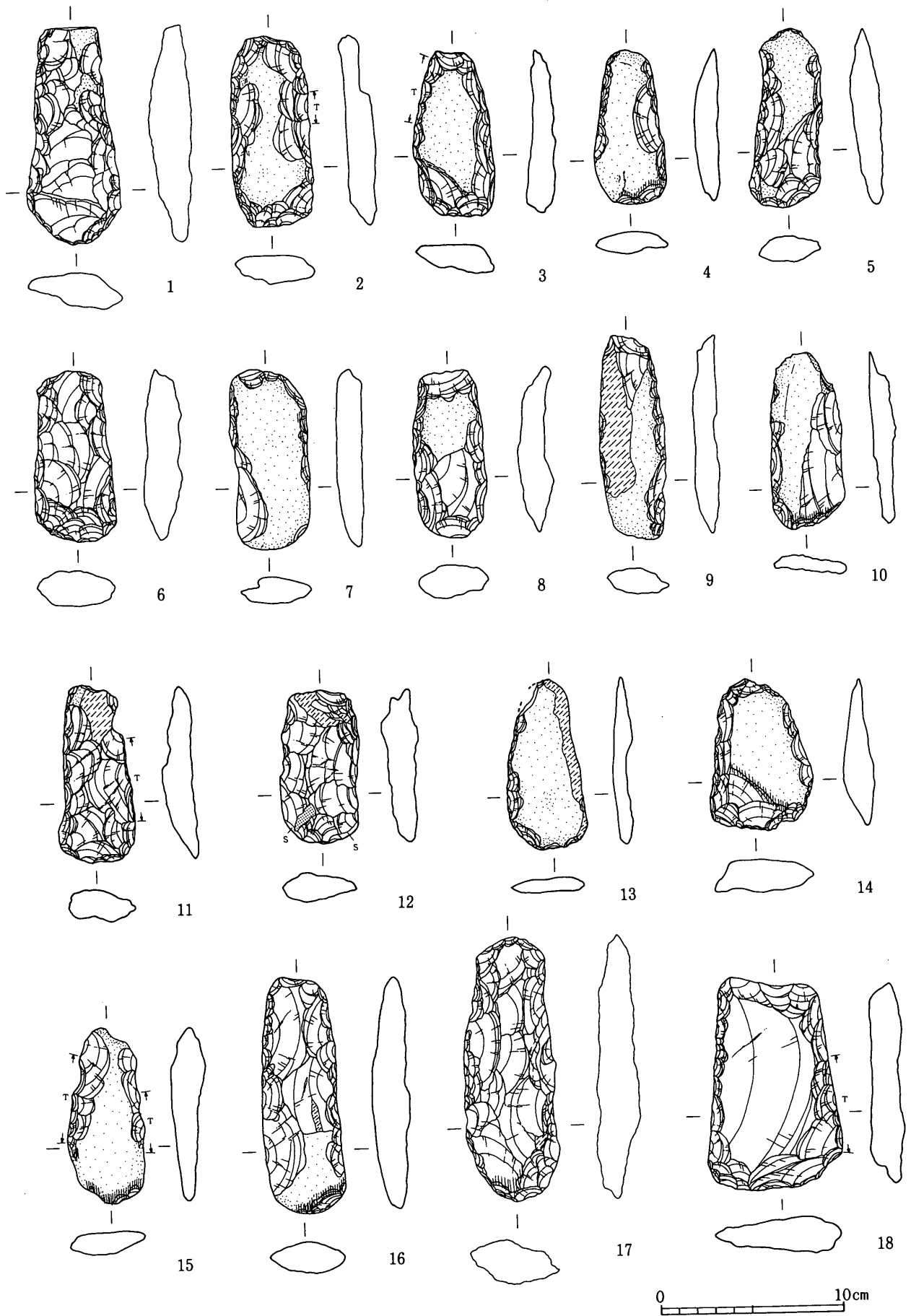


第68図 出土遺物 1・2 ST01 5 SK158 7 SK174 10 SK192  
 3・4 SK151 6 SK165 8・9 SK180 11~14 SK194

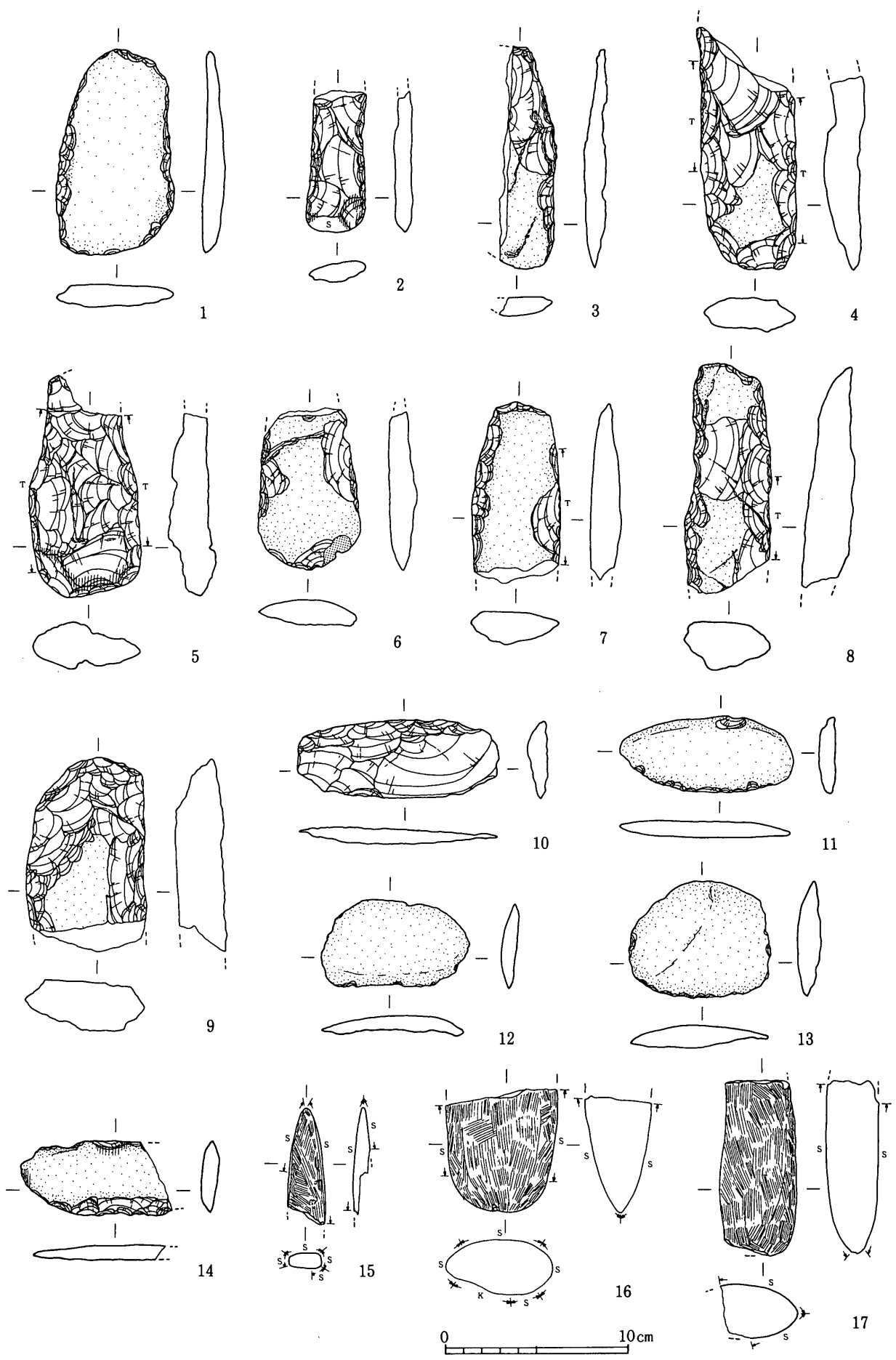


第69図 出土遺物 1~20 遺構外

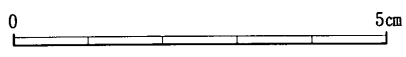
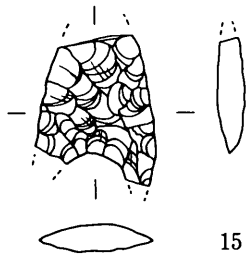
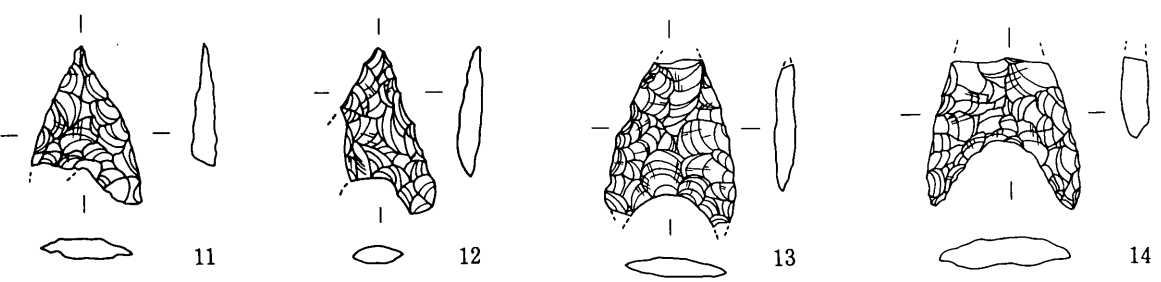
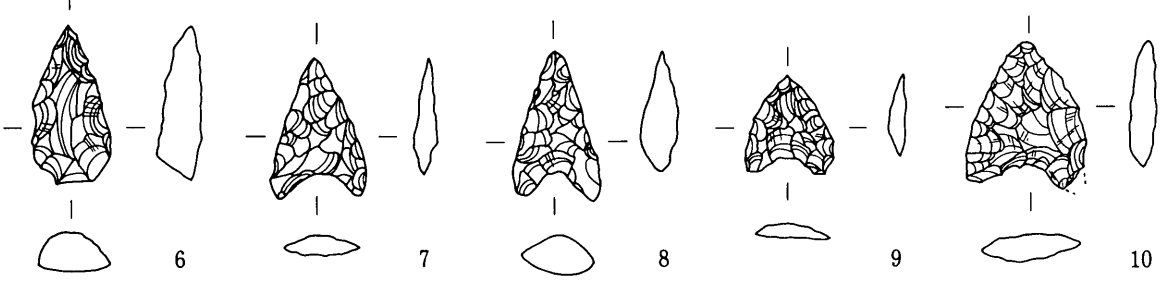
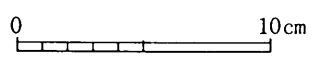
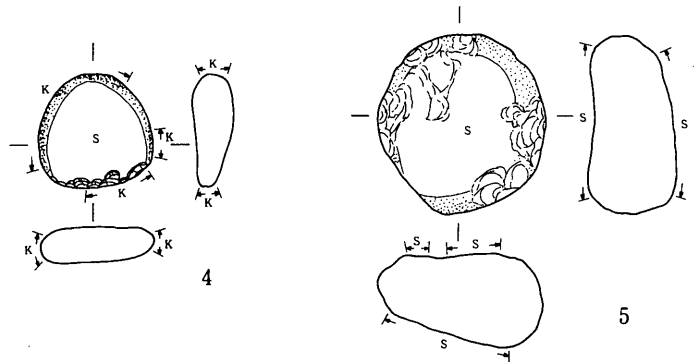
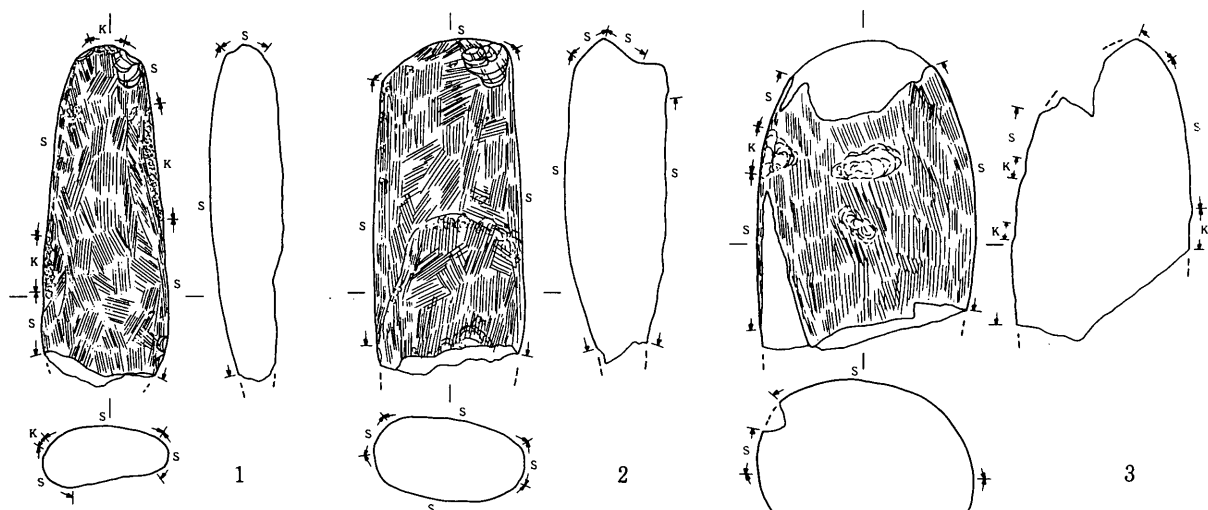




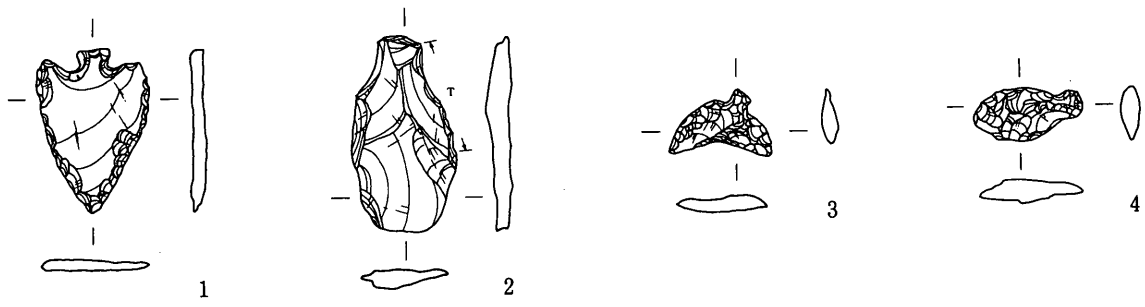
第70図 出土遺物 1~18 遺構外



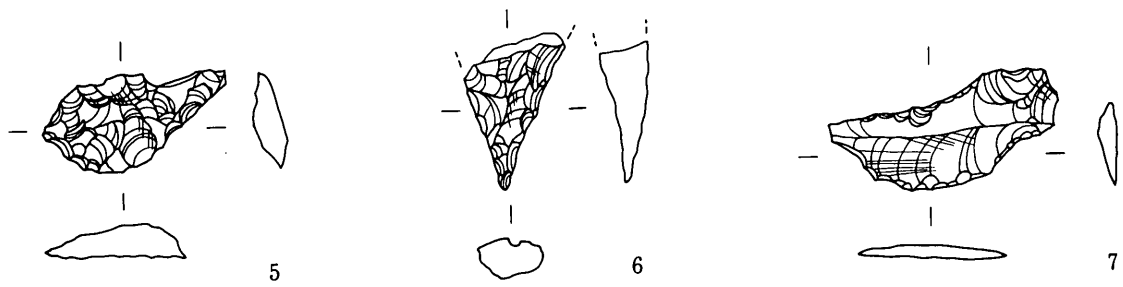
第71図 出土遺物 1~17 遺構外



第72図 出土遺物 1~15 遺構外



0 10cm



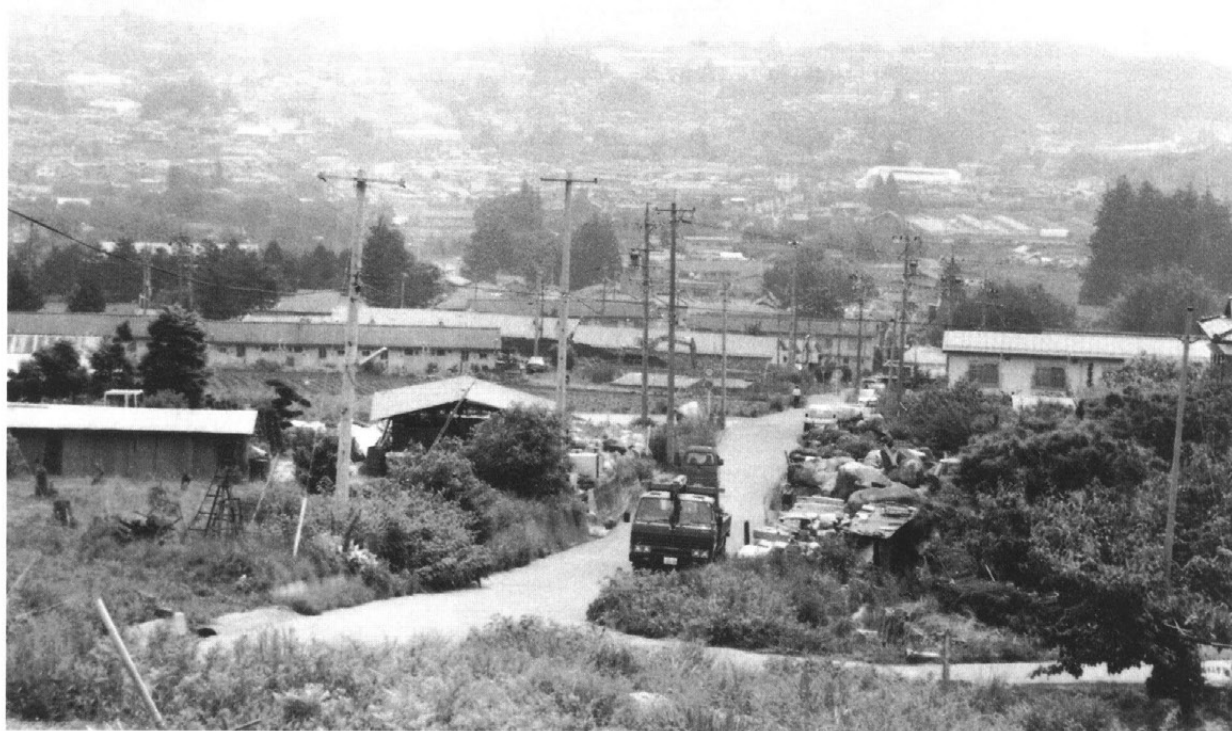
0 5cm

第73図 出土遺物 1~7 遺構外



# 写真図版





調査前



調査前





調査区全景



調査区全景



調査区 (部分)

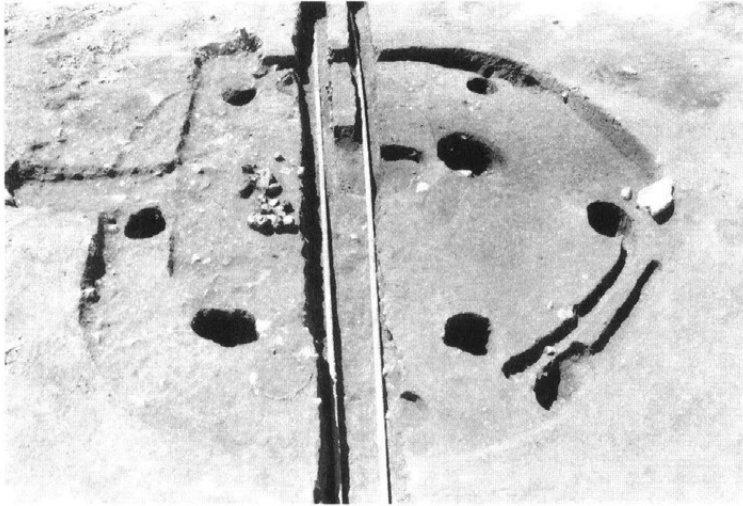


調査区 (部分)



調査区 (部分)

图版 4



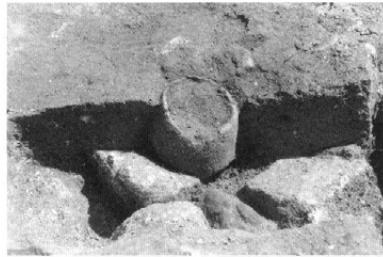
SB 07



SB 07 炉址



SB 07 埋甕 1



SB 07 埋甕 2



SB 07 遺物出土狀況



SB 08



SB 08 炉址



SB 07 副炉址



SB09



SB09 炉址



SB10



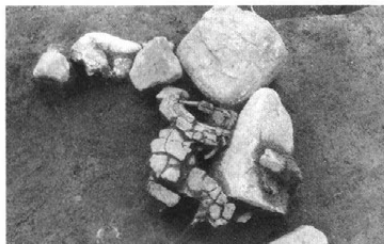
SB10 炉址



SB10 旧炉址



SB10 埋甕



SB10 遺物出土狀況



SB10 遺物出土狀況





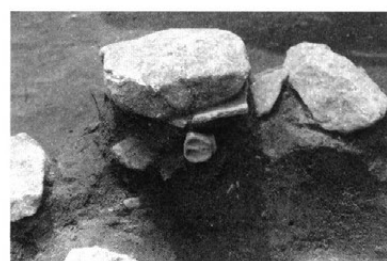
SB 11



SB 11 炉址



SB 11 遺物出土状況



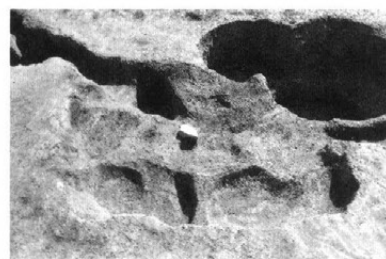
SB 11 遺物出土状況



SB 12・13



SB 12 炉址



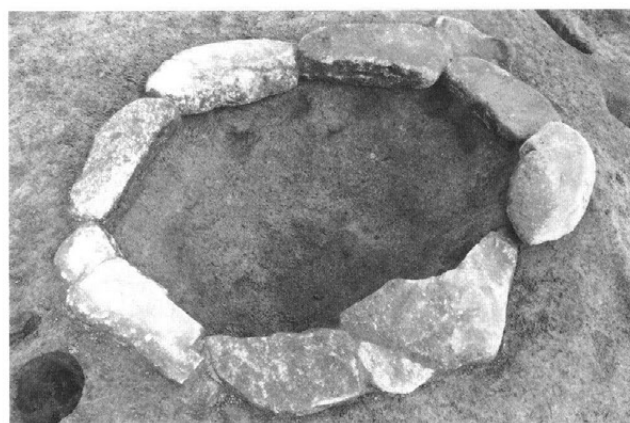
SB 13 炉址



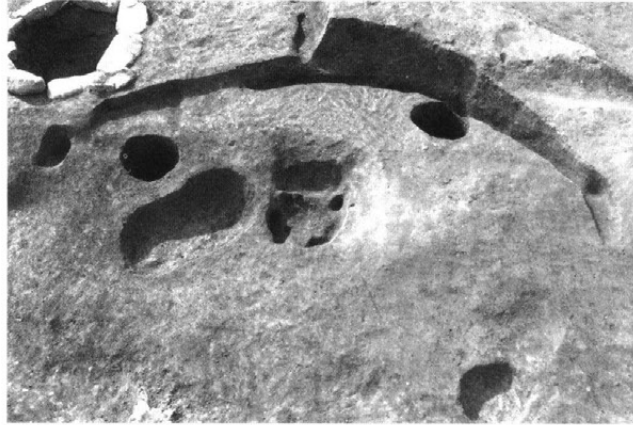
SB17



SB18



SB18 炉



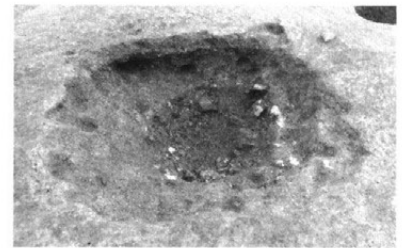
SB 19



SB 19 炉址



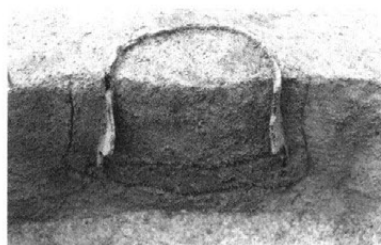
SB 20



SB 20 炉址



SB 20 埋甕



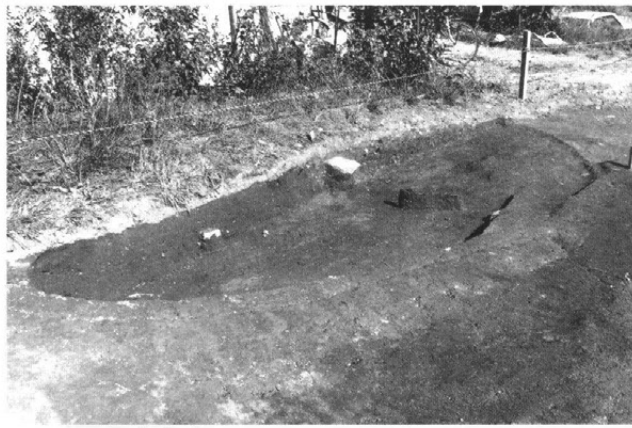
SB 20 埋甕セクション



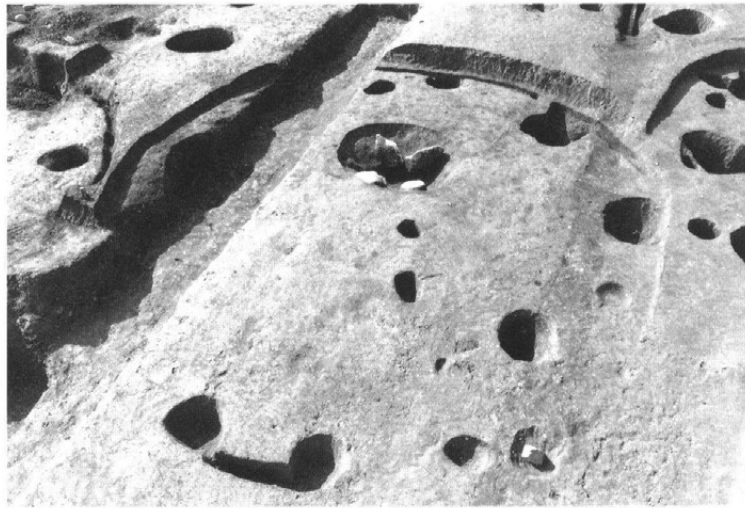
SB 20 遺物出土状況



S B 2 4



S B 2 4 炭化物分布状况



S B 2 5

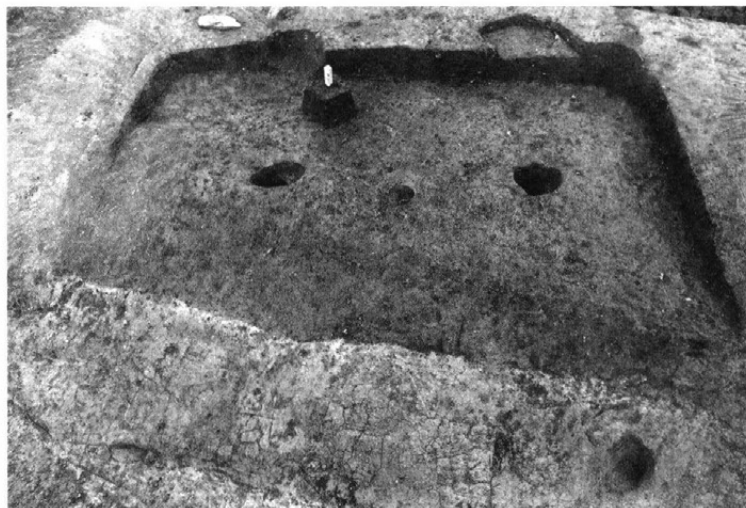


S B 2 5 炉址



S B 2 5 遺物出土状况

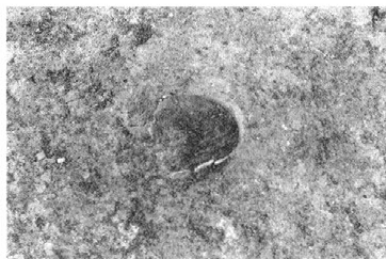




SB 14



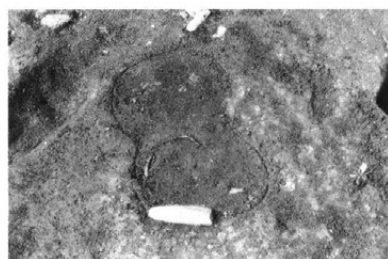
SB 14 磔分布状况



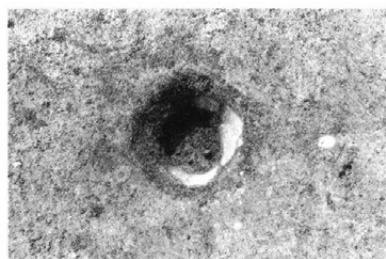
SB 14 炉址



SB 15



SB 15 炉址



SB 15 贴床下炉址



SB 2 1



SB 2 1 炉址



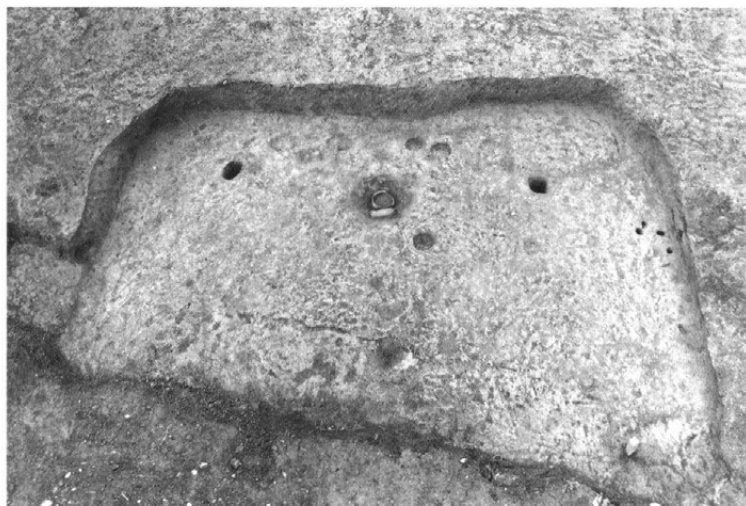
SB 2 1 礫分布状况



SB 2 2



SB 2 2 炉址



S B 2 3



S B 2 3 炉址



S B 2 3 炭化物・礫分布状況



S T 0 1



S T 0 1



SK群



トレンチ全景





遺跡見学会スナップ



遺跡見学会スナップ



調査スナップ

調査スナップ



調査スナップ



作業員一同





重機作業スナップ



重機作業スナップ



重機作業スナップ



SB07



SB08



SB10



SB10



SB10



SB10

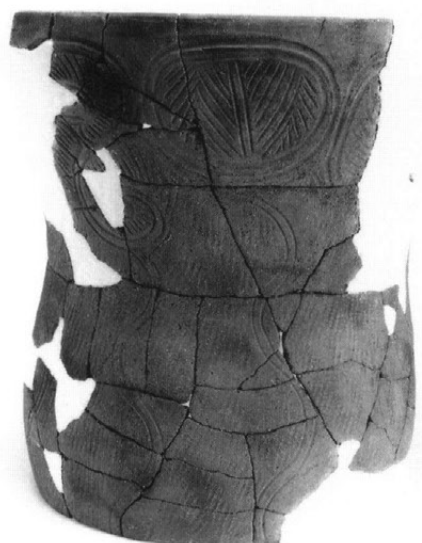




SB 11



SB 11



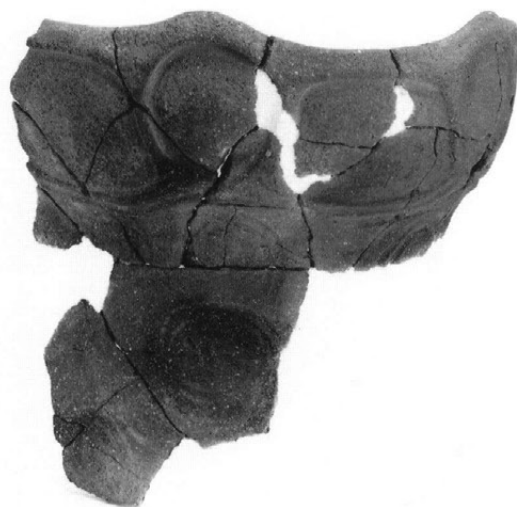
SB 11



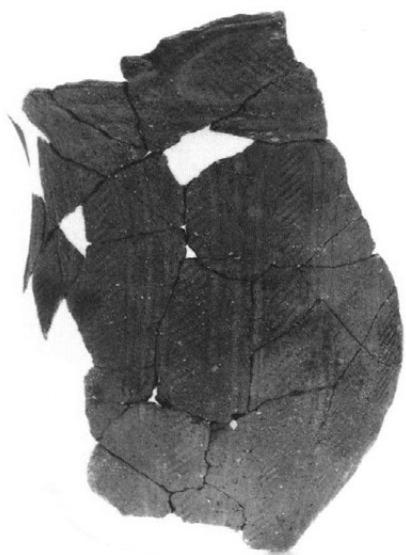
SB 11



SB 11



SB 17



SB 18



SB 20



SB 20



SB 14



SB 14



SB 15



SB 2 1



SB 2 2



SB 2 2



SB 2 3



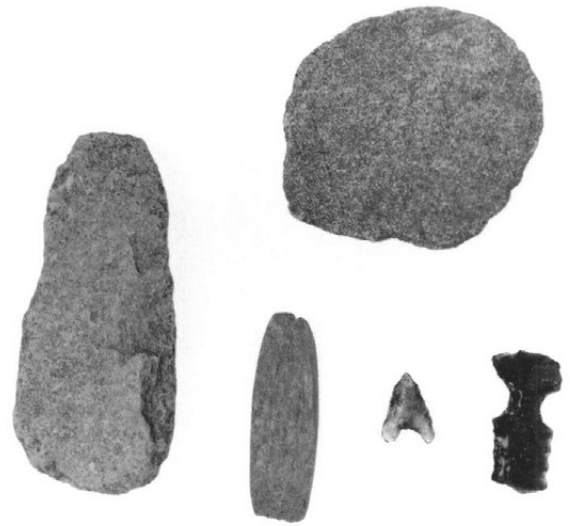
遺構外



SB 1 1



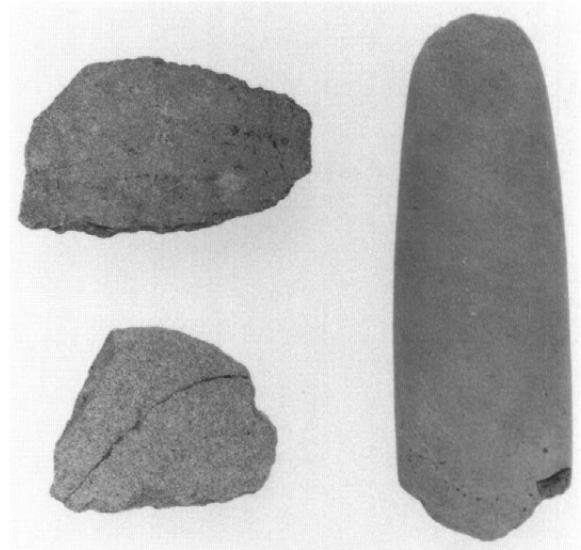
遺構外



SB 0 7



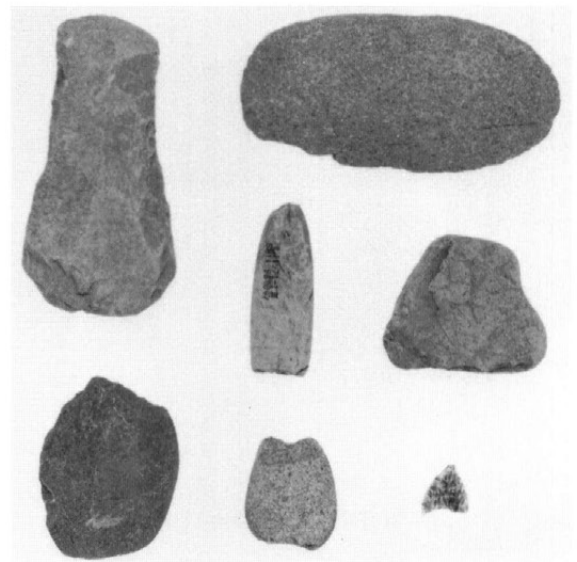
SB 0 8



SB 0 8



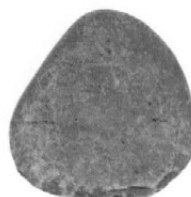
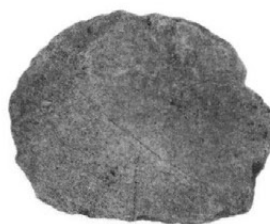
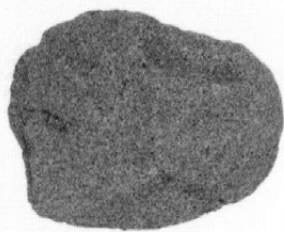
SB 1 0



SB 1 1



SB 12



SB 18



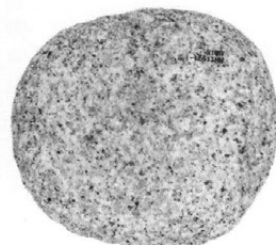
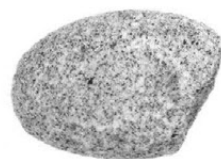
SB 20



SB 25



SB 25



SB 出土磨石

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みひろいしいせき さん							
書 名	三尋石遺跡 III							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	吉川 金利							
編 集 機 関	長野県飯田市教育委員会							
所 在 地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-(53)-4545							
発行年月日	西暦1999年3月26日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調 査 期 間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号				m <sup>2</sup>	
みひろいし 三尋石遺跡	いいだしおおせぎ 飯田市大瀬木 1971-1	2053	250 伊21	35° 29' 50"	37° 47' 10"	平成8年6月11日 から 平成8年10月29日	2950	公営団地建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特 記 事 項		
三尋石遺跡	集落址	縄文時代中期	竪穴住居址 14 掘立柱建物址 1 土坑		縄文土器 縄文石器	縄文時代中期後葉の集落の一部を調査		
		弥生時代後期	竪穴住居址 5		弥生土器 弥生石器	高地に於ける弥生時代後期の集落のひとつ		

# 三尋石遺跡 III

調査報告書

1999年3月発行

印刷・発行 長野県飯田市上郷 3145 番地

長野県飯田市教育委員会

印刷 飯田共同印刷株式会社



